

## 資料

### 系列別主要劇場

劇場名	席数	仕様	劇場名	席数	仕様
<b>伝統演劇系列</b>					
国立劇場(大)	1,616	【大】	シアタークリエ	611	【中】
国立劇場(小)	526	【中】	三越劇場	543	【中】
国立文楽劇場	731~753	【中】	サンシャイン劇場	832	【中】
国立能楽堂	627	【中】	シアターコクーン	747	【中】
国立劇場おきなわ	578~632	【中】	PARCO劇場	636	【中】
歌舞伎座	1,808	【大】	天王洲銀河劇場	746	【中】
			東京グローブ座	595~713	【中】
			スペース・ゼロ	575	【中】
			シアター・ドラマシティ	898	【中】
<b>大劇場演劇系列</b>			<b>現代演劇系列Ⅲ</b>		
新橋演舞場	1,428	【大】	紀伊國屋ホール	418	【小】
明治座	1,368	【大】	紀伊國屋サザンシアター	468	【小】
THEATER MILANO-Za	907	【大】	博品館劇場	381	【小】
御園座	1,299	【大】	俳優座劇場	300	【小】
京都南座	1,086	【大】	両国シアターX	172~300	【小】
大阪松竹座	1,090	【大】	本多劇場	386	【小】
大阪新歌舞伎座	1,453~1,529	【大】	ザ・スズナリ	200	【小】
梅田芸術劇場 メインホール	1,905	【大】	下北沢駅前劇場	200	【小】
博多座	1,392~1,474	【大】	OFF・OFFシアター	100	【小】
			下北沢「劇」小劇場	130	【小】
<b>現代演劇系列Ⅰ(国公立系)</b>			シアター・モリエール	186	【小】
新国立劇場(中)	1,010~1,038	【大】	シアター・サンモール	294	【小】
新国立劇場(小)	416~468	【小】	こまばアゴラ劇場	60~130	【小】
東京芸術劇場 プレイハウス	834	【中】	吉祥寺シアター	189	【小】
東京芸術劇場 シアターイースト	286	【小】	THEATRE E9 KYOTO	89	【小】
東京芸術劇場 シアターウエスト	259	【小】	近鉄アート館	322	【小】
東京建物Brillia HALL	1,300	【大】			
世田谷パブリックシアター	600	【中】	<b>ミュージカル演劇系列</b>		
シアタートラム	240	【小】	TBS赤坂ACTシアター	1,324	【大】
彩の国さいたま芸術劇場(大)	776	【中】	日生劇場	1,330	【大】
彩の国さいたま芸術劇場(小)	346	【小】	帝国劇場	1,826	【大】
ピッコロシアター(大)	396	【小】	東急シアターオーブ	1,972	【大】
兵庫県立芸術文化センター(大)	2,141	【大】	宝塚大劇場	2,550	【大】
兵庫県立芸術文化センター(中)	800	【中】	東京宝塚劇場	2,065	【大】
あうるすぽっと	301	【小】	宝塚バウホール	526	【中】
座・高門寺1	238	【小】	四季劇場「春」	約1,500	【大】
座・高門寺2	256~298	【小】	四季劇場「秋」	約1,200	【大】
神奈川芸術劇場 ホール	1,300	【大】	電通四季劇場「海」	約1,200	【大】
まつもと市民芸術館(主)	1,800	【大】	有明四季劇場	約1,200	【大】
穂の国とよはし芸術劇場	778	【中】	自由劇場	約500	【中】
新潟市民芸術文化会館	868	【中】	大阪四季劇場	約1,200	【大】
ロームシアター(メイン)	2,003	【大】	チャンネルシティ劇場	1,144	【大】
北九州芸術劇場(大)	1,269	【大】	名古屋四季劇場	約1,200	【大】
			東1丁目劇場施設	994	【大】
<b>現代演劇系列Ⅱ</b>					
京都芸術劇場 春秋座	833~950	【中】			

上の内、大劇場は900席以上、中劇場は899~500席、小劇場は499席以下という基準で規定した。各流能楽堂、新国立劇場(大)、東京芸術劇場(大)、オーチャードホール、日本青年館は除いた。

※(公社)日本演劇興行協会所属劇場：歌舞伎座 新橋演舞場 明治座 御園座 南座 松竹座

新歌舞伎座 梅田芸術劇場 博多座 シアタークリエ サンシャイン劇場 帝国劇場

※中劇場協議会所属劇場：三越劇場 サンシャイン劇場 シアターコクーン 天王洲銀河劇場

紀伊國屋ホール 紀伊國屋サザンシアター 博品館劇場 俳優座劇場 両国シアターX

本多劇場 シアターサンモール

## 2023年松竹株式会社主催公演

会場・劇場	上演作品	公演期間	公演回数
歌舞伎座	歌舞伎座新開場十周年 壽 初春大歌舞伎	1/ 2～ 1/27	72回
歌舞伎座	歌舞伎座新開場十周年 二月大歌舞伎	2/ 2～ 2/25	66回
歌舞伎座	歌舞伎座新開場十周年 三月大歌舞伎	3/ 3～ 3/26	66回
歌舞伎座	歌舞伎座新開場十周年記念 鳳凰祭四月大歌舞伎	4/ 2～ 4/27	48回
歌舞伎座	歌舞伎座新開場十周年 團菊祭五月大歌舞伎	5/ 2～ 5/27	48回
歌舞伎座	歌舞伎座新開場十周年 六月大歌舞伎	6/ 3～ 6/25	42回
歌舞伎座	歌舞伎座新開場十周年 七月大歌舞伎	7/ 3～ 7/28	48回
歌舞伎座	歌舞伎座新開場十周年 八月納涼歌舞伎	8/ 5～ 8/27	63回
歌舞伎座	歌舞伎座新開場十周年 秀山祭九月大歌舞伎 二世中村吉右衛門三回忌追善	9/ 2～ 9/25	44回
歌舞伎座	歌舞伎座新開場十周年 錦秋十月大歌舞伎	10/ 2～10/25	44回
歌舞伎座	歌舞伎座新開場十周年 吉例顔見世大歌舞伎	11/ 2～11/25	44回
歌舞伎座	歌舞伎座新開場十周年 十二月大歌舞伎	12/ 3～12/26	66回
新橋演舞場	初春歌舞伎公演 市川團十郎襲名記念プログラム SANEMORI	1/ 6～27	32回
新橋演舞場	喜劇 老後の資金がありません	2/ 1～19	25回
新橋演舞場	OSK日本歌劇団レビュー 春のおどり	2/24～26	6回
新橋演舞場	青春POP ROCK『ルーザーヴィル』	3/ 5～ 3/22	23回
新橋演舞場	舟木一夫 シアターコンサート in 新橋演舞場	3/27～ 3/29	3回
新橋演舞場	滝沢歌舞伎ZERO FINAL	4/ 8～ 4/30	24回
新橋演舞場	少年忍者「俺たちのBANG!!!～大劇場を占拠せよ～」	5/ 6～ 5/17	17回
新橋演舞場	熱海五郎一座 新橋演舞場シリーズ第9弾 東京喜劇『幕末ドラゴンへクセ強オンナと時をかけない男 たち～』	5/31～ 6/25 (5/1～5/5,計7回公演中止)	26回
新橋演舞場	新作歌舞伎『刀剣乱舞 月刀剣録桐』	7/ 2～ 7/27	39回
新橋演舞場	ブロードウェイミュージカル『ビートルジュース』	8/ 4～ 8/27 (8/1～8/16,計5回公演中止)	24回
新橋演舞場	ふるあめりに袖はぬらさじ	9/ 2～ 9/26	32回
新橋演舞場	少年たち 闇を突き抜けて	10/ 4～10/28	35回
新橋演舞場	シェルプールの雨傘	11/ 4～11/26	31回
新橋演舞場	新作歌舞伎 流白浪燦星	12/ 5～12/25	31回
サンシャイン劇場	『歌うシャイロック』	3/16～ 3/26	14回
日生劇場	ブロードウェイミュージカル『キャメロット』	10/ 7～10/28	25回
浅草公会堂	新春浅草歌舞伎	1/ 2～ 1/24	40回
大阪松竹座	大阪松竹座開場100周年記念 坂東玉三郎×鼓童 初春特別公演 『幽玄』	1/ 5～ 1/28	22回
大阪松竹座	大阪松竹座開場100周年記念 レビュー 春のおどり	2/ 4～ 2/12	12回
大阪松竹座	大阪松竹座開場100周年記念 東西ジャニーズJr. Spring Paradise	2/18～ 4/ 2	63回
大阪松竹座	大阪松竹座開場100周年記念 ミュージカル ルーザーヴィル	4/ 6～ 4/16	14回

会場・劇場	上演作品	公演期間	公演回数
大阪松竹座	大阪松竹座開場100周年記念 垣根の魔女	4/21～ 4/30	15回
大阪松竹座	大阪松竹座開場100周年記念 道頓堀 松竹座 映画祭	5/ 2～ 5/ 8	20回
大阪松竹座	大阪松竹座開場100周年記念 松竹新喜劇 五月新緑公演	5/13～ 5/25	23回
大阪松竹座	大阪松竹座開場100周年記念 少年忍者「俺たちのBANG!!!～大劇場を占拠せよ～」	5/28～ 6/ 1	7回
大阪松竹座	大阪松竹座開場100周年記念 夜曲 ～ノクターン～	6/ 6～ 6/22	20回
大阪松竹座	大阪松竹座開場100周年記念 七月大歌舞伎 関西・歌舞伎を愛する会 第三十一回	7/ 3～ 7/25	42回
大阪松竹座	大阪松竹座開場100周年記念 One ANOTHER	7/31～ 9/ 3 (8/15、1回公演中止)	40回
大阪松竹座	大阪松竹座100周年記念 ブロードウェイミュージカル『ビートルジュース』	9/13～ 9/27	19回
大阪松竹座	大阪松竹座開場100周年記念 星降る夜に出掛けよう	10/ 2～10/28	30回
大阪松竹座	大阪松竹座100周年記念 ブロードウェイミュージカル『キャメロット』	11/ 4～11/20	20回
大阪松竹座	大阪松竹座100周年記念 松竹特選落語会 ～これはめでたい上方落語の看板・周年・襲名揃い踏み～	11/25	1回
大阪松竹座	大阪松竹座100周年記念 鼓童 ワン・アース・ツアー2023 ～翔走	11/26	1回
大阪松竹座	大阪松竹座100周年記念 シェルプールの雨傘	12/ 3～12/10	10回
大阪松竹座	大阪松竹座100周年記念 わが街、道頓堀 ～OSAKA 1970～	12/16～12/25	13回
南座	初笑い！松竹新喜劇 新春お年玉公演	1/ 2～ 1/ 9	16回
南座	喜劇 老後の資金がありません	1/14～ 1/28	20回
南座	歌うシャイロック	2/ 9～ 2/21	15回
南座	三月花形歌舞伎	3/ 4～ 3/26	42回
南座	慶讃法要記念 若き日の親鸞	4/10～ 4/29	32回
南座	南座 春の舞台体験ツアー	5/ 2～ 5/ 8	42回
南座	南座 歌舞伎鑑賞教室	5/12～ 5/21	20回
南座	舟木一夫シアターコンサート in 南座	5/26～ 5/28	3回
南座	星降る夜に出掛けよう	6/12～ 6/21	12回
南座	桂米朝一門会	7/ 2	1回
南座	南座 夏の舞台体験ツアー	7/ 7～ 7/17	66回
南座	坂東玉三郎コンサート 人生は歌だけ	7/22～ 7/23	2回
南座	坂東玉三郎 夏のひととき	7/29～ 7/30	2回
南座	坂東玉三郎特別公演 片岡愛之助出演	8/ 3～ 8/27	22回
南座	九月花形歌舞伎 新・水滸伝	9/ 3～ 9/24	29回
南座	錦秋喜劇特別公演	10/ 3～10/29	33回
南座	OSK日本歌劇団 レビュー in Kyoto	11/11～11/19	18回

会場・劇場	上演作品	公演期間	公演回数
南座	京の年中行事 當る辰歳 吉例顔見世興行 東西合同大歌舞伎 市川海老蔵 改め 十三代目 市川團十郎白猿襲名披露 八代目 市川新之助初舞台	12/ 1～12/24	42回
三越劇場	6月新派喜劇公演『三婆』	6/ 3～ 6/25	28回

## 2023年東宝株式会社主催公演

上演作品	会場	公演期間	公演回数	公演中止数	実公演数
JOHNNYS' World Next Stage	帝国劇場	1/ 1～ 1/26	36	11	25
舞台 キングダム	帝国劇場	2/ 5～ 2/27	31		31
ミュージカル SPY × FAMILY	帝国劇場	3/ 8～ 3/29	30		30
Endless SHOCK	帝国劇場	4/ 9～ 5/31	55		55
ムーン・ルージュ! ザ・ミュージカル	帝国劇場	6/29～ 8/31	85		85
DREAM BOYS	帝国劇場	9/ 9～ 9/28	26		26
ミュージカル チャーリーとチョコレート工場	帝国劇場	10/ 9～10/31	32		32
ミュージカル・ピカレスク LUPIN～カリオストロ伯爵夫人の秘密～	帝国劇場	11/ 9～11/28	26		26
ABC座星(スター)劇場2023～5 Stars Live Hours～	帝国劇場	12/ 7～12/21	23		23
海宝直人コンサート ATTENTION PLEASE!	シアタークリエ	1/ 3～ 1/13	14		14
ファースト・デート	シアタークリエ	1/19～ 1/31	17		17
CLUB SEVEN 20th Anniversary	シアタークリエ	2/ 8～ 2/28	28		28
ミュージカル RENT	シアタークリエ	3/ 8～ 4/ 2	33		33
おかしな二人	シアタークリエ	4/ 8～ 4/26	24	10	14
ミュージカル She Loves Me	シアタークリエ	5/ 2～ 5/30	35		35
ミュージカル ダーウィン・ヤング 悪の起源	シアタークリエ	6/ 7～ 7/25	25		25
SHOW BOY	シアタークリエ	7/ 1～ 7/21	30	8	22
家族モドキ	シアタークリエ	7/26～ 8/13	25		25
SHINE SHOW!	シアタークリエ	8/18～ 9/ 4	23		23
M.クンツェ&S.リーヴァイの世界～3rd Season～ シアタークリエ・ミュージカルコンサート	シアタークリエ	9/10～ 9/26	21		21
ミュージカル のだめカンタービレ	シアタークリエ	10/ 3～10/29	34		34
ピロクシー・ブルース	シアタークリエ	11/ 3～11/19	21		21
TOHO MUSICAL LAB.	シアタークリエ	11/22～11/23	3		3
春風亭小朝と島田歌徳の「日比谷で逢いましょう」	シアタークリエ	11/25～11/27	4		4
GMOインターネットグループ presents PURE GOLD～大地真央50周年記念コンサート～	シアタークリエ	11/29～12/ 3	6		6
プレミアム音楽朗読劇 VOICARION XVII ～スプーンの盾～	シアタークリエ	12/ 7～12/30	41		41
ザ・ビューティフル・ゲーム	日生劇場	1/ 7～ 1/26	26		26
市村正親ひとり芝居 市村座	日生劇場	2/26～ 2/28	4		4
ミュージカル ザ・ミュージック・マン	日生劇場	4/11～ 5/ 1	27		27
ミュージカル ラグタイム	日生劇場	9/ 9～ 9/30	27		27
ミュージカル ベートーヴェン	日生劇場	12/ 9～12/30	27		27
ミュージカル ジキル&ハイド	東京国際フォーラム ホールC	3/11～ 3/28	23		23
ミュージカル ジェーン・エア (東京)	東京芸術劇場 プレイハウス	3/11～ 4/ 2	27		27
ミュージカル ジェーン・エア (大阪)	シアター・ドラマシティ	4/ 7～ 4/13	9		9
ミュージカル ラ・マンチャの男	横須賀芸術劇場 大ホール	4/14～ 4/24	10		10
音楽劇 ダ・ポンテ～モーツァルトの影に隠れたもう一人の天才～	THEATRE 1010	6/21～ 6/25	7		7
音楽劇 ダ・ポンテ～モーツァルトの影に隠れたもう一人の天才～	東京建物プリリアホール	7/ 9～ 7/16	11		11
ミュージカル 生きる	新国立劇場 中劇場	9/ 7～ 9/24	24		24
天使にラブソングを～シスター・アクト～	東急シアターオーブ	11/ 6～11/28	31		31

2023年 宝塚歌劇上演記録

演劇年鑑 2024

会場・劇場	組	上演作品	公演期間	公演回数
宝塚大劇場	花組	『うたかたの恋』『ENCHANTEMENT -華麗なる香水-』	1/ 1～ 1/30 (公演中止: 1/10～17)	32
	月組	『応天の門』『Deep Sea -海神たちのカルナバル-』	2/ 4～ 3/ 6	44
	宙組	『カジノ・ロワイヤル ～我が名はポンド～』	3/11～ 4/17	54
	雪組	『Lilacの夢路』『ジュエル・ド・パリ!!』	4/22～ 5/28	53
	星組	『1789 -バステューユの恋人たち-』	6/ 2～ 7/ 2 (公演中止: 6/23～6/29) 11時公演: 6/29(新人公演)	20
	花組	『鴛鴦歌合戦』『GRAND MIRAGE!』	7/ 7～ 8/13	55
	月組	『フリーゲル -君がくれた翼-』『万華鏡百景色』	8/18～ 9/24	55
	宙組	『PAGAD』『Sky Fantasy!』	9/29～11/ 5 (公演中止: 10/1～11/5)	3
	雪組	『ボイルド・ドイル・オンザ・トイレ・トレイル』『FROZEN HOLIDAY』	11/10～12/13 (公演中止: 11/10～30, 12/7) 11時公演: 12/8～10)	12
		小計	328	
東京宝塚劇場	星組	『ディミトリへ曙光に散る、紫の花～』『JAGUAR BEAT-ジャガービート-』	1/ 2～ 2/12 (公演中止: 1/4～11)	47
	花組	『うたかたの恋』『ENCHANTEMENT -華麗なる香水-』	2/18～ 3/19	43
	月組	『応天の門』『Deep Sea -海神たちのカルナバル-』	3/25～ 4/30	53
	宙組	『カジノ・ロワイヤル ～我が名はポンド～』	5/ 6～ 6/11	53
	雪組	『Lilacの夢路』『ジュエル・ド・パリ!!』	6/17～ 7/16	43
	星組	『1789 -バステューユの恋人たち-』	7/22～ 8/27 (公演中止: 8/16 13:30公演 第2夜～ 8/18)	47
	花組	『鴛鴦歌合戦』『GRAND MIRAGE!』	9/ 2～10/ 8 (公演中止: 10/3～5)	48
月組	『フリーゲル -君がくれた翼-』『万華鏡百景色』	10/14～11/19 (公演中止: 10/15～17, 10/26(新人公演))	48	
		小計	382	
宝塚バウホール	宙組	『夢現の先に』	1/ 5～ 1/21 (公演中止: 1/6～12)	15
	星組	『Stella Voice』	4/ 1～ 4/ 9	13
	花組	『舞姫』	5/ 3～ 5/14	18
	月組	『月の燈影』	6/14～ 6/25	17
		第56回『宝塚舞踊会』	10/ 1	2
	星組	『My Last Joke-虚構に生きる-』	10/18～10/29	17
		小計	82	
梅田芸術劇場メインホール	花組	『二人だけの戦場』	4/29～ 5/ 6	12
梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ	雪組	『海辺のストルーエンセ』	2/24～ 3/ 2	11
梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ	星組	『Le Rouge et le Noir ～赤と黒～』	3/21～ 3/29	14
梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ	雪組	『双曲線上のカルテ』	8/28～ 9/ 5	13
梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ	宙組	『大逆転裁判』	7/19～ 7/26	12
東京国際フォーラム	宙組	『MAKAZE IZM』	1/ 9～ 1/19	16
日本青年館ホール	星組	『Le Rouge et le Noir ～赤と黒～』	4/ 4～ 4/10	11
日本青年館ホール	雪組	『双曲線上のカルテ』	9/11～ 9/19	14
東京建物Brillia HALL	花組	『二人だけの戦場』	5/13～ 5/19	10
東京建物Brillia HALL	宙組	『Xcalibur エクスカリバー』	7/23～ 8/ 5	20
東急シアターオーブ	月組	『DEATH TAKES A HOLIDAY』	6/12～ 6/28 (公演中止: 6/12～18)	15
昭和女子大学人見記念講堂	花組	『BE SHINING!!』	11/28～12/ 3	9
KAAT神奈川芸術劇場	雪組	『海辺のストルーエンセ』	2/ 3～ 2/12	15
KAAT神奈川芸術劇場	宙組	『大逆転裁判』	8/ 1～ 8/ 8	12
御園座	雪組	『BONNIE & CLYDE』	2/ 6～ 3/ 1	35
神戸国際会館こくさいホール	花組	『BE SHINING!!』	12/10～12/13	6
博多座	星組	『ME AND MY GIRL』	10/ 9～11/ 2	33
全国ツアー	星組	『パレンシアの熱い花』『パッション・ダムール・アゲイン!』	3/26～ 4/11	23
全国ツアー	雪組	『愛するには短すぎる』『ジュエル・ド・パリ!!』	8/25～ 9/18	33
全国ツアー	花組	『激情』『GRAND MIRAGE!』	11/17～12/12	33
		小計	347	
		総合計	1,139	

※中止公演は除く

## 2023年 劇団四季上演記録

	上演作品	会場	公演期間	公演回数
				<small>2023年12月31日までの総回数</small>
東京	『アナと雪の女王』	JR東日本四季劇場[春]	21/ 6/24～ロングラン上演	320/791
	『バケモノの子』	JR東日本四季劇場[秋]	22/ 4/30～23/ 3/21	72/285
	『ノートルダムの鐘』	JR東日本四季劇場[秋]	23/ 5/14～23/ 8/ 6	80
	『ウィキッド』	JR東日本四季劇場[秋]	23/10/19～24/ 1/27	66
	『ジョン万次郎の夢』	自由劇場	23/ 3/11～23/ 4/ 2	24
	『ジーザス・クライスト=スーパースター』[ジャポネスク・バージョン]	自由劇場	23/ 6/22～23/ 7/16	25
	『エルコスの祈り』	自由劇場	23/ 8/ 5～23/ 9/ 2	27
	『ひばり』	自由劇場	23/12/24～24/ 1/20	5
	『アラジン』	電通四季劇場[海]	15/ 5/24～ロングラン上演	125/2458
	『ライオンキング』	有明四季劇場	21/ 9/26～ロングラン上演	324/715
	『クレイジー・フォー・ユー』	KAAT神奈川芸術劇場	23/ 4/25～23/ 7/22	77
	『美女と野獣』	舞浜アンフィシアター	22/10/23～ロングラン上演	327/382
	『ジャック・オー・ランド～ユーリと魔物の笛～』ニッセイ名作シリーズ	日生劇場	23/ 6/ 6～23/ 7/19	38
	小計			1510
大阪	『オペラ座の怪人』	大阪四季劇場	22/ 3/ 6～23/ 8/27	220/490
	『バケモノの子』	大阪四季劇場	23/12/10～24/ 5/25	18
	小計			238
京都	『ノートルダムの鐘』	京都劇場	22/12/18～23/ 4/ 9	88/99
	小計			88
名古屋	『キャッツ』	名古屋四季劇場	22/ 7/18～24/ 5/12	337/481
	小計			337
北海道	『リトルマーメイド』	東1丁目劇場施設(旧北海道四季劇場)	23/ 5/28～23/11/26	171
	小計			171
仙台	『リトルマーメイド』	東京エレクトロンホール宮城	22/11/26～23/ 3/12	65/96
	小計			65
全国	『クレイジー・フォー・ユー』	48都市	23/ 8/26～24/ 2/13	68
	『人間になりたがった猫』全国公演	50都市／通算82都市	22/ 9/10～23/ 9/10	55/91
	『人間になりたがった猫』こころの劇場	36都市	23/ 4/18～23/ 9/11	86
	『ジョン万次郎の夢』全国公演	26都市	23/ 4/29～24/ 3/23	31
	『ジョン万次郎の夢』こころの劇場	40都市	23/ 5/ 9～24/ 3/11	179
	『エルコスの祈り』全国公演	10都市	23/ 9/ 9～	10
	『エルコスの祈り』こころの劇場	23都市	23/ 9/12～	44
	『エルコスの祈り』日産労連チャリティー公演	18都市	23/11/21～23/12/21	18
	小計			491
総合計				2900回

※貸切含む。  
※中止公演は除く。

# 令和5年 演劇賞 関係各賞受賞者

※2023年(令和5年)2月初旬頃～2024年(令和6年)2月初旬頃に発表されたものを記載

※演劇関係者のみ記載、順不同・敬称略

## 【重要無形文化財の指定及び保持者の認定等】

◇重要無形文化財の指定及び保持者の認定(各個認定)＝宝生欣哉(能ワキ方)、宮籬千佳寿弥(宮籬節三味線)、五街道雲助(古典落語)

◇重要無形文化財の保持者の追加認定(各個認定)＝金剛永謹(能シテ方)、茂山七五三(狂言)、吉田玉男(人形浄瑠璃文楽 人形)、中村歌六(歌舞伎脇役)、大湾清之(琉球古典音楽)

◇重要無形文化財の指定及び保持者の団体の構成員の認定(総合認定)＝日本舞踊保存会会員(代表 井上八千代、立方40名、長唄[唄]1名、長唄[三味線]2名、長唄[鳴物]2名、常磐津節[太夫]1名、常磐津節[三味線]2名、清元節[太夫]2名、清元節[三味線]1名、義太夫節[太夫]1名、義太夫節[三味線]1名、地歌2名、箏曲1名)

## 【令和5年度 文化勲章・文化勲章】

◇文化勲章＝塩野七生(作家)、野村万作(能楽師・狂言方と泉流)

◇文化功勞者＝川久保玲(ファッション)、河口洋一郎(メディア芸術)、観世清和(能楽)、北大路欣也(俳優)、里中満智子(漫画)、東宮宮田哲男(長唄)

## 【令和5年 春の叙勲・褒章】

◇旭日小綬章＝風間杜夫(俳優)

◇旭日双光章＝竹本越若(義太夫節演奏家)、松永忠五郎(長唄三味線演奏家)、照屋勝義(琉球古典音楽歌三線演奏家)

◇紫綬褒章＝花柳基(日本舞踊家)、萩岡松韻(箏曲演奏家)、坂本裕二(脚本家)

## 【令和5年 秋の叙勲・褒章】

◇旭日中綬章＝石井幹子(照明デザイナー)、岩崎正幸((株)ニッポン放送社長)、吉田夔助(人形浄瑠璃文楽人形遣い)

◇旭日小綬章＝栗山民也(演出家)、志田房子(琉球舞踊家)、久石譲(作曲家)、三浦友和(俳優)

◇旭日双光章＝杵屋彌十郎(長唄演奏家唄方)、上里平蔵(琉球古典音楽三線演奏家)

◇黄綬褒章＝山田幸孝(歌舞伎小道具製作者)、大河内正信(三味線駒製作技術者)

◇紫綬褒章＝上野水香(バレエダンサー)、俵万智(歌人)、東野圭吾(小説家)、笠松則通(撮影監督)

## 【第34回高円宮殿下記念世界文化賞】

～演劇・映像部門～

ロバート・ウィルソン(米・演出家)

～第26回若手芸術家奨励制度 対象団体～

ハーレム芸術学校(米)

## 【令和4年度(第73回)芸術選奨】

～演劇部門～

◇文部科学大臣賞＝尾上菊之助(歌舞伎俳優：「義経 二本桜」ほかの成果)、段田安則(俳優：「セールスマンの死」ほかの成果)

◇文部科学大臣新人賞＝枝元萌(俳優：「あつい胸騒ぎ」ほかの成果)

～映画部門～

◇文部科学大臣賞＝尾上克郎(特撮監督：「シン・ウルトラマン」ほかの成果)、宮本まさ江(衣装デザイナー：「キングダム2 遙かなる大地へ」ほかの成果)

◇文部科学大臣新人賞＝早川千絵(映画監督：「PLAN 75」の成果)

～舞踊部門～

◇文部科学大臣賞＝志田真木(琉球舞踊家：「伊野波節」黒髪」の成果)、福岡雄大(バレエダンサー：「春の祭典」ほかの成果)

◇文部科学大臣新人賞＝田村一行(舞踏家：「舞踏 天狗藝術論」の成果)

～放送部門～

◇文部科学大臣賞＝藤本有紀(脚本家：「カムカムエヴリバディ」の成果)

◇文部科学大臣新人賞＝佐野亜裕美(ドラマプロデューサー：「エルピスー希望、あるいは災い」ほかの成果)

～芸術振興～

◇文部科学大臣賞＝唐津絵理(舞台芸術プロデューサー：「愛知芸術劇場×Dance Base Yokohama パフォーマンス・セレクション2022」の成果)

◇文部科学大臣新人賞＝平塚千穂子(CINEMA Chupki TABATA代表：映画「こころの通訳者たち」ほかの成果)

～評論等～

◇文部科学大臣賞＝岡塚章子(東京都江戸東京博物館都市歴史研究室長：「帝国の写真師 小川一眞」の成果)、中野正昭(淑徳大学教授：「ローシー・オペラと浅草オペラ」の成果)



◇**文部科学大臣新人賞**＝佐藤未央子(法政大学助教：「谷崎潤一郎と映画の存在論」の成果)

～メディア芸術～

◇**文部科学大臣賞**＝新海誠(アニメーション監督：映画「すずめの戸締まり」の成果)

◇**文部科学大臣新人賞**＝野田サトル(漫画家：「ゴールデンカムイ」の成果)

【令和5年度地域文化功労者表彰】

横田和弘(劇団河童座主宰)、河埜雅都美(邦楽家)、飯坂雅瑜(箏曲家)、大澤徳平(堺楽会館館主)、野里葉子(沖縄伝統音楽箏曲保存会会長、重要無形文化財「組踊」「琉球舞踊」保持者[総合認定])、金城清雄(沖縄伝統音楽安富祖流保存会理事、重要無形文化財「組踊」保持者)

【令和5年度文化庁長官表彰】

秋山京子(劇団あとむ代表)、荒木實光(能楽師・小鼓方大倉流)、野村道子(声優、プロデューサー)、田中勘四郎(歌舞伎囃子方)、岡本佳津子(井上バレエ団代表理事)、岡本義秀(歌舞伎大道具[背景画]製作技術保存会賛助会員)、福原容子(長唄鳴物演奏家)、加藤俊三(アニメーションプロデューサー)、喜瀬慎仁(歌三線演奏家)、黒沢智子(バレエダンサー)、小池学(歌舞伎小道具方)、志満順一(録音技師)、清水裕之(日本劇場技術者連盟理事)、太鼓芸能集団 鼓童(太鼓芸能集団)、高間賢治(映画・撮影監督)、春風亭柳橋(落語芸術協会副会長)、豊澤住輔(義太夫節三味線演奏家)、鈴々舎馬風(落語協会最高顧問)、宮本宣子(衣装デザイナー)

【文化庁長官表彰(国際芸術部門)】

宅見将典(作曲家・編曲家)

【令和5年度ふるさとづくり大賞】

◇**団体表彰**＝豊岡演劇祭実行委員会(兵庫県豊岡市)

【2023年度国際交流基金賞】

宮城聰(演出家、SPAC静岡国舞台芸術センター芸術総監督、静岡県コンベンションアーツセンター館長)

【令和4年度 日本芸術院賞】

～第三部門(音楽・演劇・舞踊)～

◇**恩賜賞**＝金剛永謹(能楽)

◇**日本芸術院賞**＝藤井泰和(邦楽・地歌箏曲)

【令和4年度 日本芸術院会員】

～第一部門(美術)～

横尾忠則(建築・デザイン)、杉本博司(写真・映像)

～第三部門(音楽・演劇・舞踊)～

観世清和(能楽)、豊竹咲太夫(文楽)、麻美れい(演劇)、白石加代子(演劇)、黒柳徹子(映画)

【第42回(令和4年度)国立劇場文楽賞】

◇**大賞**＝竹本千歳太夫

◇**優秀賞**＝豊竹藤太夫、吉田簀二郎

◇**奨励賞**＝竹本小住太夫、鶴澤清公、吉田玉翔

◇**特別賞**＝該当者なし

【令和4年度文楽協会賞】

竹本碩太夫(太夫の部)、鶴澤清允(三味線の部)、吉田玉路(人形の部)

【第45回松尾芸能賞】

◇**大賞**＝中村時蔵(演劇)

◇**優秀賞**＝佐藤B作(演劇)、米川文清(邦楽)、古田新太(演劇)、豊竹呂勢太夫(文楽)

◇**新人賞**＝中村児太郎(演劇)

◇**特別賞**＝由紀さおり(歌謡)

◇**功労賞**＝林与一(演劇)

【第43回伝統文化ボーラ賞】

亀井広忠(能楽囃子・太鼓の演奏)、萩岡松柯(山田流箏曲の演奏・伝承)

【第44回観世寿夫記念法政大学能楽賞】

稲田秀雄氏(能楽研究者)、味方玄氏(シテ方観世流)

【第32回催花賞】

武蔵野大学能楽資料センター

【第48回(2022年度)菊田一夫演劇賞】

◇**演劇大賞**＝「ハリー・ポッターと呪いの子」(「ハリー・ポッターと呪いの子」の優れた上演の成果に対して)

◇**演劇賞**＝天海祐海(「広島ジャンゴ2022」の山本役、「薔薇とサムライ2ー海賊女王の帰還ー」のアンヌ役の演技に対して)、望海風斗(「ネクスト・トゥー・ノーマル」のダイアナ役、「ガイズ&ドールズ」のミス・アデレイド役、「ドリームガールズ」のディーナ・ジョーンズ役の演技に対して)、坂本昌行(「THE BOY FROM OZ」のピーター・アレン役、「凍える」のラルフ役の演技に対して)、瀬戸山美咲(「スラムドッグ\$ミリオネア」「ザ・ビューティフル・ゲーム」の上演台本と演出に対して)

◇**特別賞**＝渥美博(永年の舞台におけるアクション指導の功績に対して)

【第58回紀伊屋演劇賞】

◇**団体賞**＝JACROW(「経済(せんそう)3篇』『ぎくろのような』『焰〜ほむら〜』『つながらのような』および「闇の将

軍」四部作 第1話『夕闇、山を越える』第2話『宵闇、街に登る』第3話『常闇、世を照らす』第0話『やみのおふくら』の優れた舞台成果に対して)

◇**個人賞**＝吉原豊司(劇団俳小公演「マギーの博物館」「これが戦争だ」、名取事務所公演「慈善家－フィランスロピスト」「屠殺人ブッチャー」、まつもと市民芸術館プロデュース「ハイ・ライフ」などによるカナダ演劇の日本への紹介の功績に対して)、篠井英介(イキウメ公演「人魂を届けに」における 山鳥、ケムリ研究室公演「眠くなっちゃった」におけるポルトヴォオリの演技に対して)、阿知波悟美(劇団NLT公演ミュージカル「O.G.」の企画およびカズエの演技に対して)、藤原章寛(劇団文化座公演「炎の人」における ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ、「旅立つ家族」における李仲燮(イ・ジュンソプ)の演技に対して)、三浦透子(TBS/サンライズプロモーション東京企画・製作「ロスマルスホルム」におけるレベッカの演技に対して)

### 【第30回読売演劇大賞】

◇**大賞**＝劇団チョコレートケーキ「生き残った子孫たちへ 戦争六篇」

### 【第31回読売演劇大賞】

◇**最優秀作品賞**＝イキウメ「人魂を届けに」  
 ◇**最優秀男優賞**＝山西惇(「エンジェルス・イン・アメリカ」「闇に咲く花」の演技)  
 ◇**最優秀女優賞**＝池谷のぶえ(「我ら宇宙の塵」「無駄な抵抗」の演技)  
 ◇**最優秀演出家賞**＝藤田俊太郎(「ラビット・ホール」「ラグタイム」の演出)  
 ◇**最優秀スタッフ賞**＝松井るみ(「ドリームガールズ」「ラビット・ホール」「ラグタイム」の美術)  
 ◇**杉村春子賞**＝清原果耶(「ジャンヌ・ダルク」の演技)  
 ◇**芸術栄誉賞**＝松本白鸚(ミュージカル「ラ・マンチャの男」に半世紀以上主演し、歌舞伎にとどまらず、長年演劇界に貢献)  
 ◇**選考委員特別賞**＝中村芝のぶ(「極付印度伝 マハーバーラタ戦記」「新作歌舞伎ファイナルファンタジーX」の演技)

### 【第74回読売文学賞】

◇**戯曲・シナリオ賞**＝山内ケンジ「温暖化の秋－hot autumn－」

### 【第65回毎日芸術賞】

大竹しのぶ(舞台「GYPSY」「ヴィクトリア」「ふるあめりかに袖はぬらさじ」での演技)

### 【第74回(令和4年度)日本放送協会 放送文化賞】

津久井教生(声優・俳優)、本條秀太郎(三味線演奏家・作曲家)、三谷幸喜(脚本家・演出家)、吉行和子(俳優)

### 【メセナアワード2023】

◇**大賞・メセナ大賞**＝一般財団法人セガサミー文化芸術財団「Dance Base Yokohama」

### 【第45回サントリー地域文化賞】

キッズミュージカルTOSU(佐賀県鳥栖市)

### 【第24回テアトロ演劇賞】

佐藤ジョンソンあき、齊藤真紀、内藤千恵子、鬼頭里沙(劇団SCOT 鈴木志志演出「サド侯爵夫人(第二幕)」における四人の女優)

### 【第35回テアトロ新人戯曲賞】

鈴木稜「とりのうた」

### 【第11回ハヤカワ「悲劇喜劇」賞】

劇団俳優座「閻魔の王宮」

### 【第71回菊池寛賞】

東野圭吾(作家)、片岡仁左衛門(歌舞伎俳優)、野沢雅子(声優)

### 【第12回岩谷時子賞】

◇**岩谷時子賞**＝市村正親(俳優)  
 ◇**岩谷時子奨励賞**＝知念里奈(歌手、俳優)  
 ◇**岩谷時子特別賞**＝渡辺貞夫(音楽家)

### 【第15回伊丹十三賞】

三谷幸喜

### 【第52回 令和5年度大谷竹次郎賞】

該当作品なし

### 【第67回岸田國士戯曲賞】

加藤拓也「ドードーが落下する」、金山寿甲「パチンコ(上)」

### 【「日本の劇」戯曲賞2023】

◇**最優秀賞**＝該当なし  
 ◇**佳作**＝新井孔央「杓たる月」

### 【第29回 劇作家協会新人戯曲賞】

◇**受賞作**＝海路「檸檬」  
 ◇**佳作**＝いしざわみな「在る愛の夢」

### 【第27回鶴屋南北賞】

横山拓也「モモンパのくくり罫」

### 【第30回OMS戯曲賞】

- ◇大賞＝武田操美「みえない」
- ◇佳作＝坂本涼平「さよならの食卓」

### 【令和4年度 希望の大地の戯曲賞「北海道戯曲賞」】

- ◇大賞＝ごまのはえ「チェーホフも鳥の名前」
- ◇優秀賞＝該当作品なし

### 【シナリオ・センター舞台脚本コンクール2023】

- ◇優秀賞＝街の樹「予光」、越智良知「明日。火花が上がる」
- ◇佳作＝ユーカリノ「明日はシラフで」、杉原大吾「レッツ、わたなべゆう」東京Junk」

### 【第16回小田島雄志・翻訳戯曲賞】

大川珠季(「火の顔」「アンティゴネ」「未婚の女」の翻訳に対して)、關智子(「アナトミー・オブ・ア・スーサイド」の翻訳に対して)、劇団青年座(「黄色い封筒」の上演に対して)、名取事務所(「占領の囚人たち」「慈善家―フィランスロピスト」「屠殺人 ブッチャー」の上演に対して)

### 【若手演出家コンクール2023】

- ◇優秀賞＝大信ペリカン、鈴木あいれ、中山美里、八代将弥 a.k.a SABO
- ◇次点＝申大樹 本川流

### 【第29回ニッセイ・バックステージ賞】

林なつ子(舞台衣裳製作)、米田ゆり(バレエピアニスト)

### 【第39回日本舞台芸術家組合賞】

羽生田正明(元劇団風の子)、藤川矢之輔(俳優、劇団前進座代表)

### 【第42回公益社団法人日本照明家協会賞】

～舞台部門～

- ◇文部科学大臣賞・大賞＝坂本明浩(コンドルズ埼玉公演2022「Starting Over」)
- ◇優秀賞＝笹森明彦(hitaruバレエプロジェクトプレ公演「白鳥の湖」)、矢鍋智子(DANCE DRAMA「Breakthrough Journey」)、杉浦清数(BALLET・NEXT2022公演「春の雪」)、今井健太(押尾コクターロー 20th Anniversary Special Live「My Guitar, My Life」)
- ◇新人賞＝館下周平、杉田諒士、廣田恵理、幸野英哲、鶴岡大樹、我那覇蘭
- ◇奨励賞＝相馬寛之、金子佳枝、三重野美由紀、柳田晃代、立川直也、青代富枝、久松夕香、大川貴啓、山

崎健輔、名護真理子

- ◇努力賞＝丸瀬淳、高瀬勇佑、須賀智己、坂下孝則、杉本奈月、橋本明典
- ◇技術賞＝竹下克巳

### 【第7回 園田・加納賞】

尾林真理(「舞台BASARA」「拜啓モリエール様ーモリエールへの挑戦状ー〜ドン・ジュアンより〜」ほか)

### 【第28回AICT演劇評論賞】

大崎さやの「啓蒙期イタリアの演劇改革ーゴルドーニの場合」(東京藝術大学出版会)、村島彩加「舞台の面影ー演劇写真と役者・写真師」(森話社)

### 【第51回日本新劇製作者協会賞】

横溝幸子(演劇評論家)

### 【2022年度日本児童青少年演劇協会賞】

鈴木龍男(劇団前進座)

### 【2022 All About ミュージカル・アワード】

- ◇作品賞＝「ガイズ&ドールズ」
- ◇再演賞＝「next to normal」
- ◇スタッフ賞＝勝柴次朗(「COLOR」照明)、上田大樹(「COLOR」映像)、小林香(「SHOW-ism XI BERBER RENDEZVOUS」作・演出)、村中俊之(「CROSS ROADー悪魔のヴァイオリニスト バガニーニー」作曲)
- ◇主演男優賞＝井上芳雄(「ガイズ&ドールズ」、小林啓也(「ラブ・レター」)
- ◇主演女優賞＝五所真理子(「美女と野獣」、望海風斗(「ガイズ&ドールズ」)
- ◇助演男優賞＝松原剛志(「キンキーブーツ」、村井良大(「スラムドッグ\$ミリオネア」)
- ◇助演女優賞＝美弥るりか(「クラウドリア」、尹嬉淑(「春のめざめ」)
- ◇ベスト・フレンズ賞＝林翔太、田村芽実、岡田奈々(「弥生、三月一君を愛した30年ー」)
- ◇新星賞＝青柳星斗(「女の友情と筋肉」「遠ざかるネパール」)、生田絵梨花(「四月は君の嘘」)
- ◇アンサンブル賞＝「スラムドッグ\$ミリオネア」

### 【第35回池袋演劇祭賞】

- ◇大賞＝劇団TheTimelessLetter「MARIONNETTEー悪魔のくちづけー」
- ◇優秀賞＝ラビット番長「天召しーテンメシー」、イルカ団!!「Rendez-Vous!!」
- ◇豊島区長賞＝劇団えのぐ「あんた、滅茶苦茶だよ!!」
- ◇舞台芸術振興会賞＝劇団東京トライアングル「は

じまりは、いつもほら」

- ◇**みらい館大明賞**＝ブロードウェイ・バウンズ「立ち呑みパラダイス～昭和50年天満商店街～」
- ◇**豊島区町会連合会会長賞**＝武双剣舞威衆 八剣「八剣版 里見八犬伝～玉粹～」
- ◇**豊島区観光協会賞**＝劇団たいしゅう小説家「人生交換Ⅱ」
- ◇**豊島新聞社賞**＝劇団25、6時間「想い光芒、想われ曙光」
- ◇**としまテレビ賞**＝劇団東俳「土がくれたほほえみ」
- ◇**三浦大四郎記念賞**＝演劇ユニット 運命論者「眠らない街と愛していたが訳ありだった僕ら」
- ◇**舞台芸術学院奨励賞(個人賞)**＝劇団エドアブラ「初版熱海殺人事件」

### 【2022年度 第4回浅草九劇賞】

- ◇**浅草九劇賞**＝札幌座・道産子男闘呼倶楽部 共同制作公演「五月、忘れ去られた庭の片隅に花が咲く」(演出＝鄭義信)
- ◇**タイムライン賞**＝ミュージカル「春のめざめ」
- ◇**ホープスター賞**＝瀧澤翼(円神)

### 【GREEN FESTA 2023】

- ◇**GREEN FESTA賞**＝劇団アルファー「人生横丁」
- ◇**BIG TREE THEATER賞**＝劇団アルファー「人生横丁」
- ◇**BOX in BOX THEATER賞**＝Tie Works.「カッコウの雛に陽は当たる」
- ◇**BASE THEATER賞**＝ラビット番長「コウセイ」

### 【第13回せんがわ劇場演劇コンクール】

- ◇**グランプリ**＝劇団野らぼう「ロレンスの雲」
- ◇**オーディエンス賞**＝終のすみか「SUNRISE」
- ◇**劇作家賞**＝前田斜め(劇団野らぼう「ロレンスの雲」)
- ◇**演出家賞**＝前田斜め(劇団野らぼう「ロレンスの雲」)
- ◇**俳優賞**＝武田知久(文学座)(終終のすみか「SUNRISE」)

### 【CoRich舞台芸術まつり！2023春】

- ◇**グランプリ**＝エンニューイ「きく」
- ◇**準グランプリ**＝Aga-risk Entertainment「令和5年の魔刀令」
- ◇**演技賞**＝浅越岳人(「令和5年の魔刀令」、古賀友樹(スペースノットブランク「本人たち」、崎田ゆかり(ゲッコーパレード「少女仮面」、清水緑(うさぎストライプ「あたらしい朝」、服部哲郎/松竹亭ズブロッカ(afterimage「松竹亭一門会Ⅱ 春の祭典スペシャル」)
- ◇**制作賞**＝「令和5年の魔刀令」
- ◇**最多クチコミ賞**＝無名劇団「あげと一ふ」

### 【CoRich舞台芸術アワード！2023】

- 第1位**＝あやめ十八番「六英花 朽葉」
- 第2位**＝iaku「モモンバのくくり罫」
- 第3位**＝TRASHMASTERS「チョークで描く夢」
- 第4位**＝鶴的「天使の群像」、NICE STALKER「ロリコンとうさん」
- 第6位**＝Aga-risk Entertainment「令和5年の魔刀令」、JACROW「#34『闇の將軍』四部作」
- 第8位**＝劇団チョコレートケーキ「ブラウン管より愛をこめて一宇宙人と異邦人」
- 第9位**＝ムシラセ「『つやつやのやつ』と『ファンファンファンファーレ！』」
- 第10位**＝壱劇屋「W/E」、藤原たまえプロデュース「しあわせのかたち」

### 【第1回カンゲキ大賞】

mediterranean lily and fever「7DAYS—特殊能力捜査班—」

### 【かながわ短編演劇アワード2023】

- ◇**演劇コンペティション大賞・観客賞**＝関田育子「micro wave」
- ◇**戯曲コンペティション大賞**＝高谷誉「おかえり未来の子」

### 【関西演劇祭2023】

- ◇**MVO(Most Valuable Opus)**＝Panda
- ◇**ベスト脚本賞**＝高梨由(Panda)
- ◇**脚本賞**＝高矢航志(劇団FAX)、バイク川崎バイク(バイク劇団バイク)
- ◇**ベスト演出賞**＝川村智基(餓鬼の断食)
- ◇**演出賞**＝宮谷達也(演劇組織KIMYO)、芝原れいち(劇団イン・ノート)
- ◇**ベストアクター賞**＝元山未奈美(演劇組織KIMYO)、山田だびんち(Panda)
- ◇**アクター賞**＝愛恵(Artist Unit イカスケ)、石川なつ美(劇団イン・ノート)、尾形大吾(無名劇団)、松田拓士(無名劇団)
- ◇**審査員特別賞**＝無名劇団
- ◇**観客賞**＝Mouse Piece-ree

### 【第25回関西現代演劇俳優賞】

- ◇**大賞**＝樫村千晶(兵庫県立ピッコロ劇団 対象作：兵庫県立ピッコロ劇団「月光のつゝしみ」、中川浩三(Z system 対象作：BOH to Z Produce「続・背くらべ〜親ガチャ編」)
- ◇**奨励賞**＝趙沙良(対象作：BOH to Z Produce「続・背くらべ〜親ガチャ編」)

**【2022年度関西俳優協議会新人育成事業  
最優秀新人賞】**

斉藤彰一(劇団しし座)、勝村愛(劇団五期会)

**【第1回関西えんげき大賞】**

◇**最優秀作品賞**＝神戸アートビレッジセンタープロデュース公演 手話裁判劇「テロ」、MONO「悪いのは私じゃない」

◇**観客投票ベストワン賞**＝神戸アートビレッジセンタープロデュース公演 手話裁判劇「テロ」

**【第21回盛岡市民演劇賞】**

◇**大賞**＝ライナー・ノーツ「すずめちゃん」と

◇**部門賞**＝演技部門：永井志穂(劇団赤い風)、岡村祐作(劇団しばいぬ)、制作企画部門：Poor People's Paper、舞台美術部門：夏坂俊也・能登谷昂毅(劇団しばいぬ)、新人部門：星君佳(ライナー・ノーツ)、観客賞：ボーイズドレッシング「ハーフさんたち」

**【九州若手劇団アワード！2023】**

◇**グランプリ**＝総合創作団体Kimamass

**【令和5年度東京都名誉都民】**

中村メイコ(俳優)

**【第72回横浜文化賞】**

◇**横浜文化賞**＝大坪喜美雄(能楽師)、名嘉ヨシ子(琉球箏曲家)

◇**横浜文化賞文化・芸術奨励賞**＝LEO(箏奏者)

**【令和5年度 第39回芸術創造賞(名古屋市)】**

岡田保(舞台美術)、常磐津綱鵬(伝統芸能[常磐津])

**【第3回名古屋女性演劇賞】**

川村ミチル(俳優、劇作家、演出家)

**【第42回京都府文化賞】**

◇**功労賞**＝味方玄(能役者)、森田保美(能楽笛方森田流)

◇**奨励賞**＝林宗一郎(能楽師)

**【令和4年度大阪文化祭賞】**

◇**大阪文化祭賞**＝花柳與(「花柳與卒寿記念舞踊会 一扇会」の舞台の成果)

◇**大阪文化祭奨励賞**＝成田奏(「調和会 和のしらべ特別公演『道成寺』」の舞台の成果)、吉田玉翔(「文楽若手会 絵本太功記」の舞台の成果)、劇団呑劇屋(「Supermarket!!!」の舞台の成果)

**【2023年関西西元気文化圏賞】**

◇**特別賞**＝OSK日本歌劇団、文化庁

◇**ニューパワー賞**＝吉田一輔(人形浄瑠璃文楽・人形遣い)

**【令和4年度大阪府憲法記念日知事表彰】**

井之上淳(劇団五期会副代表)、上野朝義(能楽師)、門田裕((株)関西芸術座代表取締役)、竹本鋳太夫(人形浄瑠璃文楽・太夫)

**【第58回大阪市民表彰】**

後藤静夫(京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター教授、元人形浄瑠璃文楽公演・企画制作担当)、竹本千歳太夫(人形浄瑠璃文楽・太夫)、野澤錦糸(人形浄瑠璃文楽・三味線)、福本年雄(劇場「ウイングフィールド」運営)

**【令和4年度 咲くやこの花賞(大阪府大阪市)】**

◇**演劇・舞踊部門**＝上村吉太郎(歌舞伎俳優)

**【令和5年 十三夜年間大賞】**

◇**年間大賞**＝吉田玉助(人形浄瑠璃文楽・人形遣い)

**【第62回関西財界セミナー賞】**

◇**特別賞**＝豊岡演劇祭実行委員会

**【令和5年文化の日表彰式典(大阪府八尾市)】**

吉田玉男(人形浄瑠璃文楽 人形遣い)

**【第31回福岡県文化賞】**

◇**創造部門**＝坂口信男(能楽師 観世流シテ方)、坂口貴信(能楽師 観世流シテ方)

◇**社会部門**＝劇団ショーマンシップ

**【仏・芸術文化勲章】**

◇**シュヴァリエ**＝高橋留美子(漫画家)

**【ローレンス・オリヴィエ賞2023】**

(授賞式：現地時間2023年4月2日)

～演劇部門～

◇**最優秀新作品賞**＝「Prima Facie」

◇**最優秀リバイバル作品賞**＝「A Streetcar Named Desire」

◇**最優秀主演男優賞**＝Paul Mescal「A Streetcar Named Desire」

◇**最優秀主演女優賞**＝Jodie Comer「Prima Facie」

◇**最優秀助演男優賞**＝Will Keen「Patriots」

◇**最優秀助演女優賞**＝Anjana Vasan「A Streetcar Named Desire」

～ミュージカル部門～

- ◇最優秀新作作品賞＝「Standing At The Sky's Edge」
- ◇最優秀リバイバル作品賞＝「Rodgers & Hammerstein's Oklahoma!」
- ◇最優秀主演男優賞＝Arthur Darvill「Rodgers & Hammerstein's Oklahoma!」
- ◇最優秀主演女優賞＝Katie Brayben「Tammy Faye」
- ◇最優秀助演男優賞＝Zubin Varla「Tammy Faye」
- ◇最優秀助演女優賞＝Beverley Knight「Sylvia」
- ～共通部門～
- ◇最優秀演出賞＝Phelim McDermott「RSC's My Neighbour Totoro」
- ◇最優秀セットデザイン賞＝Tom Pye「RSC's My Neighbour Totoro」
- ◇最優秀照明デザイン賞＝Jessica Hung Han Yun「RSC's My Neighbour Totoro」
- ◇最優秀音響デザイン賞＝Tony Gayle「RSC's My Neighbour Totoro」
- ◇最優秀コスチュームデザイン賞＝Kimie Nakano「RSC's My Neighbour Totoro」
- ◇最優秀振付賞＝Matt Cole「Disney's Newsies」
- ◇最優秀ファミリーショー＝「Hey Duggee The Live Theatre Show」
- ◇BEST ORIGINAL SCORE OR NEW ORCHESTRATIONS＝Richard Hawley and Tom Deering「Standing At The Sky's Edge」
- ◇BEST ENTERTAINMENT OR COMEDY PLAY＝「RSC's My Neighbour Totoro」Barbican Theatre
- ◇Outstanding Achievement in an Affiliate Theatre＝「The P Word」Bush Theatre
- ◇Special award＝Dame Arlene Phillips
- ◇Lifetime achievement award＝Sir Derek Jacobi

【第76回トニー賞】

(授賞式：現地時間2023年6月11日)

～ミュージカル部門～

- ◇作品賞＝「キンバリー・アキンボ」
- ◇リバイバル作品賞＝「パレード」
- ◇主演男優賞＝J・ハリソン・ジー(お熱いのがお好き)
- ◇主演女優賞＝ヴィクトリア・クラーク(キンバリー・アキンボ)
- ◇助演男優賞＝アレックス・ニューウェル(シャクト)
- ◇助演女優賞＝ボニー・ミリガン(キンバリー・アキ

ンボ)

- ◇演出賞＝マイケル・アーデン(パレード)
- ◇脚本賞＝デヴィッド・リンゼイ＝アベアー(キンバリー・アキンボ)
- ◇装置デザイン賞＝ベオウルフ・ポリット(ニューヨーク・ニューヨーク)
- ◇衣装デザイン賞＝グレッグ・バーンズ(お熱いのがお好き)
- ◇照明デザイン賞＝ナターシャ・カツツ(スウィーニー・トッド)
- ◇音響デザイン賞＝ネヴィン・スタインバーグ(スウィーニー・トッド)
- ～演劇部門～
- ◇作品賞＝「レオポルトシュタット」
- ◇リバイバル作品賞＝「トップドッグ／アンダードッグ」
- ◇主演男優賞＝ショーン・ヘイズ(グッドナイト、オスカー)
- ◇主演女優賞＝ジョディ・カマー(プライマ・フェイシイ)
- ◇助演男優賞＝ブランドン・ウラノヴィッツ(レオポルトシュタット)
- ◇助演女優賞＝ミリアム・シルヴァーマン(ザ・サイイン・イン・シドニー・ブルースティーンズ・ウィンドウ)
- ◇演出賞＝パトリック・マーバー(レオポルトシュタット)
- ◇装置デザイン賞＝ティム・ハトリ、アンジェイ・ゴールディング(ライフ・オブ・バイ)
- ◇衣装デザイン賞＝ブリジット・ライフエンシュトウール(レオポルトシュタット)
- ◇照明デザイン賞＝ティム・ラトキン(ライフ・オブ・バイ)
- ◇音響デザイン賞＝キャロリン・ダウニング(ライフ・オブ・バイ)

～ミュージカル・演劇 共通部門～

- ◇オリジナル楽曲賞＝「キンバリー・アキンボ」作曲：ジャンーン・テソリ 作詞：デヴィッド・リンゼイ＝アベアー
- ◇振付賞＝ケイシー・ニコロウ(お熱いのがお好き)
- ◇オーケストラ編曲賞＝チャーリー・ローゼン、ブライアン・カーター(お熱いのがお好き)
- ～事前発表～
- ◇功労賞＝ジョエル・グレイ、ジョン・カンダー
- ◇地方劇場賞＝パサディナ・プレイハウス
- ◇イザベル・スティーヴンソン賞＝ジェリー・ミッチェル
- ◇名誉賞＝リサ・ドーン・ケイヴ、ヴィクトリア・ベイリー、ロバート・フリード

◇**演劇教育活動賞**＝ジェイソン・ゼンバック・ヤング

**【第95回アカデミー賞】**

(授賞式：現地時間2023年3月12日)

◇**作品賞**＝「エブリシング・エブリウェア・オール・アット・ワンス」

◇**監督賞**＝ダニエル・シャイナート／ダニエル・クワン(「エブリシング・エブリウェア・オール・アット・ワンス」)

◇**主演男優賞**＝ブレンダン・フレイザー(「ザ・ホエール」)

◇**主演女優賞**＝ミシェル・ヨー(「エブリシング・エブリウェア・オール・アット・ワンス」)

◇**助演男優賞**＝キー・ホイ・クワン(「エブリシング・エブリウェア・オール・アット・ワンス」)

◇**助演女優賞**＝ジェイミー・リー・カーティス(「エブリシング・エブリウェア・オール・アット・ワンス」)

◇**国際長編映画賞**＝「西部戦線異状なし」(制作国：ドイツ)

◇**脚本賞**＝「エブリシング・エブリウェア・オール・アット・ワンス」

◇**脚色賞**＝「ウーマン・トーキング 私たちの選択」

◇**撮影賞**＝「西部戦線異状なし」

◇**編集賞**＝「エブリシング・エブリウェア・オール・アット・ワンス」

◇**美術賞**＝「西部戦線異状なし」

◇**衣装デザイン賞**＝「ブラックパンサー／ワカンダ・フォーエバー」

◇**メイク・ヘアスタイリング賞**＝「ザ・ホエール」

◇**作曲賞**＝「西部戦線異状なし」

◇**歌曲賞**＝「RRR」 “Naatu Naatu”

◇**音響賞**＝「トップガン マーヴェリック」

◇**視覚効果賞**＝「アバター：ウェイ・オブ・ウォーター」

◇**長編アニメ映画賞**＝「ギレルモ・デル・トロのピノッキオ」

◇**長編ドキュメンタリー賞**＝「ナワリヌイ」

◇**短編アニメ映画賞**＝「ぼく モグラ キツネ 馬」

◇**短編実写映画賞**＝「アン・アイリッシュ・グッドバイ(原題)」

**【第46回日本アカデミー賞】**

◇**最優秀作品賞**＝「ある男」

◇**最優秀アニメーション作品賞**＝「THE FIRST SLAM DUNK」

◇**最優秀監督賞**＝石川慶(「ある男」)

◇**最優秀脚本賞**＝向井康介(「ある男」)

◇**最優秀主演男優賞**＝妻夫木聡(「ある男」)

◇**最優秀主演女優賞**＝岸井ゆきの(「ケイコ 目を澄ませて」)

◇**最優秀助演男優賞**＝窪田正孝(「ある男」)

◇**最優秀助演女優賞**＝安藤サクラ(「ある男」)

◇**最優秀撮影賞**＝市川修／鈴木啓造(「シン・ウルトラマン」)

◇**最優秀照明賞**＝吉角荘介(「シン・ウルトラマン」)

◇**最優秀音楽賞**＝RADWIMPS／陣内一真(「すずめの戸締り」)

◇**最優秀美術賞**＝林田裕至／佐久嶋依里(「シン・ウルトラマン」)

◇**最優秀録音賞**＝小川武(「ある男」)

◇**最優秀編集賞**＝石川慶(「ある男」)

◇**最優秀外国作品賞**＝「トップガン マーヴェリック」

◇**協会特別賞**＝雨宮正信(カー・スタント)、川本征平(アニメーション美術背景)、小池直実(装飾)、福岡康裕(キャストイングプロデューサー)

◇**話題賞・作品部門**＝「ONE PIECE FILM RED」

◇**話題賞・俳優部門**＝松村北斗(「すずめの戸締り」)「ホリックxxxHOLiC」)

**【2023年日本民間放送連盟賞】**

～テレビドラマ～

◇**最優秀賞**＝関西テレビ放送「エルピス—希望、あるいは災い—」

◇**優秀賞**＝日本テレビ放送網「ブラッシュアップライフ」、フジテレビジョン「silent」、WOWOW「連続ドラマW フィクサー Season1」、日本BS放送「BS11開局15周年スペシャルドラマ 恋は50を過ぎてから」、CBCテレビ「マクラコトバ」、朝日放送テレビ「日曜の夜ぐらいは…」

**【映文連アワード2023】**

◇**審査員特別賞**＝「はじめに遊びがあった」～びあの50年、これからの50年～ びあ創業50周年記念ムービー

**【第31回橋田賞】**

◇**橋田賞**＝「silent」(フジテレビ)、「プレバト!!」(毎日放送)、小池栄子(俳優)、長澤まさみ(俳優)、目黒蓮(俳優)

◇**橋田賞新人賞**＝伊藤沙莉(俳優)、生方美久(脚本家)

◇**橋田賞特別賞**＝草笛光子(俳優)、加山雄三(歌手・俳優)

◇**野村昭子賞**＝いまむらいつみ(俳優)

# 令和5年 劇壇時事

2023年1月～12月

## 【1月】

●皇居で新年の一般参賀が2日行われた。新型コロナウイルスの影響により3年ぶりとなった一般参賀は、感染対策のため抽せんで絞った約9600人が参観。天皇皇后両陛下と共に、両陛下の長女の愛子さまも成年皇族として初めて一般参賀に臨まれた。

●ドキュメンタリー映画『長崎追想 父・井上ひさしへの旅』が2日、東京都写真美術館ホールで上映された。井上ひさしが長崎を舞台に『母と暮らせば』を構想し、娘であり劇団「こまつ座」代表・井上麻矢が8年の時をかけ映画化と舞台化を実現するまでを描くドキュメンタリー。語りを長崎出身の美輪明宏が担当、『祈り 幻に長崎を思う刻』の松村克弥が監督を務めた。3・5・6日まで。

●東京・東急シアターオーブで7日、恒例の『ニューイヤー・ミュージカル・コンサート』が開幕した。今回は、『オペラ座の怪人』ウエストエンド30周年公演でファントム役を演じたベン・フォスター、『アラジン』ブロードウェイ公演・初代アラジンのアダム・ジェイコブス、ブロードウェイとウエストエンドの両方で『ウィキッド』エルファバを演じたレイチェル・タッカーなどが参加した。9日まで。

●歌舞伎座の年頭恒例行事である「木遣り始め」が9日、3年ぶりに行われた。江戸消防記念会・第一区六番組「す組」が粋な着姿で登場、歌舞伎座入口・大間に木遣り唄が威勢よく響き渡った。

●第168回芥川賞(芥川龍之介賞)・直木賞(直木三十五賞)の選考委員会が19日都内で開催され、芥川賞に井戸川射子『この世の喜びよ』と佐藤厚志『荒地の家族』、直木賞に小川哲『地図と拳』と千早茜さん『しろがねの葉』が選ばれた。

●政府は27日、新型コロナウイルス対応の指針「基本的処方針」を改訂し、感染防止に向けたイベントの人数上限を事実上撤廃、同日から運用を始めた。これまではイベントで観客が大きな声を出す場合は、観客数を収容定員の50%としていたが、改訂ではマスクを着用すれば、満席になったスポーツやコンサートの会場で大きな声で応援や声援を送れるようになった。

●欧州最大規模の漫画の祭典「第50回アングレーム国際漫画祭」の授賞式が28日に行われ、人気漫画『進撃の巨人』の作者・諫山創が第50回を記念した特別賞を受賞した。また『男組』の池上遼一、「富江」シリーズの伊藤潤二が特別栄誉賞を受賞した。

●東京・渋谷で半世紀余りに渡り営業を続けてきた東急百貨店本店が31日、再開業事業に伴い閉店した。跡地には地上36階建ての複合施設が建設される予定。

## 【2月】

●宝塚歌劇団は3日、東京宝塚劇場で4日3時30分開演の星組公演『ディミトリ〜曙光に散る、紫の花〜』『JAGUAR BEET—ジャガービート—』において、同劇場の公演回数が10000回を達成したと発表した。

●性的少数者の俳優が3日、トニー賞にノミネートされるにあたり、性別を選ぶことができないとしてノミネートを辞退したことを明らかにした。ミュージカル『&ジュリエット』でデビューしたジャスティン・サリバンで、優れた演技で今年のトニー賞へのノミネートが取り沙汰されていた。ジャスティンは自身について、性別やふるまいを男性や女性で分けない「ノンバイナリー」だとして「システムに適合するためにアイデンティティーの一部を否定するなんてできない」とノミネートを棄権する考えを表明していた。

●俳優の寺島しのぶとクリエイティブディレクターのローラン・グナシアの長男・寺嶋眞秀が、「團菊祭五月大歌舞伎」で初代尾上眞秀を名乗り初舞台を務めることが7日発表された。

●政府は10日、新型コロナウイルス対策のマスク着用について、3月13日から新たな指針を適用し、屋内外を問わず個人の判断に委ねる方針を決めた。

●英国の権威ある演劇賞である第23回WhatsOnStage Awardsの授賞式が12日、ロンドンで行われ、スタジオジブリのアニメーション映画を舞台化した『My Neighbour Totoro(『となりのトトロ)』が、最優秀演出賞など最多の5冠を獲得した。受賞したのは、最優秀演出賞(フェリム・マクダーモット)のほか、最優秀音楽監督賞、最優秀舞台美術賞、最優秀照明デザイン賞、最優秀音響デザイン賞。

●『レ・ミゼラブル』25周年記念コンサートでジャン・パルジャン役を演じて人気のアルフィー・ボーが17日、東京・東急シアターオーブでコンサート『アルフィー・ボー&フレンズ』を開催した。2019・20年に英国で開催された『レ・ミゼラブル ザ・オールスター・ステージ・コンサート』で共演したブラッドリー・ジェイデン、ロブ・ハウチェン、同作ファンティーマ役や『ウィキッド』エルファバ役で人



気のアリス・フォーンなどが参加した。19日まで。  
●兵庫・神戸市内を舞台にしたアートプロジェクト「KOBE Re:Public Art Project」が22日から始まった。地域の文化や場所を背景・舞台とした「再発見した場所でのパフォーマンス公演」など5項目の内容で、23組のアーティストが参加。岡田利規の作・演出『あなたが彼女にしてあげられることは何もない』(出演＝片桐はいり)などが公開された。3月19日まで。

●天皇陛下が23日、63歳の誕生日を迎えられ、令和となって初めて誕生日を祝う一般参賀が行われた。

●東京映画記者会主催の「第65回ブルーリボン賞」が23日までに決定した。作品賞に石川慶監督『ある男』、監督賞に『PLAN75』の早川千絵、主演男優賞に二宮和也、主演女優賞に倍賞千恵子選ばれた。

●米・ロサンゼルス地裁は23日、女性らへの性的暴行罪で有罪判決が下されていたハリウッドの元大物プロデューサー、ハーベイ・ワインスタイン被告に禁固16年の判決を言い渡した。2020年には性的暴行事件を巡り23年の禁固刑を言い渡されており、今回の量刑が追加され事実上の終身刑となるとみられる。被告による事件は、多くの女性が性被害を告発する「# MeToo」運動のきっかけになった。

●数多くのミュージカル作品を手がけてきた作曲家のアラン・メンケンが25日、大阪・大阪国際会議場でソロ・コンサート『ホール・ニュー・ワールド』を行った。『リトルマーメイド』『美女と野獣』『アラジン』『リトル・ショップ・オブ・ホラズ』などの代表作を中心に自身の足跡を辿った。大阪のほか26日愛知県立芸術劇場、3月2・3日東京芸術劇場にて。

●第73回ベルリン国際映画祭のコンペティション部門の授賞式が25日行われた。最高賞の金熊賞には、日仏共同制作『オン・ジ・アダマント』(ニコラ・フィリパール監督)が選ばれた。

●アニメ界のアカデミー賞と呼ばれる米・第50回アニメ賞が25日発表され、堤大介監督の『ONI〜神々のおなり』がプロダクションデザイン賞とテレビメディア部門作品賞を受賞した。

●国立劇場は27日、3月歌舞伎公演において、指定の関係者による「大向う」を実施すると発表した。

●2月1日に開幕した第33回下北沢演劇祭が28日に閉幕した。今回は劇団唐組、ナイロン100°C、名取事務所、阿佐ヶ谷スパイダースなど20以上の団体が本多劇場などを中心に公演等を行った。

### 【3月】

●松竹株式会社は1日、直営各劇場内でのマスク着用について、今月13日以降、劇場内でのマスク着用を「推奨」とすることを発表した。また歌舞伎座『鳳

凰祭四月大歌舞伎』公演より3階席所定の場所からの大向うを実施することも発表した。ただし飛沫拡散防止の観点から、マスクの着用を前提とするとした。

●5月に開催される「大阪松竹座開場100周年記念劇団創立75周年 松竹新喜劇新緑公演」の製作発表記者会見が1日行われた。その席で、長年に渡り劇団代表を務めてきた渋谷天外が4月末日をもって勇退、若手5名を中心とした新体制に移行することが発表された。渋谷からバトンを受け継ぐのは、藤山扇治郎、渋谷天笑、曾我廼家一蝶、曾我廼家いろは、曾我廼家桃太郎。

●兵庫県・宝塚音楽学校へ2021年春に入学した第109期生40人の卒業式が2日、同校講堂で行われた。

4月22日からの宝塚大劇場雪組公演が初舞台となる。

●大阪市福島区に3日、聖天通劇場が開場した。青年団・永井秀樹が支配人を務める新しい劇場で、客席数30。「芸術文化が簡単に手に届くところにある」ことを掲げ、日常生活と芸術文化がつながることを目指す。

●新国立劇場は7日、10月に始まる新シーズンからバレエとオペラの入場料金を値上げすると発表した。新型コロナウイルスの影響による収入減と世界的な物価高等を理由としている。値上げ幅は1650円から2200円。バレエS席13200円が14850円、オペラS席24200円～29700円が26400円～31900円となる。

●旧大阪中央郵便局跡地を含む大阪駅西地区の「梅田3丁目計画」の建物名称が「JPタワー大阪」に決まったことが7日分かった。併せて決まった商業施設「KITTE大阪」には1200～1300席の劇場が入る予定。2024年7月のグランドオープン予定となる。

●政府は10日、権利者が分からない映像や音楽などの著作物を二次利用しやすくする著作権改正案を閣議決定した。利用者の相談に応じる一元的な窓口組織を設け、手続きの負担を軽減し、過去の映像作品や、個人が創作してインターネットで公開しているコンテンツなどの流通を促進し、文化産業の市場拡大につなげる。

●国立劇場は10日、3月13日以降のマスクの着用について、「お客様ご自身の判断に委ねることといたします」とした。一方で、感染対策上必要な場合には着用をお願いするとした。

●宝塚歌劇団は10日、3月13日以降のマスク着用について、劇場改札外では着用を推奨、劇場改札内ではマスクの着用をお願いすることを発表した。

●1995年公開の坂東玉三郎主演映画『書かれた顔』の4Kレストア版が11日より東京・ユーロスペースで公開された。オペラ演出家としても知られる映画監督のダニエル・シュミットが手がけたもので、玉

三郎のほか武原ほん、杉村春子、大野一雄らが出演。全国でも順次公開となった。

●気象庁は14日、東京・靖国神社にある桜の標本木を確認し「東京の桜が開花した」と発表した。1953年の統計開始以来、最も早い記録と並んだ。

●長崎・ハウステンボス内に17日、ハウステンボス歌劇団が公演を行う新劇場「ハウステンボス歌劇大劇場」がオープンした。これは同パーク開業30周年のフィナーレと共に、同歌劇団の開演10周年を記念したもの。16日にこけら落とし公演が行われ、17日からはチーム輝(シャイン)による『アルディエンテロマン 勇者伝説「情熱のエルマーノ」』、チーム奏(ハピネス)による『歌劇伝「レインボードラゴン」』の上演が始まった。

●ジャーニーズ事務所の副社長を昨年退任し、退社した滝沢秀明が21日、エンターテインメントの会社「TOBE」を設立したと発表した。

●吉本新喜劇は21日、吉田裕とアキの2人が新座長に就任することを発表した。

●名古屋市にある「名演小劇場」が23日、暫時休館となった。経営悪化に伴うもの。同劇場が入居する名演会館ビルは、演劇界の重鎮らが呼びかけ人となり1972年に竣工。栄の繁華街から近い立地で、名古屋の演劇・映画文化を牽引してきた。2003年からは映画上演中心となり、新旧・国内外の良質な作品を紹介してきた。

●東京・日本橋高島屋S.C本館8階ホールで23日、「松本幸四郎家 高麗屋展 松本白鸚・松本幸四郎・石川染五郎一世代をこえて継がれる、ひとつの絆」が始まった。日本橋高島屋の開店90年の特別企画の1つで、3人がイメージキャラクターを務めており、衣裳や舞台写真、映像など、代々の“松本幸四郎”にまつわる資料や展示品で紹介した。4月3日まで。

●イタリアで4月に開催される世界最大規模のアジア映画祭「第25回ウディネ・ファーイース映画祭」で、倍賞千恵子がゴールデン・マルベリー(生涯功労賞)を授与されることが23日明らかになった。

●ミュージカル映画『シング・フォー・ミー ライル(原題: LYLE, LYLE, CROCODILE)』が24日、公開された。吹替版は大泉洋、石丸幹二、水樹奈々などが担当した。

●文化庁は27日から京都に移転し、新庁舎で業務を開始した。移転するのは同庁の13部署の内、政策課や文化資源活用課など6部署で、5月15日までに全体の7割程度となる約390人の職員が京都で業務にあたる。

●全国の書店員や漫画ファンらが選ぶ「マンガ大賞2023」の授賞式が27日行われ、とよ田みなの『これ描

いて死ぬ』が大賞に選ばれた。

●劇団民藝は29日、今月23日に亡くなった奈良岡朋子が生前残したコメントを発表した。以下、全文。  
『新たな旅が始まりました。旅好きの私のことで、未知の世界への旅立ちは何やら心が弾みます。向こうへ着いたらすぐに宇野さん(宇野重吉)を訪ねます。もう一度あの厳しい演出を受けたいと長い間願ってきました。でもね、宇野さん、私はあなたよりずっと長く生きて経験を積んできましたからね、昔のデコじゃないですよ。「デコ、お前ちつとましになったな」と言われたくてこれまで頑張ってきたんですから。腕がなります。杉村先生(杉村春子)ともう一度同じ舞台を踏みたかった。どんな役でもいいからご一緒したい。ワクワクします。

両親にあいさつするのは二、三本舞台をやっつて少し落ち着いてからにします。それからは裕ちゃん(石原裕次郎)や和枝さん(美空ひばり)と思いつき遊びます。

これが別れではないですよ。いつかはまたお会いできますからね。それでは一足お先に失礼します。皆さまはどうぞごゆっくり…』

●宝塚音楽学校は29日、今春入学する第111期生の合格者40人を発表した。受験者数は612人で倍率は15.3倍。新型コロナウイルス感染防止のため、合格者の受験番号の学内掲示は4年連続で見送られた。

●ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーは30日、英・ロンドンのバービカン・シアターで昨年10月から今年1月にかけて上演された『My Neighbour Totoro』(『となりのトトロ』)を、今年11月から来年3月までの期間限定で再演することを発表した。

●東京・新宿マルイ本館に30日、「シアターマージャーリー-新宿」がプレオープンした。

●北九州芸術劇場は31日、北九州市が導入したネーミングライツ制度により、4月1日から北九州芸術劇場の愛称は「J:COM北九州芸術劇場」に変更となることを発表した。

●2017年4月にスタートした「WOWOWオリジナルミュージカルコメディ 福田雄一×井上芳雄『グリーン&ブラックス』」が31日、第72回で最終回を迎えた。

●4月1日から始まる『都をどり』の稽古の総仕上げとなる「大ざらえ」が31日、祇園甲部歌舞練場で行われた。同会は耐震改修を終えた歌舞練場で7年ぶりの開催となる。

●愛知・名古屋駅東口の地下街「メイチカ」が31日をもって全店舗営業休止となった。同地下街は1957年に開業。約20店が軒を連ね、エビフライサンドイッチで知られる喫茶「コンバル」や老舗和菓子店「両口屋是清」なども出店。設備の老朽化のため休業し、2026年度に再開される予定。

## 【4月】

●国立演芸場で1日、企画展「口絵・挿絵でたどる演芸速記本」が始まった。三遊亭円朝『怪談牡丹燈籠』（明治17年初刊）から始まったといわれる落語や講談など話芸の分野における口演筆録の刊行物の多くには口絵や挿絵が添えられていることから、その流れを追いつつ変革を辿るもの。8月20日まで。

●笑いの殿堂「なんばグランド花月」ほか吉本興行の運営する全国の劇場で1日分の公演チケットが1日限定で110円で販売された。これは吉本興行が創業110周年を迎えたことを記念したもの。

●東京芸術劇場は3日、設備更新工事を行うため、2024年9月30日から一時休館することを発表した。終了期間は2025年7月中の予定とした。

●音楽之友社は3日、クラシックレコード評論を専門とする月刊誌「レコード芸術」を、6月20日発行の7月号で休刊すると発表した。休刊の理由として、用紙など原材料費の高騰や、紙の雑誌を取り巻く現状と説明した。

●大阪・MBS新劇場の発表記者会見が5日行われた。名称は「SkyシアターMBS」で、客席数は通常時で1289席。開館は2024年3月の予定で、こけら落とし公演は藤原竜也主演『中村仲蔵』と発表された。

●日本漫画家協会は10日、第52回日本漫画家協会賞コミック部門大賞に『SPY×FAMILY』（遠藤達哉）、カートゥーン部門大賞に『風刺漫画で読む女を待つバリア』（西田叔子）が決まったと発表した。

●米・ニューヨークで16日、ミュージカル『オペラ座の怪人』が最終公演を迎え、ブロードウェイ史上最長の35年余りの歴史に幕を閉じた。上演回数は14000回近くに上り、累計観客数は約2000万人に達した。2006年に『CATS』を抜いて最長公演記録を更新していた。

●静岡県舞台芸術公園内に「せかいの劇場ミニミュージアム・てあとろん」が16日に開館した。古代ギリシャから近現代に至るまでの劇場建築史をたどる展示解説や、舞台美術家・渋沢襟のデザインによる壁画や、SPACの歴代上演作品のポスターなどが展示された。

●松竹株式会社は21日、市川左團次が15日に死去したことに伴い、歌舞伎座六月大歌舞伎の演目が変更になったことを発表した。当初は昼の部に尾上菊五郎と左團次で『夕顔棚』を上演予定だったが、中村福助、中村兎太郎、中村壱太郎らの出演による舞踊『扇獅子』に変更となった。

●松本白鷺が約54年間主演し続けたミュージカル『ラ・マンチャの男』の「幻のファイナル公演」と銘打たれた神奈川・よこすか芸術劇場公演が24日、すべての日程を終えて閉幕した。上演回数は1324回

に上った。

●第45回モスクワ国際演劇祭の受賞式が27日開かれ、常間地裕監督『この日々が凧いだら』に出演した瀬戸かほさんが最優秀女優賞を受賞した。

●東京・明治座が28日、1873年(明治6年)4月に「喜昇座」として開場してから150年を迎えた。

●公益財団法人松竹大谷図書館で28日、第97回所蔵資料展示「大阪松竹座開場 100周年」が始まった。同展は今年5月に開場100周年を迎える大阪松竹座の歴史を、正時代をはじめとした戦前の資料を中心に振り返るもの。6月28日まで。

●東京ミッドタウン日比谷で「NESPRESSO presents Hibiya Festival 2023」が28日スタートした。野外広場で狂言『梟』や能『巴』、ミュージカル『FACTORY GIRLS〜私が描く物語〜』、ブロードウェイミュージカル『ピーター・パン』、ミュージカル『スクールオブロック』などのステップショー、NBAバレエ団『海賊』などが野外広場などで披露された。

●松竹株式会社は28日、6月3日(出)に初日を迎える「六月大歌舞伎」より、歌舞伎座の一幕見席の販売を再開することを発表した。これまでと異なり、指定席エリアができ、前売り販売が行われるようになる。指定席は約70席、自由席は約20席販売される。

●大阪四季劇場で上演中のミュージカル『オペラ座の怪人』が4月29日に日本上演35周年を迎えた。劇団四季の初演は1988年。以降、日本の各都市で上演を重ね、これまでの総観客動員数は780万人に。

## 【5月】

●故・エリザベス英女王の後を継ぎ昨年即位したチャールズ国王の戴冠式が6日、ロンドンで行われた。新君主の即位を告知する重要な伝統行事で、1953年の女王の戴冠以来70年ぶりの実施となった。

●早稲田大学演劇博物館の特別展「演劇の確信犯 佐藤信」が6日、スタートした。劇作家で演出家の佐藤信を特集する本邦初の展示。佐藤家から寄贈された学生時代のノートや手稿、黒テントの上上演台本、舞台映像を通じ、佐藤が半世紀以上にわたって歩んだ創作の軌跡を辿るものとなった。8月6日まで。

●ディズニー実写映画『リトル・マーメイド』のワールドプレミアが現地時間8日、米・ロサンゼルスドルビーシアターで開催された。監督はロブ・マーシャル、アリエル役はハリー・ベイリーが務めた。

●文楽協会と日本芸術文化振興会は10日、2022年4月に「切語り」に昇格した豊竹呂太夫が、2024年4月に十一代目豊竹若太夫を襲名すると発表した。豊竹若太夫は江戸時代1703年から続く由緒ある名跡で、十一代目の死去以来57年ぶりの復活となる。

●天皇皇后両陛下の主催で開かれる「春の園遊会」が

11日に行われた。園遊会が開催されるのは令和になってから初めてのこと。

●パチカン市国・ローマ教皇庁音楽学校ホールで12日、能楽の公演が行われた。山井綱雄らが天下泰平を祈って舞う『翁』のほか『羽衣』を披露した。在パチカン日本大使館によると、同国での能楽公演は2017年以來。

●チェルフィッシュ×藤倉大withクラングフォルム・ウィーン『リビングルームのメタモルフォーシス』が13日、ウィーンのHalle G im MuseumsQuartierで開幕した。ウィーン芸術週間からの委嘱によりチェルフィッシュ・岡田利規と作曲家・藤田大がコラボレーションしたもの。オーストリア公演は15日まで行われ、19・20日にドイツ、6月にオランダで上演された。

●文化庁は15日、東京・霞が関から移転した京都市上京区の新庁舎で業務開始式を開いて本格稼働した。本庁機能を地方に移した唯一の中央省庁となるが、ほぼ半数の部署は東京に残る。

●2023年度の「演劇人コンクール」の休止が16日発表された。国内外の演出家を対象とする「利賀演出家コンクール」として2000年にスタート。2020年に兵庫県豊岡市にて「演劇人コンクール」として開催されてきた。代表の平田オリザは「来年度以降のコンクールのあり方を検討する催しと、将来に向けた研修企画を実施することいたしました」と説明した。

●第36回三島由紀夫賞と第36回山本周五郎賞の選考会が16日に行われ、三島賞に朝比奈秋『植物少女』が、山本賞に永井紗椰子『木挽町のあだ討ち』が選ばれた。

●大阪松竹座が17日、開業から100年となり、劇場前でセレモニーが開かれた。同劇場は1923年5月、道頓堀で初の様式劇場として誕生。映画と演劇の双方を鑑賞できるスタイルを採り、戦中も公演を続けた。

●「寺山修司映画祭2023『映画監督◎寺山修司』」が18日、東京・ユーロライブで始まった。これは没後40年を記念した取り組みの一つで、寺山が監督した長編・中編作品、実験映画といった映像作品計19作品が上映された。21日まで。

●宝塚歌劇団は19日、海外へ公演のライブ配信を実施すると発表した。対象は6月11日の東京宝塚劇場・宙組公演『カジノ・ロワイヤル』の千秋楽。台湾などの映画館へのライブ中継の実施例があるが、全世界向けの配信は初の試み。

●警視庁は22日、埼玉県の会社員女(46)をチケット不正転売禁止違反容疑で東京地検に書類送検した。女は新橋演舞場で行われた歌舞伎公演と演劇公演のチケットを不正に転売した疑い。警視庁は女が

2019年6月以降、約70枚で約250万円の利益を得たとみている。調べに対し女は「自分が観に行くチケットの購入代金を稼いだかった」と容疑を認めている。

●早稲田大学演劇博物館で24日、「エンパク青空市」が開かれた。重複して所蔵する演劇・映像関連資料の一部を無料配布するもので、新型コロナウイルスの影響で4年ぶり7回目の開催となった。

●“スペインのノーベル賞”と呼ばれるアストゥリアス皇太子賞の文学部門受賞者に村上春樹が決まったことが24日発表された。同賞は芸術、科学研究、スポーツなど8部門からなり、過去には宇宙飛行士・向井千秋や建築家・坂茂が受賞しているが、文学部門での日本人の受賞はこれが初めてとなった。

●大阪四季劇場で上演中のミュージカル『オペラ座の怪人』が27日の夜公演にて、日本上演通算8000回を達成した。

●第76回カンヌ国際映画祭の授賞式が27日行われ、ヴィム・ヴェンダース監督『パーフェクト・デイズ』に主演した役所広司が男優賞を受賞した。日本人が同賞を受賞するのは柳楽優弥(『誰も知らない』)以来19年ぶり。または枝裕和監督『怪物』で坂本裕二が脚本賞を受賞した。

## 【6月】

●東京宝塚劇場で上演されていた宙組公演『カジノ・ロワイヤル〜我が名はボンド〜』の千秋楽11日、トップスター・真風涼帆とトップ娘役・潤花が退団した。併せて宙組組長・寿つかさらも退団した。次期トップスターは芹香斗亜、次期トップ娘役は春乃さくら。

●株式会社俳優座劇場が14日、東京・六本木にある俳優座劇場を2025年4月末日をもって閉館することを発表した。

●東京の座・高円寺は15日、次期芸術監督にシライケイタが選ばれたことを発表した。任期は7月1日から2028年6月30日まで。

●東京・Bunkamura・シネマ渋谷宮下で16日、特集上映「ミュージカルが好きだから」が始まった。これは渋谷TOEI跡地に同館がオープンすることを記念したこけら落とし上映。2005年『RENT/レント』、2006年『ドリームガールズ』、1972年『キャバレー』のほか、2018年に英・ウエストエンド公演を収録した『キンキーブーツ』が上映された。7月6日まで。

●東京・練馬区にあった遊園地「としまえん」跡地に16日、「ワーナー ブラザース スタジオツアー東京ーメイキング・オブ・ハリー・ポッター」がオープンした。映画の世界の舞台裏や魔法ワールドの秘密

を発見していただける新しいウォークスルー型のエンターテインメント施設で、屋内型「ハリー・ポッター」のエンターテインメント施設としては世界最大、ワーナー ブラザース スタジオツアーとしてはアジア初のオープンとなった。

●世界最大級の書籍見本市「ロンドンブックフェア」で19日、世界の出版界に重要な功績を残した編集者らを表彰する「国際生涯功労賞」の授賞式が行われ、早川書房・早川浩社長に受賞記念の盾が贈られた。これは長年に渡り海外文学を日本の読者に紹介してきたことが評価されたもので、日本人で同賞を受賞するのは初。

●大阪・メルパルクホールを有するホテルメルパルク大阪は26日、2023年12月31日をもって営業を終了することを発表した。これは定期建物賃貸借契約に終了に伴うもの。同ホール1970年のホテル開業と共に座席数1010席を誇るホールとしてオープン。ミュージカルや演劇、ダンス公演など53年に渡り数多くの舞台公演やコンサートなどが行われてきた。

●オランダのエルミタージュ美術館アムステル別館は26日、9月以降の名称を「H'ART美術館」に改称することを発表した。これはロシアのウクライナ侵攻を受け、ロシア・サンクトペテルブルクにあるエルミタージュ美術館との提携を解消したため。

●警視庁は27日、死亡した母親の自殺を手助けした自殺ほう助の疑いで市川猿之助容疑者を逮捕した。5月18日、東京・目黒区の自宅で父・市川段四郎と母親とともに倒れているのが見つかり、両親は死亡が確認された。調べに対し市川猿之助容疑者は「両親が自殺する手助けをしたことは間違いない」と供述し、容疑を認めている。逮捕を受け松竹株式会社は「市川猿之助に関しまして」と発表。「弊社といたしましては、本件が猿之助の家族内の事件であることにも鑑み、司法による最終的な判断がなされるまでは、会社としての見解について申し上げることは差し控えさせていただき、今後の捜査等を見守りたいと存じます」とした。

●まつもと市民芸術館は28日、令和6年4月からの「芸術監督団」を発表した。芸術監督団団長・芸術監督演劇部門に木ノ下裕一、芸術監督舞踊部門に倉田翠、ゼネラルアートアドバイザーに石丸幹二が就任した。

●松竹大谷図書館で30日、第98回所蔵資料展示「ふたりの巨匠の芝居と映画―池波正太郎・司馬遼太郎生誕100年―」が始まった。舞台や映画になった作品の台本やプログラムなど貴重な資料が展示された。8月10日まで。

【7月】

●富山・オーバードホールに1日、中ホールがオープンした。1階から4階まで最大652席のすり鉢状ホールで、こけら落とし公演として坂東玉三郎×鼓動『アマテラス幻想』が上演された。

●東京・中野区の複合文化施設「中野サンブラザ」が2日、再開発のため閉館した。1973年6月に「全国勤労青少年会館」として開館。ホールのこけら落とし公演の一つが劇団四季『ジーンズ・クライスト＝スーパースター(当時のタイトル：イエス・キリスト＝スーパースター)』だった。その後も「サンブラザ・オン・ステージ」として『ハムレット(主演：桑名正博)』『原宿物語(主演：野村義男)』『イダマンテ』など定期的にミュージカルが上演された。一方で美空ひばり、加山雄三、五木ひろし、山下達郎、松任谷由美、郷ひろみなど昭和の歌謡界を代表する人気歌手がこぞって公演。その他海外アーティストの来日公演も多く、日本武道館などと並ぶ「音楽の殿堂」のひとつとなっていた。2028年度に最大7000人規模のホールとして再開する予定。

●PARCO劇場開場50周年記念シリーズ「堀尾幸男舞台美術の記憶」が12日、同劇場ホワイエで始まった。1998年から2023年にかけて氏が美術を手がけた35作品が舞台美術模型やデザイン画、本人による舞台美術考察を通じて紹介された。19日まで。

●長野の「劇団四季 浅利慶太記念館」が13日、リニューアルオープンした。1953年の劇団創立から年代を追って様々な角度から浅利慶太と劇団四季を見つめる展示内容だ。また俳優による音声ガイドも取り入れ、劇団70年の歩みを楽しめる展示になった。

●全米の俳優ら約16万人でつくる組合は13日、待遇改善や人工知能(AI)の活用を巡る製作会社との交渉が不調に終わったと発表しストライキ決行となった。俳優組合単体では43年ぶり。5月から全米の脚本家組合もストライキに入っており、同時実施は63年ぶり。

●劇団四季が14日、創立70周年を迎えた。同団は1953年に浅利慶太を中心とした学生10名によって創立された。「演劇界に革命を起す」という志のもと、フランス革命の7月14日が創立日として定められた。

●京都・祇園祭で最大の見せ場となる山鉾巡行が17日行われた。新型コロナウイルスの影響で中止が続いていたが今年は4年ぶりに例年通りの開催となった。

●松竹株式会社は18日、歌舞伎座「錦十月大歌舞伎」で山田洋次演出による『文七元結物語』が上演されることを発表した。また左官長兵衛を中村獅童、長兵衛女房お兼を寺島しのぶが演じることも発表された。歌舞伎興行では過去に『文七元結』の長兵衛娘

お久を波乃久里子が歌舞伎座で13歳と22歳のときに演じ、お兼を初代藤間紫が1968年(昭和43年)の御園座で演じた。

●宝塚音楽学校の創立110周年を祝う記念式典が18日、兵庫・宝塚大劇場で開かれた。同校は1913年7月15日に宝塚唱歌隊として結成されたのが始まりで、小林一三が創設し初代校長を務め、これまでに約4800人を輩出した。記念式典には加茂さくら、杜けあき、大地真央、湖月わたるらが登場し音楽学校時代の思い出を語り合った。

●警視庁は18日、市川猿之助容疑者を父親の市川段四郎の自殺を手助けしたとして自殺ほう助容疑で再逮捕した。

●第169回芥川賞・直木賞の選考会が19日開かれ、芥川賞に市川沙央『ハンチバック』、直木賞に垣根涼介『極楽征夷大將軍』と永井紗耶子『木挽町のあだ討ち』がそれぞれ選ばれた。

●カンフー映画の世界的スターだったブルース・リー(李小龍)が32歳で亡くなってから20日で50年を迎え、香港で追悼行事が行われた。

●東京の夏の風物詩の一つ「隅田川花火大会」が29日、4年ぶりに開催され、およそ2万発の花火が夏の夜空を彩った。

## 【8月】

●2024年2・3月に新橋演舞場で上演予定だったスーパー歌舞伎Ⅱ『鬼滅の刃』が諸般の事情により上演を見合わせる事が2日、松竹株式会社から発表された。同作には両親に対する自殺ほう助の罪で起訴された市川猿之助容疑者が出演・総合演出をする予定だった。

●東北を代表する夏祭りのひとつ「青森ねぶた祭」が2日始まった。ねぶたの周りで踊る「ハネト」の自由参加が認められるなど、4年ぶりに制限のない形での開催となった。7日まで。

●米テレビ界最高の榮譽とされるエミー賞の主催団体は10日、9月に開催予定の第75回エミー賞授賞式の開催時期を2024年1月15日に延期することを正式に発表した。ハリウッドで俳優や脚本家らのストライキが続いていることを踏まえた判断となった。

●11日午後7時過ぎ、国立劇場の入り口にタクシーが突っ込む事故が起きた。劇場では午後5時から舞踊公演が行われていたが、観客などにけが人はいなかった。

●「子どもと舞台芸術大博覧会2023 in NIIGATA」が17日スタートした。1999年「子どもと舞台芸術一出会いのフォーラム」として始まった同企画。実行委員長を佐藤信が務め、劇団かかし座、人形劇団京芸、東京演劇アンサンブル、劇団鳥獣戯画、人形劇団

クラレなどが参加。鑑賞・体験・シンポジウムを通して、これからの文化芸術のあり方を学び合う。20日まで。

## 【9月】

●「東京芸術祭2023」が1日開幕した。2016年にスタートした都市型総合芸術祭で、総合ディレクターを宮城聡が勤め、SPAC 静岡県舞台芸術センター、木ノ下歌舞伎、太陽劇団、ロロなどが東京芸術劇場などを中心に上演。10月29日まで。

●岡山芸術創造劇場 ハレノワが1日、グランドオーオウンした。こけら落とし公演はNISSAY OPERA 2023 オペラ『メディア』(演出:栗山民也)。

●ジャーニズ事務所が7日に記者会見を開き、藤島ジュリー景子氏が創業者のジャーニ喜多川氏の性加害問題を認め謝罪、5日付で辞任したと発表した。後任には東山紀之が就任した。

●第80回ベネチア国際映画祭で現地時間9日に授賞式が行われ、コンペティション部門で濱口竜介監督『悪は存在しない』が最高賞・金獅子賞に次ぐ銀獅子賞に輝いた。金獅子賞にはヨルゴス・ランティモス監督の英映画『哀れなるものたち』が選ばれた。

●2001年に起きたアメリカ同時多発テロ事件の現場となったニューヨークのワールドトレードセンターの跡地に、新たに舞台芸術センター「パレルマン・パフォーミングアーツセンター」が完成、13日に記念式典が行われた。施設内の壁を移動させることで、収容人数が90人から950人までと、公演の規模に応じた10種類の空間を作り出すことができ、19日から演劇やミュージカル、オペラなど様々な公演が始まった。

●「日経音楽鑑賞会パリ公演」(主催:日本経済新聞社、フィルハーモニー・ド・パリ)が22日、パリ市内の音楽ホール「シテ・ドラ・ミュージック」で開かれた。海外では異例となる本格的な能舞台を設け、野村萬や金剛永謹らが至芸を披露。26日までに延べ約4800人が鑑賞した。また親子向けの鑑賞会も行われた。

●カナダで24日まで開かれていた北米最大級の映画祭・オタワ国際アニメーション映画祭で、折笠良監督『みじめな奇蹟』が短編部門グランプリに選ばれた。日本人監督による同賞受賞は2021年の矢野ほなみ監督『骨喰み』、22年の和田淳監督『半島の鳥』に続き3年連続となった。

●兵庫県宝塚市のマંションで30日、宝塚歌劇団に所属する25歳の俳優が死亡しているのが見つかった。警察は現場の状況などから自殺とみられるとした。

## 【10月】

●東1丁目劇場施設(旧・北海道四季劇場)で上演中のディズニーミュージカル『リトルマーメイド』が1日、日本公演通算4000回を達成した。

●小劇場などを備えた複合施設「扇町ミュージアムキューブ」が2日、大阪市内に開館した。2003年に閉館した「扇町ミュージアムスクエア(OMS)」の跡地に近く、250席・100席・50席規模の劇場が備えられた。

●早稲田大学演劇博物館で、2023年秋季企画展「没後130年 河竹黙阿弥—江戸から東京へ」と「太田省吾 生成する言葉と沈黙」が、それぞれ2日から始まった。同博物館で黙阿弥を大々的に取り上げるのは約30年ぶりとのこと。2024年1月21日まで。

●ジャニーズ事務所は2日、東山紀之新社長らが会見を行い、故・ジャニー喜多川氏による性加害問題を受け、17日付で事務所の名称を「SMILE-UP. (スマイルアップ)」に変更することを発表した。

●ロンドン・ウエストエンドで上演中のミュージカル『レ・ミゼラブル』で4日、環境活動団体が舞台上に乱入し、上演が中止に追い込まれた。団体メンバー数人が「ジャスト・ストップ・オイル」と書かれた横断幕を掲げて舞台に居座り、上演を妨害。観客席からは「出ていけ」と怒号とブーイングが飛んだ。

●スウェーデン・アカデミーは5日、2023年のノーベル文学賞を、ノルウェー出身の劇作家、ヨン・フォッセに授与することを発表した。1959年生まれ。83年に小説『赤、黒』で作家デビューし、児童文学や詩などを手がける一方で、90年代から戯曲に取り組み、96年初演の戯曲『だれか、来る』で「21世紀のベケット」と称賛された。欧州の現代演劇を代表する劇作家として戯曲は40以上の言語で翻訳上演され、日本でも太田省吾演出『だれか、来る』、三浦基演出『名前』など4作品が上演されている。

●「宝塚歌劇と東宝を創った男 小林一三 生誕一五〇年展」が7日、日比谷シャンテ3階特設会場が始まった。東京での実績を100のエピソードで展示され、写真や資料・映像などで活躍ぶりが紹介された。11月5日まで。

●米映画やテレビの脚本家が加盟する全米脚本家組合(WGA)は9日、AI規制や動画配信サービスに関する報酬支払いなどを盛り込んだ制作会社側との暫定合意が、組合員の投票で圧倒的な賛成を得て承認されたと発表した。5月に始まったストライキが正式に終結した。

●松竹大谷図書館は17日、歌舞伎プロマイドをウェブサイトで閲覧できるデジタルアーカイブをスタートさせた。明治期から戦前までの歌舞伎プロマイドや扮装写真が閲覧できる。

●映画演劇文化協会は18日、故・ジャニー喜多川氏に贈った第28回菊田一夫演劇賞特別賞を取り消した。

●東京・日比谷野外音楽堂で22日、「祝・日比谷野音100周年 日比谷ブロードウェイ with WOWOW 芳雄のミュージアム」が開催された。100の年の歴史を持つ同会場で、ミュージカル俳優が集うコンサートが行われたのは初めてのこと。井上芳雄、島田歌穂、田代万里生、中川晃教、屋比久知奈らが参加した。

●東京・千代田区にある山の上ホテルが23日、2024年2月13日から全館休業することを発表した。竣工から86年を迎える建物の老朽化への対応を検討するため。同ホテルは三島由紀夫や川端康成といった著名な作家たちに愛されたことで知られる。

●映画『非情城市』などで世界的に知られる映画監督・侯孝賢(ホウ・シャオシェン)が引退したことが分かったと、台湾メディアが25日、家族の声明として伝えた。アルツハイマー病を患い撮影することが出来なくなったことが原因とした。

●初代国立劇場最後の主催公演「10月歌舞伎公演」が26日千鶴楽を迎えた。昨年9月から大劇場、小劇場、演芸場で行われた「初代国立劇場・国立演芸場さよなら公演」すべての大千鶴楽となり、1966年の開場以来57年にわたる歴史に幕を下ろした。29日には閉場式が行われた。

●舞浜アンフィシアターで上演中のディズニーミュージカル『美女と野獣』が29日、日本公演通算6000回を達成した。同作は劇団四季とディズニー・シアトリカル・プロダクションの提携第1作目として1995年に東京・大阪同時ロングランという初の上演形式で初演して以来、日本各地で上演を重ねてきた。

## 【11月】

●KAAT神奈川芸術劇場は1日、長塚史史芸術監督の再任が決まったことを発表した。現在の任期が2026(令和8)年3月31日までで、再任任期は同年4月1日～2031(令和13)年3月31日まで。

●舞台芸術のフェスティバル「フェスティバル/トーキョー(F/T)」が9日開幕した。チェルフィッチュ『現在地』、木ノ下歌舞伎『東海道四谷怪談一通し上演』などの主催プログラム 15演目1企画などが東京芸術劇場をはじめ池袋エリアに集積する文化拠点で上演された。12月8日まで。

●名古屋四季劇場で上演中のミュージカル『キャッツ』が11日、日本上演40周年を迎えた。1983年11月11日に東京・西新宿で日本初演の幕をあげ、日本演劇界で初めてロングラン公演に挑んだ同作の上演回数は11200回以上、総観客動員数は1098万人に上る。

●両親に睡眠導入剤を服用させ自殺を手助けした罪に問われた市川猿之助被告に、東京地方裁判所は17日、「刑事責任を軽くみることはできないが、二度と犯罪をしないことを誓っている」として、懲役3年執行猶予5年の有罪判決を言い渡した。

●坂東玉三郎が舞台上に身に着けた衣裳を紹介する「坂東玉三郎歌舞伎衣裳展」が21日、英・オックスフォード大学付属アシュモリアン美術館で始まった。1983年に創設された英国で最も歴史のある公共美術館で、同衣裳展の海外での開催は初めて。「助六由縁江戸桜」揚巻、「廓文章」夕霧など約10点が展示された。展示期間は2年間。

## 【12月】

●NHK日本放送協会は1日、新しいBSをスタートさせた。これまでのBS1とBSプレミアムの主な番組は、「NHKBS」に凝縮、新たに「NHK BSプレミアム4K」を開設し、2つのチャンネルで放送を始めた。

●こまばアゴラ劇場の芸術総監督・平田オリザが1日、2024年5月末で同劇場を閉館することを発表した。経営母体であるアゴラ企画は存続し、劇団青年団とアトリエ春風舎の運営などで活動を続けることも発表した。

●今年9月に宝塚歌劇団に所属する25歳の劇団員が死亡した問題を受けて木場健之理事長が辞任の意向を明らかにしていたのに伴い、1日付で阪急電鉄取締役で同団の専務理事を務めていた村上浩爾が新しく理事長に就任した。

●米国の文化・芸能に貢献した人に贈られる第46回ケネディ・センター名誉賞の授賞式が3日、ワシントンで行われ、映画『恋人たちの予感』などに出演した俳優のビリー・クリスタル、ソプラノ歌手のルネ・フレミングなどが受賞した。

●国連教育科学文化機関(ユネスコ)は6日に開かれた政府間委員会で、イタリアが提案したオペラ歌謡を無形文化遺産に登録することを決めた。

●大人計画に所属する俳優・村杉麟之介が11日、大麻などの規制薬物を購入して受け取った疑いで逮捕された。調べに対し「規制薬物を譲り受けたのは間違いはない」と容疑を認めている。舞台のほか個性派俳優としてNHK連続ドラマ小説『あまちゃん』やNHK大河ドラマ『どうする家康』などドラマにも多数出演。ロックバンド「グループ魂」のメンバーとしても知られる。

●今年1年の世相を現す「今年の漢字」が12日発表された。今年は『税』で、「生活に直結する増税・減税の動向が注目された一年で国民の不安や機体が錯綜した」とされた。

●韓国のオリジナルミュージカルを紹介する「2023

K-Musical Roadshow in TOKYO」が14日、東京・I'M A SHOWで開催された。今年6月に韓国・ソウルで開催された「2023K-Musical 国際マーケット」のコンペティション部門で選ばれたトップ5作品が登場。「ブラームス」「ドラララ歯科」「最後の事件」「春を描く」「不思議な家」5作品のスタッフとキャストが来日し、約20分間のダイジェストが披露された。

●今年9月に宝塚歌劇団に所属する25歳の劇団員が死亡した問題を受け、同団は15日、過密スケジュールを解消するための対応策を発表した。「過密な稽古スケジュールの改善を図るために、稽古日数ならびに舞台稽古日数の増加などを実施し、一部公演の初日を変更」「本公演の1週間あたりの公演回数を週10回から週9回に変更」「新人公演の在り方の見直しを図るため、2024年1月～3月の間の新人公演は東京宝塚劇場のみ上演」とした。ただ、すでにチケットを販売している公演や約2週間後に迫った正月公演などを変更・中止にしたことで、払い戻しや宿泊代金のキャンセル料などを強いられるファンや旅行団体も多く、関係者からは不満の声が大きく上がった。

●歌舞伎座「十二月大歌舞伎」第一部で上演中の「超歌舞伎」が15日、通算200回上演を達成した。2016年の「ニコニコ超会議2016」で誕生した超歌舞伎は、2019年に南座で初の劇場公演を行った後、博多座や新橋演舞場などでも上演を重ねてきた。

●有明四季劇場でロングラン上演中のディズニーマジカル『ライオンキング』が20日、日本上演25周年を迎えた。同作は1998年に四季劇場『春』(現：JR東日本四季劇場『春』)こけら落とし公演として開幕。以降、日本演劇史上初無期限ロングランに挑んでいる。

●東京・松屋銀座で開催された「日本のかたち」に、金井大道具がCHIKIRI PROJECTと共同制作したアートピースを26日から販売した。松羽目を忠実に再現したアートピースで1点もの。7点が展示・限定販売された。



# 令和5年 雑誌掲載戯曲

2023年1月～12月

## 【テアトロ(カモミール社)】

### 1月号

- ◆「ザ・トート・ファミリー 一少佐殿万歳」(文芸座上演台本)作：エルケーニィ・イシュトヴァーン 訳：平田純

### 2月号

- ◆「カレル・チャペック～水の足音～」(劇団印象上演台本)作：鈴木アツト

### 3月号

- ◆「ミロンガ」(劇団句組上演台本)作：大森句子
- ◆悲喜劇三幕「待乳山聖天ーおっばいと爆弾の物語」作：本田徹

### 4月号

- ◆「とりのうた」(第35回テアトロ新人戯曲賞・受賞作)作：鈴木稜

### 5月号

- ◆「ダブリン キャロル」(劇団昴Page公演上演台本)作：コナー・マクファーソン 翻訳：村田元史
- ◆「吹雪ー或る女の一生ー」作：相澤嘉久治

### 6月号

- ◆「梅子の梅根性」(劇団未来上演台本 創立60周年記念公演)作：南出謙吾 方言指導：井之上淳
- ◆「太宰治裁判」作：福井次郎

### 7月号

- ◆「リリス(悲劇)」作：ミハイリ・セメンコ 翻訳：村田真一
- ◆「満天姫」作：福井次郎

### 8月号

- ◆「ダンツァ・マカブラ」作：福井次郎
- ◆「盗まれた幸せ 五幕のドラマ」作：イヴァン・フランコ 翻訳：村田真一

### 9月号

- ◆「カッサンドラー」作：レーシャ・ウクラインカ 翻訳：村田真一

### 10月号

- ◆「トリアル」(第35回テアトロ新人戯曲賞最終候補作)作：武浩幸
- ◆「三ツ目商会」作：福井次郎

### 11月号

- ◆「類」(第35回テアトロ新人戯曲賞最終候補作)作：染谷歩
- ◆「吉良屋敷」(遊戯空間 上演台本) 作：関根俊夫 上演台本＝篠本賢一

### 12月号

- ◆「殺しの接吻ーレディを扱うやり方じゃないー NO WAY TO TREAT A LADY」台本・詞・音楽＝ダグラス・J・コーヘン 翻訳・訳詞＝勝田安彦

## 【悲劇喜劇(早川書房)】

### 1月号

- ◆「ライカムで待つとく」作：兼島拓也
- ◆「カタブイ、1972」作：内藤裕子

### 3月号

- ◆「再生数」作：松原俊太郎
- ◆松田正隆 海辺の町 二部作「シーサイドタウン」「文化センターの危機」作：松田正隆

### 5月号

- ◆「密航者～波濤をこえて～」作：嶋津与志
- ◆「ブレッキング・ザ・コード」作：ヒュー・ホワイ トモア 翻訳：小田島創志

### 7月号

- ◆「楽園 The Blissful Land」作：山田佳奈
- ◆「XXLレオタードとアナスイの手鏡」作：パク・チャンギュ 翻訳＝沈池娟(シム・ヂョン)
- ◆「黄色い封筒」作：イ・ヤング(李羊丸) 翻訳・ドラマトゥルク：石川樹里

### 9月号

- ◆「弱法師ーYoroboshi:The Weaklingー」劇作：市原左都子
- ◆「アメリカの時計」作：アーサー・ミラー 翻訳：高田陽子
- ◆「いつぞやは」作：加藤拓也

### 11月号

- ◆「My Boy Jack」作：デイヴィッド・ヘイグ 翻訳：小田島則子
- ◆「ロスメルスホルム」原作：ヘンリック・イブセン 脚色：ダンカン・マクミラン 翻訳：浦辺千鶴

## 【演劇と教育(晩成書房 編集・日本演劇教育連盟)】

### 1+2月号

- ◆「竜退治の騎士になる方法」原作：岡田淳 脚色：田部井泰
- ◆「十代と堤防」作：小林史明

### 3+4月号

- ◆「オーバーアゲイン」作：こむろこうじ
- ◆「(不)自由な教室」作：青木菫

### 5+6月号

- ◆「いちごが言うには」作：高橋よしえ
- ◆「桃太郎のお話」作：宮下久美
- 7+8月号**
- ◆「モグタンとゆかいな虫のなかまたち」作：徳本範子
- ◆「九十九立つ」作：久保田彦
- 9+10月号**
- ◆「クックとルナの冒険」(2023年子どもが上演する劇脚本募集 入選)作：野村莉紗
- ◆「18パーセント未満」(2023年子どもが上演する劇脚

- 本募集 入選)作：村端賢志
- ◆「和楽器部のもしも……」(2023年子どもが上演する劇脚本募集 準入選)作：関いづみ
- 11+12月号**
- ◆「メタキタバトル」(2023年子どもが上演する劇脚本募集 準入選)作：田中丞り子
- ◆「誰もセリフを覚えてない！」(2023年子どもが上演する劇脚本募集 準入選)作：泉まいこ

## 令和5年 演劇関係新刊書

令和5年(2023年)1月～12月の間に刊行された主な演劇関係新刊図書一演劇論、演劇評論、随筆、芸談、戯曲集一を収録した。

※書名、著者・編集者名、税込価格、出版社名の順に記載した。

### 《1月》

- 「演劇と教育 2023年02月号」 990円 晩成書房
- 「カキワリの劇場 (ことばとえ)」 小林賢太郎(著) 1,980円 あかね書房
- 「アレクサンダー・テクニーク やりたいことを実現できる(自分)になる10のレッスン 新装版」 小野ひとみ(著) 1,980円 春秋社
- 「テアトロ 2023年02月号」 1,300円 カモミール社
- 「銀幕に愛をこめて ぼくはゴジラの同期生 (ちくま文庫)」 宝田明(著) 1,320円 筑摩書房
- 「愛媛が生んだ進歩・革新の先覚者 『よもだ』精神で読み解く中川悦良の歴史論考」 中川悦良(著) 2,200円 創風社出版
- 「かぶき手帖 最新歌舞伎俳優名鑑 2023年版 特集狂言作者の仕事」 日本俳優協会(編集) 1,630円 日本俳優協会
- 「歌舞伎特選DVDコレクション 2023年1/25号」 アシェット・コレクションズ・ジャパン
- 「歌舞伎特選DVDコレクション 2023年2/8号」 アシェット・コレクションズ・ジャパン
- 「巻頭随筆百年の百選」 文藝春秋(編) 1,980円 文藝春秋
- 「曾我兄弟より熱を込めて」 坂口螢火(著) 1,650円 幻冬舎メディアコンサルティング
- 「元の黙阿弥」 奥山景布子(著) 1,980円 エイチアンドアイ

- 「宝塚GRAPH 2023年02月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「22-23 宝塚1stフォトブック 暁千星 (タカラヅカMOOK)」 1,900円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「宝塚イズム 46 特集ありがとう真風涼帆&潤花」 数下哲司(編著) 1,760円 青弓社
- 「ル・サンク 2023年02月号」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「名優が語る演技と人生 (文春新書)」 関容子(著) 1,320円 文藝春秋
- 「歌劇 2023年01月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「現代日本文学綜覧シリーズ 42 戯曲・シナリオ集内容綜覧 第3期」 日外アソシエーツ株式会社(編集) 39,600円 日外アソシエーツ
- 「ギリシア悲劇の諸相」 丹下和彦(著) 1,870円 未知谷
- 「市民と芸術 総合篇」 鶴飼宏明(著) 1,980円 22世紀アート
- 「『悪所』の民俗誌 色町・芝居町のトボロジー (ちくま文庫)」 沖浦和光(著) 990円 筑摩書房
- 「歌舞伎の原郷 地芝居と都市の芝居小屋 オンデマンド版」 服部幸雄(著) 14,300円 吉川弘文館
- 「ずばり池波正太郎 (文春文庫)」 里中哲彦(著) 935円 文藝春秋
- 「あなたの牛を追いなさい」 柊野俊明(著) 松重豊(著) 1,650円 毎日新聞出版

「ミュージカル 2023年1-2月号」 1,000円 ミュージカル出版社  
 「国立文楽劇場 2巻セット」 国立文楽劇場営業課(編集) 700円 日本芸術文化振興会  
 「STAGE navi vol.76(2023) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1,100円 産経新聞出版  
 「迷宮遊覧飛行」 山尾悠子(著) 3,520円 国書刊行会  
 「明治・大正・昭和の時代劇メディアと時代考証」 大石学(編) 3,520円 勉誠出版

《2月》

「甲斐荘楠音の全貌 絵画、演劇、映画を越境する個性」 甲斐荘楠音(画) 3,200円 日本経済新聞社  
 「泉鏡花の演劇 小説と戯曲が交差するところ」 鈴木木(著) 4,950円 花鳥社  
 「中国の農村演劇 伝統と革命」 大野陽介(著) 5,940円 関西学院大学出版会  
 「STAGE navi vol.77(2023) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1,100円 産経新聞出版  
 「ステージスクエア vol.61 堂本光一×佐藤勝利×北山宏光『Endless SHOCK』/堂本光一×越岡裕貴×松崎祐介/加藤シゲアキ/正門良規 (HINO DE MOOK)」 日之出出版(著) 980円 日之出出版  
 「Stage fan vol.25(2023) (MEDIABOY MOOK)」 1,045円 メディアボーイ  
 「TVガイドStage Stars vol.21 (TOKYO NEWS MOOK)」 1,980円 東京ニュース通信社  
 「人生三つの踊り場 テレビマンからステージアート、そしてジャーナリズムの死角を見据えた男(シリーズ私のライフキャリア)」 鶴飼宏明(著) 1,980円 22世紀アート  
 「現代アイルランドのドラマツルギー 複合の視点」 前波清一(著) 2,750円 小鳥遊書房  
 「歌舞伎評判記集成 第3期第6巻 自天明七年至寛政三年」 役者評判記刊行会(編) 16,500円 和泉書院  
 「森鷗外論攷 完」 山崎一穎(著) 11,000円 翰林書房  
 「EBIZO」 半沢健(撮影) 7,920円 講談社  
 「悲劇喜劇 2023年03月号」 1,500円 早川書房  
 「古典戯曲と東方文化」 鄭伝寅(著) 6,600円 京都大学学術出版会  
 「歌舞伎特選DVDコレクション 2023年2/22号」 2,299円 アシェット・コレクションズ・ジャパン  
 「歌舞伎特選DVDコレクション 2023年3/8号」

2,299円

「日本画と歌舞伎の世界 革新によって守り継がれた伝統」 石田久美子(編著) 3,300円 求龍堂  
 「疾風 並木正三諸工夫より」 毛利隆一(著) 1,430円 風詠社  
 「婦人画報 宝塚 真風涼帆 特別版 2023年03月号」 1,300円 ハースト婦人画報社  
 「宝塚GRAPH 2023年03月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「こう見えて元タカラジェンヌです 遅れてきた社会人篇」 天真みちる(著) 1,980円 左右社  
 「1 AM 1936 ニッポン放送『山崎育三郎の1 AM 1936』番組本」 山崎育三郎(著) 2,200円 ニッポン放送  
 「ル・サンク MAKAZE IZM」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「歌劇 2023年02月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「モーツァルトのオペラ『愛』の発見 (講談社学術文庫)」 岡田暁生(著) 1,221円 講談社  
 「脇役稼業 名バイプレイヤーたちの生き様に迫る完全保存版 (講談社MOOK 週刊現代プレミアム)」 週刊現代(編) 1,000円 講談社  
 「子役のテレビ史 早熟と無垢と光と影 (星海社新書)」 太田省一(著) 1,265円 星海社  
 「幕末期狂言台本の総合的研究 和泉流台本編2」 小林千草(著) 13,200円 清文堂出版  
 「テアトロ 2023年03月号」 1,300円 カモミール社

《3月》

「戦争と劇場 第一次世界大戦とフランス演劇」 小田中章浩(著) 6,600円 水声社  
 「演劇と映像で『体感する』世界史 『スリーウィンターズ』が気づかせてくれた歴史の捉え方、描き方」 越村勲(著) 2,200円 彩流社  
 「演劇と教育 2023年04月号」 990円 晩成書房  
 「イタリアの文化と日本 日本におけるイタリア学の歴史」 石井元章(著) 2,420円 松籟社  
 「〈子どものための舞台と人形劇をつくる〉実践集 表現教育プロジェクト」 永岡都(編著) 1,100円 昭和女子大学出版会  
 「二一世紀の川劇 文化資源化の視点から」 江玉(著) 7,480円 勉誠社  
 「悪魔の訴訟 またのタイトル、女が法に訴える時、悪魔が忙し」 ジョン・ウェブスター(著) 小鳥遊書房

「明治歌舞伎史論 懐古・改良・高尚化」 金智慧 (著) 9,350円 思文閣出版  
 「演能空間の詩学 (名)を得ること、もしくは『演技する身体』のパフォーマティブ」 深沢徹(著) 3,300円 武蔵野書院  
 「STAGE navi vol.78(2023) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1,100円 産経新聞出版  
 「Stage fan Vol.26(2023) (MEDIABOY MOOK)」 1,045円 メディアボーイ  
 「愛媛県新居浜市上原一丁目三番地」 鴻上尚史(著) 2,090円 講談社  
 「宝塚少女歌劇、はじまりの夢」 小竹哲(著) 1,980円 集英社インターナショナル  
 「Sparkle vol.52(2023) (メディアボーイMOOK)」 1,800円 メディアボーイ  
 「江戸の芸者 近代女優の原像 (集英社新書)」 赤坂治績(著) 1,012円 集英社  
 「掃除機」 岡田利規(著) 2,640円 白水社  
 「芝居のある風景」 矢野誠一(著) 2,640円 白水社  
 「ショップ・ガールと英国の劇場文化 消費の帝国アメリカ再考」 大谷伴子(著) 2,860円 小島遊書房  
 「新時代を生きる劇作家たち 2010年代以降の新旗手」 西堂行人(著) 2,970円 作品社  
 「歌舞伎特選DVDコレクション 2023年3/25号」 2,299円 アシェット・コレクションズ・ジャパン  
 「歌舞伎特選DVDコレクション 2023年4/5号」 2,299円 アシェット・コレクションズ・ジャパン  
 「絵で見て楽しい! はじめての歌舞伎 (イチから知りたい日本のすごい伝統文化)」 漆澤その子(著) 1,760円 すばる舎  
 「白波五人帖 (春陽文庫)」 山田風太郎(著) 1,188円 春陽堂書店  
 「江戸の思い出 綺堂随筆 新装版 (河出文庫)」 岡本綺堂(著) 990円 河出書房新社  
 「幕末・明治期の巷談と俗文芸 女盗賊・如來の化身・烈女」 神林尚子(著) 16,500円 花鳥社  
 「エンタメ・メディア一刀両断 芸能界最前線に立ち続けた演出家の喝!」 星野和彦(著) 990円 文藝春秋企画出版部  
 「昔を今に思うよしもがな 津村賢次戯曲集」 津村賢次(著) 2,200円 講談社エディトリアル  
 「長唄の伝承 旋律形成に関する学際的研究 (日本女子大学叢書)」 坂本清恵(編) 5,500円 繪書店  
 「宝塚の座付き作家を推す! スターを支える立役者たち」 七島周子(著) 2,200円 青弓社  
 「宝塚GRAPH 2023年04月号」 750円 宝塚クリ

エイティブーツ

「歌劇 2023年03月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「ル・サンク BONNIE&CLYDE (タカラヅカMOOK)」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「ル・サンク 2023年03月号」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「すみれの花、また咲く頃 タカラジェンヌのセカンドキャリア」 早花まこ(著) 1,650円 新潮社  
 「都市と連帯 文学的ニューヨークの探究」 藤野功一(編著) 3,520円 開文社出版  
 「戯作と艶本 馬琴から英泉へ、艶本化の水流」 坂坂則子(著) 18,700円 武蔵野書院  
 「ミュージカル 2023年3-4月号」 1,000円 ミュージカル出版社  
 「Sparkle vol.52(2023) (メディアボーイMOOK)」 1,800円 メディアボーイ  
 「ロシアからブロードウェイへ オスカー俳優ユル・プリンナー家の旅路」 ロック・プリンナー(著) 3,520円 群像社  
 「すべては出会い 渡辺徹の愛され人生」 渡辺徹(著) 1,540円 きずな出版  
 「高倉健、最後の季節。」 小田貴月(著) 1,650円 文藝春秋  
 「青山真治アンフィニッシュドワークス」 樋口泰人(編) 2,992円 河出書房新社  
 「演劇と映像で『体感する』世界史『スリーウインターズ』が気づかせてくれた歴史の捉え方、描き方」 越村勲(著) 2,200円 彩流社  
 「テアトロ 2023年04月号」 1,300円 カモミール社  
 「桜咲く国 OSKレビューの100年 OSK日本歌劇団創立100周年誌」 OSK日本歌劇団創立100周年記念誌編集委員(編集) 5,000円 OSK日本歌劇団  
 「4月」  
 「サッシャ・ギトリ 都市・演劇・映画 増補新版」 梅本洋一(著) 3,960円 ソリレス書店  
 「敗れざる者たちの演劇志」 流山児祥(著) 3,520円 論創社  
 「伝統演劇の破壊者川上音二郎」 岩井眞實(著) 2,420円 海鳥社  
 「演劇年鑑 2023」 日本演劇協会(監修) 3,300円 日本演劇協会  
 「STAGE navi vol.79(2023) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1,100円 産経新聞出版  
 「園井恵子 原爆に散ったタカラジェンヌの夢」 千

和裕之(著) 3,080円 国書刊行会  
 「超! 簡単なステージ論 舞台上がるすべての人が使える72の大ワザ/小ワザ/反則ワザ」 鬼龍院翔(著) 1,980円 リットーミュージック  
 「fact guide 2023Season15 Endless SHOCK / Endless SHOCK—Eternal—/春夏の国内外注目作特集 (TVガイドMOOK)」 1,210円 東京ニュース通信社  
 「ステージスクエア vol.62 坂本昌行プロード ウェイ・ミュージカル『ザ・ミュージック・マン』/『Endless SHOCK』『滝沢歌舞伎ZERO FINAL』(HINODE MOOK)」 日之出出版(著) 980円 日之出出版  
 「朝鮮国民女優・文藝峰の誕生 日本植民地下の女優形成史」 李瑛恩(著) 4,400円 青弓社  
 「今日も舞台を創る プロデューサーという仕事」 池田道彦(著) 2,640円 岩波書店  
 「テアトロ 2023年05月号」 1,300円 カモミール社  
 「江戸の花道 西鶴・芭蕉・近松と読む軍記物語」 佐谷真木人(著) 3,520円 慶應義塾大学出版会  
 「歌舞伎特選DVDコレクション 2023年4/19号」 2,299円 アシエット・コレクションズ・ジャパン  
 「歌舞伎特選DVDコレクション 2023年5/3号」 2,299円 アシエット・コレクションズ・ジャパン  
 「宝塚おとめ 2023年度版 (タカラヅカMOOK)」 1,650円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「宝塚Stage Album 2022年 (タカラヅカMOOK)」 1,650円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「宝塚GRAPH 2023年05月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「ル・サンク 特別編集『Le Rouge et le Noir～赤と黒～』(タカラヅカMOOK)」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「真風鈴帆メモリアルブック (タカラヅカMOOK)」 3,300円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「ザ・タカラヅカ 月組特集8 (タカラヅカMOOK)」 2,400円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「ル・サンク 2023年04月号」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「歌劇 2023年04月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「戯曲 かいこの糸」 角野邦彦 550円 文芸社  
 「寺山修司とパンデミック 顕微鏡で見たラフカディオ・ハーンの『耳なし芳一』の耳」 清水義和(著) 2,750円 文化書房博文社  
 「ラーラ 愛と死の狭間に (叢書・ユニベルシタス)」 マリアーノ・ホセ・デ・ラーラ(著) 2,970

円 法政大学出版局  
 「3LDK PHOTO BOOK 植原卓也×平間壮一×水田航生」 植原卓也×平間壮一×水田航生(著) 4,950円 ワニブックス  
 「国立文楽劇場 2巻セット」 国立文楽劇場営業課(編集) 700円 日本芸術文化振興会  
 「乙女文楽 開花から現在まで 近代大阪に生まれた女性一人遣いの人形浄瑠璃 (大阪大学総合学術博物館叢書)」 乙女文楽研究会(編著) 2,860円 大阪大学出版会  
 「一泊なのにこの荷物!」 本上まなみ(著) 1,980円 ミシマ社  
 「るろうにほん熊本へ」 佐藤健(著) 1,100円 NHK出版  
 「一人十色 句集」 梅沢富美男(著) 1,540円 ヨシモトブックス  
 「カスパー」 ベーター・ハントケ(著) 1,980円 論創社  
 「悲劇喜劇 2023年05月号」 1,500円 早川書房

## 《5月》

「演劇ワークショップのレッスン よりよい表現とコミュニケーションのために」 鴻上尚史(著) 2,200円 白水社  
 「演劇と教育 2023年06月号」 990円 晩成書房  
 「部活でスキルアップ! 演劇部活躍のポイント 増補改訂版 (コツがわかる本 ジュニアシリーズ)」 杉山純じ(監修) 1,793円 メイツユニバーサルコンテンツ  
 「近代初期イギリス演劇選集」 鹿児島近代初期英国演劇研究会(訳) 6,600円 九州大学出版会  
 「伝統芸能の教科書」 藤澤茜(編著) 2,090円 文学通信  
 「Stage fan Vol.27(2023) (MEDIABOY MOOK)」 1,100円 メディアボーイ  
 「日本近世文学史」 鈴木健一(著) 6,380円 三弥井書店  
 「竹内統一郎集成 Volume3 耳ノ鍵」 竹内統一郎(著) 2,970円 松本工房  
 「STAGE navi vol.80(2023) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1,100円 産経新聞出版  
 「寺山修司母の歌、斧の歌、そして父の歌 鑑賞の試み」 伊藤裕作(編著) 1,980円 人間社  
 「『劇団伊勢』の物語 芝居と生きる 『劇団伊勢』創立六十年によせて」 堀口裕生(文) 1,100円 樹林舎  
 「ウィングレス 翼を持たぬ天使」 鴻上尚史(著)

2,420円 白水社  
 「テアトロ 2023年06月号」 1,300円 カモミール社  
 「パチンコ〈上〉」 金山寿甲(著) 2,420円 白水社  
 「歌舞伎特選DVDコレクション 2023年5/17号」  
 2,299円 アシェット・コレクションズ・ジャパン  
 「歌舞伎特選DVDコレクション 2023年5/31号」  
 2,299円 アシェット・コレクションズ・ジャパン  
 「歌舞伎特選DVDコレクション 2023年6/14号」  
 2,299円 アシェット・コレクションズ・ジャパン  
 「野村太郎の狂言入門」 野村太郎(著) 3,080円 勉誠社  
 「日本伝統の配色事典 美色の名前を知り、配色の彩りを学ぶ」 濱田信義(著) 2,970円 玄光社  
 「宝塚GRAPH 2023年06月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「ル・サンク 2023年06月号」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「歌劇 2023年05月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「ドードーが落下する／綿子はずれる」 加藤拓也(著) 2,420円 白水社  
 「サンソン ルイ16世の首を刎ねた男 2023年版 (K.Nakashima Selection)」 中島かずき(脚本) 1,650円 論創社  
 「ミュージカル 2023年5-6月号」 1,000円 ミュージカル出版社  
 「blue THE Stage—ON— 牧島輝と有澤樟太郎。幸すぎる間合いに (白夜ムック)」 2,100円 白夜書房  
 「ロッパ食談 完全版 新装版 (河出文庫)」 古川緑波(著) 880円 河出書房新社  
 「新説松本俊夫論」 戦後映像芸術アーカイブ(編) 3,300円 戦後映像芸術アーカイブ  
 「シェイクスピアの戦争 虚構と現実の格闘のなかで」 小野俊太郎(著) 3,740円 小島遊書房

## 〔6月〕

「シェイクスピアはどのようにしてシェイクスピアとなったか 版本の扉が語る1700年までのイギリス演劇」 山田昭廣(著) 8,800円 名古屋大学出版会  
 「放蕩の果て 自叙伝的批評集」 福田和也(著) 2,750円 草思社  
 「ステージスクエア vol.63 上田竜也『After Life』/安田章大×金守珍/ジェシー/屋良朝幸×

中川晃教 (HINODE MOOK)」 日之出出版(著) 1,100円 日之出出版  
 「STAGE navi vol.81(2023) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1,100円 産経新聞出版  
 「新訳ジュリアス・シーザー (角川文庫 Shakespeare Collection)」 シェイクスピア(著) 946円 KADOKAWA  
 「Stage fan Vol.28(2023) (MEDIABOY MOOK)」 1,100円 メディアボーイ  
 「クローデルとその時代」 大出敦(編) 6,600円 水声社  
 「心のおもらし」 佐藤二郎(著) 1,870円 朝日新聞出版  
 「テアトロ 2023年07月号」 1,300円 カモミール社  
 「カミの森」 川村毅(著) 1,650円 論創社  
 「ハムレット (七五調訳シェイクスピアシリーズ)」 シェイクスピア(原著) 550円 風詠社  
 「悲劇喜劇 2023年07月号」 1,500円 早川書房  
 「歌舞伎の中の日本 (集英社文庫)」 松井今朝子(著) 880円 集英社  
 「歌舞伎特選DVDコレクション 2023年6/28号」  
 2,299円 アシェット・コレクションズ・ジャパン  
 「歌舞伎特選DVDコレクション 2023年7/12号」  
 2,299円 アシェット・コレクションズ・ジャパン  
 「おもしろ日本! 和のえほん 3 6月」 新谷尚紀(総監修) 701円 チャイルド本社  
 「右近vs8人 尾上右近アーティスト対談集」 尾上右近(著) 2,420円 パルコエンタテインメント事業部  
 「宝塚GRAPH 2023年07月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「ル・サンク 2023年07月号」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「ル・サンク 二人だけの戦場」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「月丘夢路/芍薬な月」 井上・月丘映画財団(編・著) 3,630円 講談社エディトリアル  
 「歌劇 2023年06月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「日本のブロードウェイ・ミュージカル60年 プロデューサーたちはいかにしてミュージカルを輸入したのか」 武田寿恵(著) 2,420円 小島遊書房  
 「ハイデッカーとギリシア悲劇 (学術選書)」 秋富克哉(著) 2,200円 京都大学学術出版会  
 「嘘とまこと」 ハインリヒ・フォン・クライスト(原作) 2,200円 藩標  
 「悲しみのルシフェルス」 早澤正人(著) 1,430円

東京図書出版

「石の主 (群像社ライブラリー)」 レーシャ・ウク  
ライーンカ(著) 1,870円 群像社

「ハリー・ポッターと呪いの子 舞台脚本東京版」  
J.K.ローリン(著) 2,090円 静山社

「河原者のけもの道」 桃山邑(著) 2,420円 羽鳥  
書店

「+act. 2023年07月号」 990円 ワニブックス

「鶴丸国永 大ク利加羅 双騎出陣 (ミュージカル  
『刀剣乱舞』)」 3,630円 ネルケプランニング

「Next Stars Vol.3」 Next Stars編集部(編) 1,980  
円 ジーオーティー

「ホーム MEMOIR OF M EARLY YEARSRS」  
ジュリー・アンドリュース(著) 3,300円 五月書  
房新社

「俳優・升毅の家呑みおつまみ、一丁あがり」 升毅  
(著) 1,815円 小学館

「六角精児の無理しない生き方」 六角精児(著)  
1,430円 主婦の友社

「井上梅次／創る心」 井上・月丘映画財団(編・著)  
2,970円 講談社エディトリアル

「オッティエリエの掌 批評集成」 有馬弘純(著)  
3,850円 水声社

## 《7月》

「演劇年鑑 2024年度版」 3,500円 カモミール社

「児童・青少年演劇ジャーナル 『げき』26」 児  
童・青少年演劇ジャーナル(げき)編集委員会(編)  
1,760円 晩成書房

「演劇と教育 2023年08月号」 990円 晩成書房

「演劇のプロがつくった児童劇シナリオ 学芸会・  
発表会・演劇クラブ 舞台の魔法で培う対話力・共  
感力」 原田亮(著) 2,860円 明治図書出版

「芝居の面白さ、教えます 井上ひさしの戯曲講座  
海外編」 井上ひさし(著) 3,520円 作品社

「芝居の面白さ、教えます 井上ひさしの戯曲講座  
日本編」 井上ひさし(著) 2,970円 作品社

「STAGE navi vol.82(2023) (NIKKO MOOK  
TVnaviプラス)」 1,100円 産経新聞出版

「fact guide 2023 Season16 DREAM BOYS  
／夏秋の国内外注目作特集 (TVガイドMOOK)」  
1,300円 東京ニュース通信社

「Stage fan Vol.29(2023) (MEDIABOY MO  
OK)」 1,100円 メディアボーイ

「芸能の力 言葉の芸能史」 笠井賢一(著)

3,300円 藤原書店

「中学校創作脚本集 2023」 中学校創作脚本集

2023編集委員会(編) 2,640円 晩成書房

「寺山修司の遺産 21世紀のいま読み直す」 伊藤  
徹(編) 2,970円 堀之内出版

「ダリオ・フォー喜劇集」 ダリオ・フォー(著)  
3,850円 松籟社

「1990年の恋」 すぎうらとしはる(著) 1,650円  
風媒社

「Sparkle vol.53(2023) (メディアボーイMOO  
K)」 1,800円 メディアボーイ

「見知らぬ日本 (境界の文学)」 グリゴリー・ガ  
ウズネル(著) 2,860円 共和国

「吉右衛門 『現代』を生きた歌舞伎役者」 渡辺保  
(著) 3,520円 慶應義塾大学出版会

「歌舞伎特選DVDコレクション 2023年7/26号」  
2,299円 アシェット・コレクションズ・ジャパン

「歌舞伎特選DVDコレクション 2023年8/9号」  
2,299円 アシェット・コレクションズ・ジャパン

「宝塚GRAPH 2023年08月号」 750円 宝塚クリ  
エィティブアーツ

「宝塚イズム 47 特集1 芹香&春乃トップ就任  
と宙組25周年を祝う！」 藪下哲司(編著) 1,760円  
青弓社

「TAKARAZUKA REVUE 2023 (タカラヅカMO  
OK)」 2,200円 宝塚クリエイティブアーツ

「歌劇 2023年07月号」 750円 宝塚クリエイティ  
ブアーツ

「カラクリ匣 戯曲絵本」 林田こずえ(作) 2,420  
円 小鳥遊書房

「ミュージカル 2023年7-8月号」 1,000円 ミュ  
ジカル出版社

「水谷豊自伝」 水谷豊(著) 1,980円 新潮社

「伊丹十三の台所」 つるとはな編集部(編) 2,860  
円 つるとはな

「テアトロ 2023年08月号」 1,300円 カモミール  
社

## 《8月》

「コロナ禍三年高校演劇 (論創ノンフィクション)」  
工藤千夏(編著) 2,200円 論創社

「Stage fan Vol.30(2023) (MEDIABOY MO  
OK)」 1,100円 メディアボーイ

「ステージスクエア vol.64 堂本光一ミュージカル  
『チャーリーとチョコレート工場』／坂本昌行×桐山  
照史×宮田慶子／中島裕翔×蓬萊竜太／向井康二×

G2 (HINODE MOOK)」 日之出出版(著) 1,100  
円 日之出出版

「戦時下日本の娯楽政策 文化・芸術の動員を問う」

戸ノ下達也(著) 3,080円 青弓社  
 「比較文学で読む十一の出会い 交差する東西のまなざし」 英米文化学会(編) 3,080円 勉誠社  
 「STAGE navi vol.83(2023) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1,100円 産経新聞出版  
 「ポール・クローデル」 アンヌ・ユベルスフェルト(著) 4,950円 水声社  
 「悲劇喜劇 2023年09月号」 1,500円 早川書房  
 「犬と独裁者」 鈴木アツト(著) 1,760円 而立書房  
 「ヒロインはいつも泣いている 『女だから』悩む歌舞伎の女性たち」 関亜弓(著) 1,760円 淡交社  
 「歌舞伎特選DVDコレクション 2023年8/23号」 2,299円 アシエット・コレクションズ・ジャパン  
 「歌舞伎特選DVDコレクション 2023年9/6号」 2,299円 アシエット・コレクションズ・ジャパン  
 「知っておきたい歌舞伎日本舞踊名曲一〇選」 松本幸四郎(監修) 3,080円 淡交社  
 「宝塚GRAPH 2023年09月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「ル・サンク 特別編集 『DEATH TAKES A HOLIDAY』」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「歌劇 2023年08月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「ル・サンク 2023年08月号」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「ドン・カルロス スペインの王子 (ルリユール叢書 シラー戯曲傑作選)」 フリードリヒ・シラー(著) 5,720円 幻戯書房  
 「メアリー・ステュアート (ルリユール叢書 シラー戯曲傑作選)」 フリードリヒ・シラー(著) 4,290円 幻戯書房  
 「死と乙女 (岩波文庫)」 アリエル・ドルフマン(著) 792円 岩波書店  
 「スーツアクター高岩成二 先人より継承し、共に創造す」 高岩成二(著) 1,980円 イースト・プレス  
 「めぐるきせつ」 藤原季節(著) 2,090円 ワニブックス  
 「テアトロ 2023年09月号」 1,300円 カモミール社  
 「昭和ブギウギ 笠置シズ子と服部良一のリズム音曲 (NHK出版新書)」 輪島裕介(著) 1,078円 NHK出版  
 「寺山修司 彼と私の物語 九條今日子の告白」 青目海(著) 2,090円 書肆侃侃房  
 「子どもの十字軍」 ベルトルト・プレヒト(文) 1,760円 ひだまり舎

## 《9月》

「但馬日記 演劇は町を変えたか」 平田オリザ(著) 2,530円 岩波書店  
 「演劇と教育 2023年10月号」 990円 晩成書房  
 「Stage fan Vol.31(2023) (MEDIABOY MOOK)」 1,100円 メディアボーイ  
 「妄想シェイクスピア酒場」 入江和生(著) 2,420円 小鳥遊書房  
 「ひなたの干しぶどう/北斗七星」 ロレイン・ハンズベリ(著) 3,080円 小鳥遊書房  
 「STAGE navi vol.84(2023) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1,100円 産経新聞出版  
 「ロベール・ルパージュとケベック 舞台表象に見る国際性と地域性」 神崎舞(著) 4,400円 彩流社  
 「稜線の路 (ルリユール叢書)」 ガブリエル・マルセル(著) 3,850円 幻戯書房  
 「近代歌舞伎年表 名古屋篇第17巻 昭和十四年～昭和二十二年」 日本芸術文化振興会国立劇場調査養成部調査資料課近代歌舞伎年表編纂室(編) 20,900円 八木書店出版部  
 「歌舞伎特選DVDコレクション 2023年9/20号」 2,299円 アシエット・コレクションズ・ジャパン  
 「歌舞伎特選DVDコレクション 2023年10/4号」 2,299円 アシエット・コレクションズ・ジャパン  
 「『雪女』、百年の伝承 辺見じゅん・木下順二・鈴木サツ・松谷みよ子・そしてハーン」 遠田勝(著) 3,080円 幻戯書房  
 「宝塚GRAPH 2023年10月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「ル・サンク 2023年10月号」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「望海風斗第二幕」 望海風斗(著) 2,530円 日経BP  
 「歌劇 2023年09月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「神」 フェルディナント・フォン・シーラッハ(著) 1,870円 東京創元社  
 「今こそシェイクスピア 能シェイクスピア十三曲」 宗片邦義(著) 1,210円 でくのぼう出版  
 「九番目の招待客 (奇想天外の本棚)」 オーエン・デイヴィス(著) 2,530円 国書刊行会  
 「ミュージカル 2023年09月号」 1,000円 ミュージカル出版社  
 「狂言サイボーグ 増補新版 (ちくま文庫)」 野村萬斎(著) 902円 筑摩書房  
 「東海道新幹線で行く史跡めぐりの旅」 石原良純(責任編集) 1,870円 小学館



「テアトロ 2023年10月号」 1,300円 カモミール社  
「間違いの喜劇（七五調訳シェイクスピアシリーズ）」 シェイクスピア(原著) 440円 風詠社

### 《10月》

「21世紀のスペイン演劇 2」 ライラ・リポイ(著) 4,400円 水声社  
「逸脱と侵犯 サラ・ケインのドラマトゥルギー」 關智子(著) 5,500円 水声社  
「act guide 2023 Season17 ミュージカルチャリティーとチョコレート工場/秋冬の国内外注目作特集(TVガイドMOOK)」 1,300円 東京ニュース通信社  
「本の虫二人抄」 古田一晴(著) 1,760円 ゆいぽおと  
「ステージスクエア vol.65 中井貴一×藤原文一郎『月とシネマ2023』/藤井流星×森新太郎/生田斗真×福田悠太×辰巳雄大 (HINODE MOOK)」 日之出出版(著) 日之出出版  
「Stage fan Vol.32(2023) (MEDIABOY MOOK)」 1,100円 メディアボーイ  
「STAGE navi vol.85(2023) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1,100円 経新聞出版  
「描く、観る、演じるアートの力 芸術療法はなぜ心にとどくのか」 東大アートと精神療法研究会(編) 2,750円 三元社  
「Sparkle vol.54(2023) (メディアボーイMOOK)」 1,980円 メディアボーイ  
「久保田万太郎と現代 ノスタルジーを超えて」 慶應義塾大学『久保田万太郎と現代』編集委員会(編) 5,280円 平凡社  
「歌舞伎特選DVDコレクション 2023年10/18号」 2,299円 アシェット・コレクションズ・ジャパン  
「歌舞伎特選DVDコレクション 2023年11/1号」 2,299円 アシェット・コレクションズ・ジャパン  
「歌舞伎の原郷 地芝居と都市の芝居小屋 オンデマンド版」 服部幸雄(著) 14,300円 吉川弘文館  
「艶やかに 尾上菊五郎聞き書き」 尾上菊五郎(述) 3,080円 毎日新聞出版  
「女舞の伝統 日本舞踊成立史の研究 (桜美林大学叢書)」 丸茂美恵子(著) 4,180円 桜美林大学出版会  
「宝塚GRAPH 2023年11月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ  
「宝塚歌劇の世界 山梨県立博物館企画展 小林一三誕生150年 清く、正しく、美しく」 山梨県立博

物館(編集) 2,200円 山梨県立博物館  
「彩風咲奈写真集 BLOOM (タカラヅカMOOK)」 3,600円 宝塚クリエイティブアーツ  
「歌劇 2023年10月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ  
「アカシアの雨が降る時」 鴻上尚史(著) 1,980円 論創社  
「江おんすていじ ～新編里見八犬伝～彩時記ミュージカル刀剣乱舞」 ミュージカル『刀剣乱舞』製作委員会(編集) 3,630円 ネルケプランニング  
「須田国太郎の芸術 一三つのみなごし 生誕130年没後60年を超えて」 須田国太郎(画) 2,500円 きょうと視覚文化振興財団  
「江戸役者 東京日日新聞夕刊連載版」 邦枝完二(著) 3,960円 幻戯書房  
「テアトロ 2023年11月号」 1,300円 カモミール社  
「悲劇喜劇 2023年11月号」 1,500円 社早川書房

### 《11月》

「舞台の上の殺人現場 『ミステリ×演劇』を見る」 麻田実(著) 1,980円 鳥影社  
「戦時下の演劇 国策劇・外地・収容所」 神山彰(編) 5,060円 森話社  
「アメリカ演劇 34 バンデミックとアメリカ演劇特集」 日本アメリカ演劇学会(編) 1,650円 日本アメリカ演劇学会  
「演劇と教育 2023年12月号」 1,320円 晩成書房  
「STAGE navi vol.86(2023) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1,100円 産経新聞出版  
「Stage fan Vol.33(2023) (MEDIABOY MOOK)」 1,100円 メディアボーイ  
「正義の人びと」 アルベール・カミュ(著) 2,420円 藤原書店  
「十蘭逍遙」 江口雄輔(著) 2,970円 国書刊行会  
「戒厳令」 アルベール・カミュ(著) 2,420円 藤原書店  
「FICTION」 山下澄人(著) 1,870円 新潮社  
「ベケットのこぼれ」 日本サミュエル・ベケット研究会(編) 3,960円 未知谷  
「戦後フランスの前衛たち 言葉とイメージの実験史」 進藤久乃(編) 6,600円 水声社  
「高橋いさをエッセイ・セレクション 1 そして舞台の幕が開く」 高橋いさを(著) 2,750円 論創社  
「歌舞伎特選DVDコレクション 2023年11/15号」 2,299円 アシェット・コレクションズ・ジャパン  
「歌舞伎特選DVDコレクション 2023年11/29号」

2,299円 アシェット・コレクションズ・ジャパン  
 「歌舞伎特選DVDコレクション 2023年12/13号」  
 2,299円 アシェット・コレクションズ・ジャパン  
 「新 日本古典文学大系 95 上方歌舞伎集 (岩波  
 オンデマンドボックス)」 土田衛(著) 8,690円  
 岩波書店  
 「十三代目市川團十郎白猿」 篠山紀信(著・写真)  
 363,000円 小学館  
 「近藤誠一全集 3 対談 3 日本人の心」 近藤誠  
 一(著) 3,850円 写真文化首都「写真の町」東川町  
 「宝塚GRAPH 2023年12月号」 750円 宝塚クリ  
 エイティブーツ  
 「歌劇 2023年11月号」 750円 宝塚クリエイティ  
 ブーツ  
 「袖香光写真集 CA BOUGE (タカラヅカMOO  
 K)」 3,600円 宝塚クリエイティブーツ  
 「タカラヅカを創った小林一三と明治人たちのリー  
 ダーシップ 昔も今も変わらない起業家の志」 古  
 川裕倫(著) 2,090円 アスカ・エフ・プロダクツ  
 「戯曲MANKAI STAGE『A3!』ACT2! 2022SPRI  
 NG」 亀田真二郎(脚本) 1,980円 ネルケブラン  
 ニング  
 「戯曲MANKAI STAGE『A3!』ACT2! 2022SUM  
 MER」 亀田真二郎(脚本) 1,980円 ネルケブラン  
 ニング  
 「砂の国の遠い声」 宮沢章夫(著) 2,200円 晶文  
 社  
 「綺堂江戸の話大全」 岡本綺堂(著) 4,180円 河  
 出書房新社  
 「婚礼 (ポーランド文学古典叢書)」 スタニスワ  
 フ・ヴィスピャンスキ(著) 2,750円 未知谷  
 「大城貞俊未発表作品集 第4巻 にんげんだから」  
 大城貞俊(著) 2,200円 インパクト出版会  
 「ミュージカル 2023年11-12月号」 1,000円 ミュ  
 ジカル出版社  
 「書を捨てよ、町へ出よう 復刻版」 寺山修司(著)  
 3,960円 トゥーヴァージンズ  
 「ポール・ニューマン語る ありふれた男の驚くべ  
 き人生」 ポール・ニューマン(著) 4,070円 早川  
 書房  
 「書の劇場 役者江上真悟コレクション展」 江上真悟  
 (著) 2,860円 メトロポリタンプレス  
 「テアトロ 2023年12月号」 1,300円 カモミール  
 社

## 《12月》

「ステージスクエア vol.66 『Act ONE』HiHi Jets

×美少年×7MEN侍×少年忍者/佐藤勝利×山内圭哉  
 (HINODE MOOK)」 日之出出版(著) 1,100円  
 日之出出版  
 「STAGE navi vol.87(2023) (NIKKO MOOK  
 TVnaviプラス)」 1,100円 産経新聞出版  
 「悲劇喜劇 2024年01月号」 1,500円 早川書房  
 「或る英国俳優の書棚」 野村悠里(著) 4,400円  
 水声社  
 「自由に、からだ、自由に、こゑ 身体を通して考え  
 るコミュニケーション」 平川和宏(著) 1,650円  
 幻冬舎メディアコンサルティング  
 「テアトロ 2024年01月号」 1,300円 カモミール  
 社  
 「歌舞伎特選DVDコレクション 2023年12/27号」  
 2,299円 アシェット・コレクションズ・ジャパン  
 「歌舞伎特選DVDコレクション 2024年1/10号」  
 2,299円 アシェット・コレクションズ・ジャパン  
 「イチから知りたい日本のすごい伝統文化シリーズ  
 ボックス」 桜庭由紀子他(著) 7,040円 すばる舎  
 「宝塚GRAPH 2024年01月号」 750円 宝塚クリ  
 エイティブーツ  
 「星風まどかフォトブック SmilingForever (タ  
 カラヅカMOOK)」 2,200円 宝塚クリエイティブ  
 アーツ  
 「歌劇 2023年12月号」 750円 宝塚クリエイティ  
 ブーツ  
 「ル・サンク 2023年12月号」 1,000円 宝塚クリ  
 エイティブーツ  
 「日本人の罪 メリー・クリスマス (翁久允叢書  
 翁久允戯曲集)」 翁久允(著) 1,100円 桂書房  
 「ジャンヌ・ダルク 2023年版 (K.Nakashima  
 Selection)」 中島かずき(著) 1,980円 論創社  
 「レジェンド・オブ・ミュージカルwith井上芳雄」  
 井上芳雄(著) 3,520円 日経BP  
 「木村達成REAR WINDOW」 木村達成 3,630円  
 幻冬舎コミックス  
 「能と狂言 21 〈特集〉囃子の歴史と変容」 能楽学  
 会(編) 2,200円 能楽学会  
 「俳優・タレント養成ガイド2024年度版 2023年12  
 月号」 1,513円 カモミール社  
 「だれか、来る」 ヨン・フォッセ(著) 2,530円  
 白水社

## 令和5年 演劇関係物故者一覧

※敬称略

## 【1月】

●**長谷川哲夫** 1月1日、死去。84歳。俳優座養成所10期生を経て、多数のドラマや映画で活躍。「水戸黄門」シリーズの徳川綱吉役や「3年B組金八先生」シリーズの校長役など、名脇役として知られた。また、『ラ・マンチャの男』『蝉しぐれ』などの舞台にも出演した。

●**野杵俊希** 俳優。1月2日、事故による脳出血のため死去。33歳。故・赤木春恵の孫で、文学座附属演劇研究所49期生。卒業公演『僕の東京日記』で主役に抜擢された。その後ドラマや映画のほか、吉幾三特別記念公演『親はがっかり！子はしっかり！』のほか『いくじなし』『かあちゃん』『俺は、君のためにこそ死にいく』などの舞台でも活躍した。

●**龍村仁** 映画監督。1月2日、老衰のため死去。82歳。ジャック・マイヨールらが出演したドキュメンタリー映画『地球交響曲(ガイアンフォニー)』シリーズでメガホンを取った。

●**若柳三千登世** 日本舞踊家。1月5日、老衰のため死去。84歳。高知「よさこい祭り」に1954年の第1回から参加。よさこい祭りの普及や国際化に尽力した。

●**河野一郎** 英米文学者。1月6日、老衰のため死去。93歳。東京外国語大学などの教授を歴任。トルマン・カポーティ『遠い声 遠い部屋』、エミリー・ブロンテ『嵐が丘』など多くの翻訳を手がけた。

●**安藤満** 元文藝春秋社長。1月9日、心不全のため死去。91歳。1955年に文藝春秋新社(当時)に入社。雑誌『諸君』『オール読物』『文藝春秋』で編集者を歴任し、95年から99年まで社長を務めた。

●**竹村次郎** 作曲・編曲家。1月9日、肺炎のため死去。89歳。都はるみ『北の宿から』、大川栄策『さざんかの宿』、加藤登紀子『知床旅情』、青江三奈『伊勢佐木町ブルース』などヒット作を数多く手がけた。

●**ジェフ・ベック** ギタリスト。1月10日、死去。78歳。公式サイトによると、細菌性髄膜炎を患った後、亡くなったという。1965年に英

ロックグループ「ヤードバーズ」に加わり、脱退後は自らのバンド「ジェフ・ベック・グループ」で活動。グラミー賞を8回受賞した。エリック・クラプトン、ジミーペイジと共に「世界3大ギタリスト」と称された。

●**高橋幸宏** ミュージシャン。1月11日、脳腫瘍により併発した誤嚥性肺炎のため死去。70歳。加藤和彦率いる「サディスティック・ミカ・バンド」に参加した後、1978年に細野晴臣と坂本龍一と共にYMOを結成。高橋が作曲した『ライディーン』などが大ヒットし、国内外にテクノポップ・ブームを巻き起こした。

●**鎬木蓮** 1月11日、多臓器不全のため死去。61歳。広告代理店勤務などを経て、2006年『東京ダモイ』で江戸川乱歩賞を受賞。「思い出探偵」シリーズなどのほか、医療系ミステリーにも力を入れていた。

●**吉岡平** 作家。1月13日、死去。62歳。ライトノベル作家として、スペースオペラ小説「宇宙一の無責任男」シリーズで知られる。同作はテレビアニメ『無責任艦長タイラー』の原作になったほか、ミュージカル版の原案にもなった。

●**菊地梯子** 箏曲演奏家。1月14日、心不全のため死去。95歳。宮城道雄に師事。現代邦楽やコンピューター音楽まで幅広いジャンルを国内外で演奏し、十七弦箏の可能性を広げた。1991年芸術選奨文部大臣賞、95年紫綬褒章、2001年勲四等宝冠章。

●**清水可子** 評論家。1月14日、死去。88歳。国立劇場芸能調査室、室長を経て2000年に日本芸術文化振興会を退職。著書に『歌舞伎教室』『歌舞伎入門』『歌舞伎の20世紀』(以上、共著)など。日本演劇協会会員。

●**蒲田浩二** 元朝日新聞社常務。1月14日、急性白血病のため死去。98歳。

●**三谷昇** 俳優。1月15日、慢性心不全急性増悪のため死去。90歳。高校卒業後、文学座にスタッフとして入団。その後俳優に転身し、劇団雲を経て演劇集団円の設立に参加した。別役実『メリーさんの羊』や蜷川幸雄『オイディプス王』などの舞台のほか、黒澤明『どですかねん』、伊

丹十三『マルサの女2』『ミンボーの女』、テレビ「ウルトラマン」シリーズやNHK大河ドラマなど幅広い作品に多数出演し、個性派俳優として活躍した。第50回紀伊國屋演劇賞男優賞を受賞。

●**ジーナ・ロロブリジーダ** 伊・俳優。1月16日、死去。95歳。1952年の映画『花咲ける騎士道』などに出演して国際的な評価を受け、米ハリウッドにも進出。50年代を代表する女優の一人で、出演作のタイトルにちなみ「世界一美しい女性」とも呼ばれた。

●**清元梅吉** 清元節三味線方。1月20日、老衰のため死去。90歳。祖父の二世清元寿兵衛に師事し、1955年に四世清元梅吉を襲名。67年に清元流家元を継承し、2013年に重要無形文化財(人間国宝)に認定された。2015年旭日小綬章。

●**日黒考二** 本の雑誌社前社長、文芸評論家。1月19日、肺がんのため死去。76歳。1976年、椎名誠を編集長とし、沢野ひとし、木村晋介と共に本の雑誌社を設立。書評を中心とした月刊「本の雑誌」を発行。北上次郎の名で『冒険小説論—近代ヒーロー像100年の変遷』など多数著作。藤代三郎の名で競馬エッセイを発表するなど幅広く活動した。

●**長谷川孝治** 劇作家、演出家。1月21日、胃がんのため死去。66歳。1978年に劇団「弘前劇場」を結成、すべての作品の劇作・演出を担当。第1回日本劇作家協会最優秀新人戯曲賞受賞。日本各地での公演のほか、戯曲は英語、独語、仏語、中国語、韓国語に翻訳され、海外でも多く再演された。2006年には青森県立美術館の舞台芸術総監督となり、演劇『津軽』『ダンスアレコ青森』など地元を主として作品を上演していた。

●**上野山功一** 俳優。1月22日、胃がんのため死去。89歳。1959年に映画『昼下がりの暴力』でデビュー。主に悪役として活躍し、ドラマ『太陽にほえろ!』『必殺仕事人』などに出演した。

●**小沼勝** 映画監督。1月22日、肺炎のため死去。85歳。1961年、日活に助監督として入社。野口晴康や中平康らの助監督として経験を積み、71年『花芯の誘い』で監督デビュー。日活ロマンポルノが終了する88年まで『花と蛇』『花芯の刺青 熟れた壺』など47本を監督、作品は世界的にも高く評価された。初の一般映画『NAGISA』では第51回ベルリン国際映画祭キンダー

フィルム部門グランプリを受賞した。

●**工藤強勝** グラフィックデザイナー、桑沢デザイン研究所所長。1月23日、死去。74歳。雑誌や書籍のアートディレクションや展覧会ポスターのデザインを手がけ、評論活動も行った。

●**門田博光** 元プロ野球選手。1月24日、死去。74歳。天理高校からクラレ岡山を経て1970年にドラフト2位で南海に入団。豪快なフルスイングでファンを魅了し、40歳となる88年には全130試合に出場しパ・リーグ1位の44本塁打125打点を記録、「不惑の二冠王」と脚光を浴びた。

●**つばめ真由美** 「ザ・リリーズ」メンバー。1月24日、脳腫瘍のため死去。62歳。奈緒美と双子の姉妹デュオ「ザ・リリーズ」として75年『水色のときめき』でデビュー。『好きよキャプテン』がヒットした。

●**永井路子** 作家。1月27日、老衰のため死去。97歳。小学館に編集者として勤務し、同人誌「近代話話」に参加して小説の執筆を続け、1965年『炎環』で直木賞を受賞。『歴史をさわがせた女たち』『一豊の妻』など、女性の視点から描かれた歴史小説やエッセイも数多く執筆。『北条政子』『山霧—毛利元就の妻』はNHK大河ドラマの原作にもなった。

●**山田珠真子** 1月28日、膵臓がんのため死去。84歳。1959年に東京演劇ゼミナール(現：劇団東演)の第一期研究生として入所。63年間に渡り、劇団一筋で演劇活動が続けてきた。2002年から21年まで劇団の代表として舞台上立ちながら運営や後進の指導にも尽力した。

●**米内山明宏** 演出家、日本ろう者劇団前代表。1月29日、死去。70歳。日本ろう者劇団の創立者であり、代表を経て劇団顧問に。劇団創設時の手話狂言の演技により昭和62年度文化庁芸術祭賞受賞に貢献したほか、池袋演劇祭アゼリア大賞など劇団代表として受賞も多数。演劇、映画、テレビなどの手話指導も多く、日本のろう芸能の世界の礎を築いた。

●**鮎川誠** 歌手、ギタリスト。1月29日、膵臓がんのため死去。74歳。ロックバンド「シーナ&ロケット」のボーカル、ギター。俳優としてもドラマ『愛情物語』『ジャージの二人』、NHK朝の連続テレビ小説『ちゅらさん』などに出演し、存在感を発揮した。

●**アニー・ワーシング** 米・俳優。1月29日、

死去。45歳。「スタートレック ピカード」「ヴァンパイア・ダイアリーズ」など多くのドラマシリーズに出演。日本でも人気のドラマ『24』でFBI捜査官ルネ・ウォーカー役を演じた。

## 【2月】

●**パコ・ラバンヌ** デザイナー。2月3日、死去。88歳。パリで建築を学び、60年代から自身のコレクションを発表。アルミニウム製ドレスなど斬新なデザインで注目されたほか、自身の名を冠したブランドは香水も注目された。

●**河原畑寧** 映画評論家。2月4日、肺がんのため死去。88歳。読売新聞社で映画批評を担当、退職後に映画評論家として活躍した。

●**辻村寿三郎** 人形作家。2月5日、心不全のため死去。89歳。戦後、演劇を志し、前進座の河原崎國太郎を頼って上京。その後、人形制作の道に進む。“辻村ジュサブロー”の名でNHK連続人形劇『新八犬伝』『真田十勇士』の人形美術を担当。一方で映画や舞台の衣裳デザインも手がけ、『王女メディア』など蜷川幸雄演出作品では衣裳などのアートディレクターも務めた。

●**貴家堂子** 声優。2月5日、死去。87歳。1969年の『サザエさん』放送開始から「タラちゃん」とフグ田タラオを演じ、2019年「最も長くテレビアニメシリーズにおいて同じ役を演じ続ける声優」として、サザエ役の加藤みどりと共にギネス世界記録に認定された。他に『天才バカボン』ハジメちゃん、『ハクション大魔王』アクビなど。

●**森田実** 政治評論家。2月7日、悪性リンパ腫のため死去。90歳。大学在学中に学生運動に参加。共産党に入党し、全日本学生自治会総連合(全学連)執行委員として砂川闘争の指揮を執ったが、極左冒険主義に反対し共産党を除名された。出版社勤務を経て1973年に政治評論家として独立。半世紀にわたり政治評論を行い「戦後政治の生き証人」と称され、テレビやラジオで活躍した。

●**木下正俊** 関西大学名誉教授。2月7日、老衰のため死去。97歳。上代文学を専門とし、『日本古典文学全集 万葉集』の訳を担った。

●**小竹信節** 舞台美術家。2月8日、結腸がんのため死去。72歳。1975年から寺山修司主宰の演劇実験室「天井桟敷」の美術監督として『阿呆

船』『奴婢訓』『百年の孤独』などの後期寺山修司全作品の舞台美術と映画美術を担当。その後、蜷川幸雄作品をはじめ演劇やオペラなどの舞台美術を手がけたほか、1990年から91年まで青山・スパイラルホールの芸術監督に就任。『新機械劇場』『ムンヒハウゼン男爵の大冒険』など装置のみによる演劇作品を発表した。2002年読売演劇大賞優秀スタッフ賞。

●**田勢康弘** コラムニスト。2月8日、心不全のため死去。78歳。日本経済新聞社でコラムニストを務め、1996年度日本記者クラブ賞を受賞。テレビ番組のコメンテーターとしても活躍した。

●**バート・バカラック** 米・音楽家。2月8日、死去。94歳。60年代前半から80年代にわたり、ディオンヌ・ワーウィックやカーペンターズなどに多数のヒット曲を提供し、ポピュラー音楽界の頂点に。また69年の映画『明日に向かって撃て』でアカデミー作曲賞と歌曲賞を受賞。同作のテーマ曲『雨にぬれても』は世界的ヒットを記録した。“バカラック・サウンド”と呼ばれる独特のスタイルで知られ、転調や変拍子を多用した高度な作曲技術は、世界中の作曲家に影響を与えた。

●**柁屋勝国** 長唄三味線方。2月9日、間質性肺炎のため死去。77歳。6歳で柁屋寿太郎に入門し、14歳で柁屋勝国を名乗る。東京芸術大学邦楽科を卒業、迫力あるバチさばぎと的確な表現で高評を博し、国内外での公演は多数、坂東玉三郎らの歌舞伎舞踊の立三味線を務めるなど広く活躍した。2019年重要無形文化財(人間国宝)に認定。2021年旭日小綬章。

●**信藤三雄** アートディレクター。2月10日、胃がんのため死去。75歳。1986年にデザイン会社「コンテムポラリー・プロダクション」を設立。松任谷由実『VOYAGER～日付のない墓標』やアルバム『NO SIDE』『ダイヤモンドダストが消えぬまに』、サザンオールスターズ『海のYeah!!』などのレコードやCDジャケットを1000枚以上手がけた。また映像作家としてエレファントカシマシやGLAY、桑田佳祐のミュージックビデオを手がけたほか、映画『男はソレを我慢できない』などのメガホンを取った。

●**カルロス・サウラ** スペイン・映画監督。2月10日、呼吸不全のため死去。91歳。1966年の

ベルリン国際映画祭で監督賞を受賞した『狩り』で国際の評価を得て、1976年のカンヌ国際映画祭では『カラスの飼育』で審査員特別大賞を受賞、スペインを代表する「巨匠」映画監督と称された。また、80年代には伝説的なフラメンコダンサー、アントニオ・ガデス主演の三部作『血の婚礼』『カルメン』『恋は魔術師』でミュージカル映画の新境地を開いた。

●**ヒュー・ハドソン** 英・映画監督。2月10日、死去。86歳。1924年パリ五輪の陸上競技を題材にした代表作『炎のランナー』は、米アカデミー賞で作品賞や作曲賞など4部門を受賞した。

●**松本零士** 漫画家。2月13日、急性心不全のため死去。85歳。1972年『男おいどん』で講談社出版文化賞を受賞。74年からテレビ放送された『宇宙戦艦ヤマト』が大ヒットした。78年には同じく国民的アニメとなった『銀河鉄道999』などで小学館漫画賞を受賞。同作は舞台化、ミュージカル化され度々上演されている。

●**豊田章一郎** トヨタ自動車名誉会長。2月14日、心不全のため死去。97歳。トヨタ自動車創業者・豊田喜一郎の長男で、1952年に入社し、81年に当時のトヨタ自動車販売社長に就任。その後、合併により誕生したトヨタ自動車の社長に就任し、世界有数の自動車メーカーへと発展させた。2007年桐花大綬章。

●**手塚治** 東映株式会社代表取締役社長。2月14日、死去したことが東映より発表された。62歳。1983年に東映に入社がドラマを中心に「スケバン刑事」「京都迷宮案内」「科捜研の女」などの人気シリーズを手がけるなど、歴代の東映社長では異例の経歴をたどった。2010年執行役員、12年取締役、16年常務を経て20年に社長に就任した。

●**伊東絹子** 元モデル、俳優。2月14日、心不全のため死去。90歳。1953年にミス・ユニバース日本に選ばれ、第2回世界大会で3位に入賞。戦後日本で「日本女性の美が認められた」と一大センセーションを巻き起こし、「8頭身美人」という言葉が流行した。その後、俳優として映画やドラマに出演した。

●**岡田徹** ミュージシャン。2月14日、心不全のため死去。73歳。鈴木慶一らと1975年に結成した「ムーンライダーズ」のキーボードとして活躍。CMソングから映画音楽まで数多くの楽

曲を手がけた。

●**飯塚昭三** 声優。2月15日、急性心不全のため死去。89歳。東映制作の特撮ドラマ『超人バロム1』ドルゲ役、『人造人間キカイダー』ハカイダー役、『イナズマン』バンバ役など、悪の怪人やボスを長年にわたり演じ「50年間も地球制服を企てた男」と呼ばれた。そのほかアニメの声優も多く務め、東京アニメアワードフェスティバル2022でアニメ功労部門賞を受賞した。

●**ラクエル・ウェルチ** 米・俳優。2月15日、死去。82歳。SF映画『ミクロの決死圏』など70作品以上の映画やテレビに出演。1966年『恐竜100万年』で大きな注目を集めたほか、1973年『三銃士』で米ゴールデン・グローブ賞ミュージカル・コメディ部門で主演女優賞を受賞した。

●**ステラ・スティーブンス** 米・俳優。2月17日、死去。84歳。19歳でプレイボーイ誌のモデルになったあと、60年代に入ってアイドル的な女優として注目を集める。映画『底抜け大学教授』(1963年)などのコメディ映画を中心に活躍したほか、『ポセイドンアドベンチャー』(72年)などにも出演した。

●**肥留間正明** 芸能文化評論家。2月18日、急性大動脈解離のため死去。73歳。週刊誌「女性自身」「週刊宝石」などの芸能記者を経て音羽出版を設立。テレビのコメンテーターとしても活躍した。

●**高橋湛** 朝日新聞社元取締役。2月18日、死去。81歳。

●**三井徹** 音楽学者、金沢大学名誉教授。2月19日、解離性大動脈瘤のため死去。82歳。国内外のポピュラー音楽が専門、日本ポピュラー音楽学会会長を務めた。

●**時代吉二郎** 俳優。2月20日、心不全のため死去。80歳。強面の風貌と高い演技力で「水戸黄門」「銭形平次」「必殺」シリーズの悪役などで存在感を発揮。杉良太郎や舟木一夫の座長公演など舞台でも活躍した。

●**山根貞男** 映画評論家。2月20日、胃がんのため死去。83歳。日本読書新聞などの編集者を経て映画評論家の道へ。マキノ雅弘や加藤泰、深作欣二ら日本の監督に対する聞き書き本を多数刊行したほか、1986年からキネマ旬報で「日本映画時評」を連載。22年かけて編集した

『日本映画作品大事典』で日本映画ペンクラブ賞を受賞した。

●**笑福亭笑瓶** 落語家、タレント。2月22日、急性大動脈解離のため死去。66歳。1981年に笑福亭鶴瓶に弟子入り。『突然ガバチョ!』『鶴ちゃんのプッツン5』などのバラエティー番組で活躍した。

●**西山太吉** 元毎日新聞記者。2月24日、心不全のため死去。91歳。慶應義塾大学大学院を終了後、毎日新聞社に入社。沖縄返還を巡る日米間の密約報道に関わったことで知られる。一連の事件をテーマにした山崎豊子『運命の人』の主人公のモデルとされている。

●**千田光男** 声優。2月25日、虚血性心不全のため死去。82歳。海外ドラマ「NCIS ネイビー犯罪捜査班」「マイアミ・バイス」シリーズ、映画「インファナル・アフェア」シリーズなど、洋画の吹き替えを務めた。

### [3月]

●**ウェイン・ショーター** 米・サクソ奏者。3月2日、死去。89歳。マイルス・デイヴィスのバンドに参加したのち、自身のグループ「ウエザー・リポート」などで活躍。1950年代のジャズ黄金期切り開いた巨匠のひとりとして知られた。

●**大川隆法** 「幸福の科学」総裁。3月2日、死去。66歳。東京大学法学部を卒業後、大手総合商社を経て、1986年に新興宗教団体「幸福の科学」を設立。2009年に同団を支持母体とする「幸福実現党」を立ち上げた。

●**ラファエル・ビニオリ** 建築家。3月2日、死去。78歳。大学で建築学を学んだのち、1983年にラファエル・ビニオリ建築事務所を設立。オフィスやホテル、コンサートホールなど、世界中で600以上もの建造物の設計・建築に関わった。中でも東京国際フォーラムは最も高く評価された作品のひとつとなった。

●**鶴澤寛也** 女流義太夫三味線。3月3日、乳がんのため死去。62歳。1983年、鶴澤寛八に入門。義太夫協会定例公演を中心に「芸能花舞台」などのテレビや石川さゆりリサイタルなど幅広い演奏活動を行った。2009年重要無形文化財義太夫節総合指定保持者認定、第25回伝統文化ポーラ賞奨励賞など受賞は多数。一般社団法人

義太夫協会理事、国立劇場竹本研修講師等も務めた。

●**トム・サイズモア** 米・俳優。3月3日、死去。61歳。映画『ナチュラル・ボーン・キラーズ』などへの出演で注目を集め、『プライベート・ライアン』では軍曹役で高い評価を得た。

●**大江健三郎** 作家。3月3日、老衰のため死去。88歳。東京大学在学中に作家としてデビューし、1958年『飼育』で芥川賞を受賞。戦後民主主義世代の文学の旗手となり、右翼少年を描いた61年『セヴンティーン』でも注目を集めた。94年にはノーベル文学賞を受賞。日本人作家として68年川端康成以来の快挙となった。

●**木村貴宏** アニメーター。3月5日、難病・アミロイドーシス闘病の末、死去。アニメ『コードギアス』シリーズのキャラクターデザインを務めた。

●**秋竜山** 漫画家。3月6日、肺炎による心不全のため死去。80歳。60年代からナンセンスギャグ作品を発表。代表作に『ギャグおじさん』『親バカ天国』『ノッホホン氏』『あっぱれさん』など。

●**久貴千彩子** 脚本家。3月8日、胆管がんのため死去。93歳。テレビアニメ『愛少女ポリアンナ物語』や時代劇「鬼平犯科帳」シリーズなどの脚本を担当した。

●**扇千景** 俳優。3月9日、食道胃接合部がんのため死去。89歳。1954年に宝塚歌劇団に入団し、初舞台ののちに八千草薫と共に映画専科に編入され、同年の映画『怪傑鷹』で銀幕デビュー。57年に退団し、翌58年に歌舞伎俳優の中村扇雀(四代目坂田藤十郎、2020年死去)と結婚。1年後にドラマ『君はいま何をみつめている』で復帰し芸術祭個人奨励賞を受賞、その後もドラマや映画などで活躍した。77年参院選に出馬し初当選。2000年に森喜朗内閣で建設大臣として初入閣。その後初代の国土交通大臣を歴任し、04年には女性初の参院議長に就任。2007年に政界から引退した。

●**ロバート・ブレーク** 米・俳優。3月9日、心臓病のため死去。89歳。1967年の映画『冷血』や70年代のテレビシリーズ「刑事バレッタ」など数々の作品に出演。「刑事バレッタ」ではエミー賞などを獲得するなど高い評価を得た。

●**菅野昭正** 仏文学者、東京大学名誉教授。3月9日、病気のため死去。93歳。大学で教える

傍ら文芸評論家としても活動。1985年『詩学創造』で芸術選奨文部大臣賞、86年『ステファヌ・マラルメ』で読売文学賞、2009年『永井荷風巡歴』でやまなし文学賞を受賞。07年から21年まで世田谷文学館館長を務めた。97年紫綬褒章、日本芸術院会員。

●**陳健一** 料理人、四川飯店グループ会長。3月11日、間質性肺炎のため死去。67歳。日本に初めて四川料理を広めたとされる故・陳健民の長男として生まれる。1993年、『料理の鉄人』に中華の鉄人として出演し一躍人気に。その後、テレビや雑誌などでも活躍、四川料理の普及や後進の育成にも努めた。

●**津山登志子** 俳優。3月12日、死去。69歳。モデル活動を経て劇団若草に入団。1970年にドラマ『泣かないで！かあちゃん』でデビュー。NHK大河ドラマ『春日局』、NHK連続テレビ小説『虹』、映画『犬笛』など多くのドラマや映画に出演した。

●**ボビー・コールドウェル** 米・歌手。3月14日、死去。71歳。大人向けロック「AOR(アダルト・オリエンテッド・ロック)」の代表的存在のひとりで、“ミスターAOR”と称された。1978年の『風のシルエット』などのヒット曲で日本でも幅広い人気を獲得した。

●**ランス・レディック** 米・俳優。3月17日、死去。60歳。イエール大学で演劇を学び、テレビや映画で活躍。主な作品に映画「ジョン・ウィック」シリーズ、ドラマ「ロスト」「フリンジ」シリーズなど。

●**後藤陽吉** 俳優。3月19日、死去。92歳。1953年に舞台芸術学院卒業後、劇団舞芸座、演劇集団発見の会などを経て64年劇団青年劇場に入団。『多すぎた札束』『喜劇キューリー夫人』『真珠の首飾り』など多くの舞台で活躍。また映画『砂の器』『八つ墓村』などテレビや映画などでも活躍した。

●**岡時朗** 俳優。3月22日、肺がんのため死去。74歳。1968年に資生堂「MG5」のCMでデビュー。1971年から放送された特撮ドラマ『帰ってきたウルトラマン』で主人公・郷秀樹を演じ人気となった。1984年に片岡孝夫(現：仁左衛門)主演の舞台『ハムレット』に出演以降、坂東玉三郎主演『長崎十二景』、杉村春子主演『浮巢』のほか、森光子主演公演、森繁久彌座長公演など、舞

台やテレビで活躍した。

●**奈良岡朋子** 俳優。3月23日、肺炎のため死去。93歳。1948年に劇団民藝の前身となる民衆芸術劇場に入団。劇団民藝の創立公演に研究生として参加、『かもめ』でニーナ役を演じた。2000年からは大滝秀治と劇団民藝の共同代表、2012年からは1人で代表を務めた。出演作は枚挙にいとまなく、『イルクーツク物語』ワーリャ役、『奇跡の人』サリバン役など、深みのある演技で存在感を発揮した。『ドライビング・ミス・デイジー』で第60回記念芸術祭大賞、同作と『火山灰地』の演技で第47回毎日芸術賞、第5回朝日舞台芸術賞、第23回読売演劇大賞では芸術名誉賞を受賞、晩年は『黒い雨一八月六日広島にて、矢須子一』で全国各地を巡演した。92年紫綬褒章、2000年旭日小綬章。

●**長沼孝一郎** 元アサツーディ・ケイ(現：ADKマーケティング・ソリューションズ)社長。3月24日、心不全のため死去。78歳。

●**飯塚定雄** 光学合成技師。3月24日、誤嚥性肺炎のため死去。88歳。東宝撮影所のアルバイトとして『ゴジラ』『空の大怪獣ラドン』など様々な美術助手を担当。1957年頃に円谷英二に光学作画の担当を勧められ、その後は光学作画の第一人者として特撮作品の隆盛を支えた。長年の功績から平成27年度文化庁映画賞映画功労部門を受賞した。

●**菊棚月清** 地歌箏曲演奏家。3月25日、脳出血のため死去。88歳。師事していた初世月清が2000年に死去した後、二世として名前を継いでいた。

●**黒土三男** 脚本家。3月25日、多臓器不全のため死去。76歳。木下恵介プロダクションで助監督を務めた後にフリーに。『コメットさん』で脚本家デビューし、『オレゴンから愛』『とんぼ』『外科医柁又三郎』などのドラマ脚本を手がけた。また映画『オルゴール』『蝉しぐれ』などでは監督も務めた。

●**坂本龍一** 音楽家。3月28日、死去。71歳。東京藝術大学大学院終了後、1978年にアルバム『千のナイフ』でデビュー。同年、細野晴臣と高橋幸宏と「イエロー・マジック・オーケストラ(YMO)」を結成。テクノ・ポップとして国際的に注目を集めた。83年にソロで音楽を担当した映画『戦場のメリークリスマス』(大島渚監督)



で英・アカデミー賞音楽賞などを受賞。また87年『ラスト・エンペラー』の音楽で、日本人初の米・アカデミー賞作曲賞、グラミー賞を受賞した。手がけたジャンルは現代音楽から歌謡曲まで多岐にわたり、元妻の矢野顕子や忌野清志郎ら内外の多くのアーティストと楽曲提供などを通じて共演、音楽的知識の深さと卓越した技量から「教授」の愛称で親しまれた。

●**橋家二三蔵** 落語家。3月30日、誤嚥性肺炎のため死去。77歳。1964年に八代目桂文楽に入門。73年に七代目橋家円蔵門下に移り、79年に真打ちに昇進。『文七元結』『青菜』など古典落語を得意とした。またNHK連続ドラマ小説『君の名は』など、俳優としてドラマや映画でも活躍した。

●**岩崎ちえ** 俳優。3月31日、老衰のため死去。92歳。1951年に劇団民藝に入団。1959年には『漁港』で第1回「新劇」演技推賞を受賞した。

## 【4月】

●**畑正憲** 作家。4月5日、心筋梗塞のため死去。87歳。東京大学卒業後、学習研究社(現：学研ホールディングス)に入社して動物記録映画を製作。1968年に退社し、著作活動に専念。同年『われら動物みな兄弟』で日本エッセイスト・クラブ賞を受賞した。北海道に「動物王国」を作り、様々な動物と共に暮らした。動物王国を舞台に80年に放送が始まったフジテレビの「ムツゴロウとゆかいな仲間たち」シリーズは20年以上続く人気番組に。世界を旅して動物に親愛の情を示す姿も共感を集めた。動物文学の発展などの功績で菊池寛賞を受賞。『ムツゴロウの博物志』『ムツゴロウの青春記』など著書多数。

●**海野弘** 評論家、作家。4月5日、虚血性心不全のため死去。83歳。平凡社に入社し雑誌「太陽」の編集長を経て独立。美術や都市論、映画など幅広い分野で執筆活動を行った。著書に『江戸ふしぎ草子』『アール・ヌーボーの世界』『モダンダンスの歴史』『華麗なる「バレエ・リュス」と舞台芸術の世界—ロシア・バレエとモダン・アート—』(解説/監修)など。

●**生野慈朗** 元TBSディレクター。4月6日、間質性肺炎のため死去。73歳。1972年にTBSに入社。「3年B組金八先生」シリーズのほか、

『ずっとあなたが好きだった』『愛していると言ってくれ』『ビューティフルライフ』など数々のヒットドラマを手がけた。映画『余命』『食べる女』では監督も務めた。

●**富岡多恵子** 作家。4月6日、老衰のため死去。87歳。1983年に代表作『波うつ土地』を発表。小説だけでなく詩や評論など幅広く創作。1969年(第24回)毎日映画コンクールで日本映画大賞を受賞した『心中天網島』(中村吉右衛門、岩下志麻ほか)で篠田正浩監督と脚本を共同で手がけた。2008年日本芸術院会員。

●**寺崎裕則** 演出家。4月7日、老衰のため死去。89歳。大学卒業後に文学座に入座。三島由紀夫とともに「浪漫劇場」を設立し、三島作品の上演にも携わった。その後、宇野信夫に師事し歌舞伎の演出を手がけたほか、オペレッタの普及にも尽力。NPO法人日本オペレッタ協会の理事長なども務めた。

●**高橋豊** 演劇評論家、元毎日新聞社専門編集委員。4月8日、呼吸不全のため死去。78歳。1969年に毎日新聞社に入社。学芸部で現代演劇やミュージカルを中心に取材。著書に『幻を追って 仲代達矢の役者半世紀』『蜷川幸雄伝説』など。

●**富岡多恵子** 作家。4月8日、老衰のため死去。大学在学中に詩作を始め、詩集『返礼』で第8回H氏賞、『物語の明くる日』で第2回室生犀星新人賞を受賞。その後、小説『植物祭』『ひべるにあ鳥紀行』、評論『中勘助の恋』『西鶴の感情』などを発表するなど、幅広い分野で活躍。また映画『心中天網島』など映画や舞台の脚本も手がけた。2008年日本芸術院会員。

●**今村忠純** 日本文学研究者。4月9日、気胸のため死去。80歳。日本近代文学や演劇論が専門。岸田國士研究に取り組み『岸田國士全集』全28巻の編纂と解説を担当したほか、井上ひさし研究会会長を務めた。著書に『山本有三』『井上ひさし短編中編小説集成』(全12巻、全巻解説・解題)。2022年瑞宝中綬章。

●**澄川喜一** 彫刻家。4月9日、死去。91歳。代表作は「そりのあるかたち」シリーズで、建築家・安藤忠雄と東京スカイツリーのデザイン監修を務めた。1998年紫綬褒章、2008年文化功労者、20年文化勲章。

●**熊谷盛** 劇団「麦」代表。4月10日、死去。83

歳。1963年に宮城・仙台市で最も歴史のある劇団「麦」の創立に参加。市のガス局に勤める傍ら83年から代表を務めた。2002～05年には「せんだい演劇工房10-BOX」の初代工房長も務め、「劇都」仙台を目指す旗振り役を務めた。

●**山竹洋** 脚本家。4月12日、敗血症性ショックのため死去。76歳。大学卒業後、テレビ番組の構成作家などを経て脚本家に。代表作にNHK連続テレビ小説『京、ふたり』、NHK大河ドラマ『秀吉』『利家とまつ』、映画『四十七人の刺客』など。2000年放送の『葉の花の沖』などで芸術選奨文部科学大臣賞、2017年旭日小綬章。

●**マリ－クワント** 英・ファッションデザイナー。4月13日、死去。93歳。1955年にロンドンのチェルシー地区に、自身と同世代の若い女性向けのブティック「バザー」を開業。膝上丈のスカートやカラータイツなど革新的なファッションで、世界のミニスカート・ブームの火付け役となった。その後、ホットパンツも考案し、60年代のモッズスタイルの発展に貢献、若者を中心に世界のファッション業界に衝撃を与えた。

●**市川左團次** 歌舞伎俳優。4月15日、右下葉肺がんのため死去。82歳。三代目市川左團次の長男で1947年『寺子屋』菅秀才で五代目市川男寅を名乗り初舞台。62年『曾我の石段』八幡三郎などで五代目市川男女蔵、79年『京人形』左甚五郎と『毛抜』叡寺弾正で四代目市川左團次を襲名した。尾上菊五郎劇団としての世話物に留まらず、時代物や新歌舞伎としての世話物に加える重厚な演技を見せ、敵役の演技に定評がある一方で、老け役から女形などのユーモラスな役柄までこなし、幅広い演技で人気を集めた。最後の舞台は2023年1月国立劇場『遠山桜天保日記』羅漢尊者。97年第18回松尾芸能賞優秀賞、98年眞山青果賞特別賞、2011年旭日双光章、16年日本芸術院賞。

●**丹波明** 作曲家。4月14日、死去。90歳。日本音楽の研究者として知られ、クラシックに能音楽を融合する独自の作曲語法を確立。集大成であるオペラ『白峯』が2014年に上演された。著書に『序破急という美学』。

●**厚木凡人** 舞踊家、振付家。4月19日、急性心筋梗塞のため死去。87歳。舞踊家の石井みどり師事。1964年に振付家としての活動を始

め、日本のポスト・モダンダンスの第一人者として活躍した

●**高野澄** 作家。4月20日、心不全のため死去。84歳。日本史研究に基づく著作を多数発表。代表作に「京都の謎」シリーズや『文学でめぐる京都』『風狂のひと 辻潤』など。

●**米倉健司** 元ヨネクラジム会長。4月20日、死去。88歳。1956年のメルボルン五輪にフライ級で出場。プロとして日本フライ級、東洋バンタム級王座を獲得した。63年にジムを開設し、柴田国明、ガッツ石松など5人の世界王者を育てた。

●**野中友博** 劇作家、演出家。4月25日、へん平上皮がんのため死去。60歳。劇団青年座を経て1985年に「P-BOX」結成、作・演出活動に入る。1998年、『化蝶譚』でテアトロ新人戯曲賞受賞。「演劇実験室：紅王国」を結成、以後主宰者として活動。幻想的作風と美しい文体から“現代の泉鏡花”とも呼ばれた。

●**ハリー・ペラフォンテ** 米・歌手。4月25日、うっ血性心不全のため死去。96歳。ニューヨークのナイトクラブで歌手として活動し注目を浴び、『バナナ・ボート』が50年代半ばに大ヒットした。

●**福岡健二** 詩人、映画監督。4月26日、肺炎のため死去。74歳。詩集『青い家』で藤村記念歷程賞、萩原朔太郎賞。主な映画監督作品に『パラダイス・ロスト』。

●**鈴木太郎** 演劇ライター、詩人。4月27日、死去。83歳。元赤旗文化部記者。詩人会議事務局長。穏やかな目線の劇評で演劇人との交流も多かった。

## 【5月】

●**渡辺芳子** 俳優。5月1日、慢性心不全のため死去。96歳。俳優座養成所を卒業後、劇団仲間の創立メンバーに。『森は生きている』に約半世紀にわたり出演した。著書に『われらの仲間「森は生きている」とともに』。

●**栗田勇** 作家、評論家。5月5日、老衰のため死去。93歳。日本で初めて『ロートリアン全集』の個人訳を手がけたほか、文学や演劇、美術など幅広い分野で評論・創作活動を行った。『一遍上人』で芸術選奨文部大臣賞を受賞。99年紫綬褒章。

●**フィリップ・ソレルス** 仏・作家。5月5日、死去。86歳。1958年、22歳で出版した恋愛心理小説『奇妙な孤独』が高く評価され注目を浴びる。その後『公園』『ドラマ』など実験的な作品で、戦後の仏前衛文学(ヌーボー・ロマン)の旗手として知られた。60年創刊の文芸誌「テル・ケル」は、前衛的な文学論で世界の文学界や思想に影響を与えたと言われた。

●**平和ラッパ** 音曲漫才師。5月5日、呼吸器不全のため死去。79歳。1987年に「平和ラッパ・梅乃ハッパ」を結成し、ギターと歌の音曲漫才で活躍した。

●**グレース・バンブリー** 米・オペラ歌手。5月7日、死去。86歳。1960年にパリ・オペラ座『アイダ』アムネリス役でデビューし、61年に黒人歌手として初めて独・パイロイト音楽祭に出演。その後30年以上にわたり世界の舞台で活躍した。

●**横田忠義** 元バレーボール選手。5月9日、死去。75歳。大学時代に松平康隆監督率いる全日本男子に19歳で選ばれ、1968年メキシコ五輪で銀メダル、72年ミュンヘン五輪で金メダルを獲得。長身から放つ強力なクロススパイクを武器に、同世代の大古誠二、森田敦悟と「ビッグスリー」と呼ばれ人気を集めた。

●**中西太** 元プロ野球選手。5月11日、心不全のため死去。90歳。1952年に西鉄ライオンズに入団。本塁打王5回、首位打者2回、打点王3回を獲得。「怪童」と呼ばれた。29歳で監督を兼任し、63年にリーグ優勝を遂げた。指導者として8球団を渡り、掛布雅之、岡田彰布、イチローらを育てたことでも知られる。

●**いなせ家半七** 落語家。5月11日、すい臓がんのため死去。64歳。1980年に五代目春風亭柳朝に入門、96年に真打ちに昇進した。

●**小西良太郎** 音楽プロデューサー。5月13日、すいがんのため死去。86歳。1960年にスポーツニッポン新聞社に入社し、94年に常務就任。音楽プロデューサーとしても活躍し、八代亜紀『舟唄』や坂本冬美『夜桜お七』などを手がけた。2000年の退社後は「東宝現代劇75人の会」に所属し俳優活動もしていた。

●**春日三球** 漫才師。5月17日、死去。89歳。リーガル千太・万吉に弟子入りし「クリモト一休・三休」として活動したが後に相方が事故で

死去。その後、夫婦漫才「春日三球・照代」として活躍。「地下鉄の電車はどこから入れたらんでしょうね」という地下鉄漫才が大ヒットした。

●**ヘルムート・バーガー** オーストリア・俳優。5月18日、死去。78歳。ルキノ・ヴィスコンティ監督に見いだされ、『地獄に墮ちた勇者ども』『ルートヴィヒ』『家族の肖像』などに出演、世界のトップ俳優として人気を集めた。

●**上岡龍太郎** 元タレント。5月19日、肺がんと間質性肺炎のため死去。81歳。1959年に横山パンチの芸名で「漫画トリオ」としてデビュー。68年の解散後は『探偵! ナイトスカープ』『ノックは無用!』などで司会者として活躍。歯に衣着せぬコメントで人気となり、関西芸能界のご意見番としても活躍した。

●**浅草駒太夫** ダンサー。5月22日、肺血症のため死去。82歳。ストリップ劇場「浅草フランス座」のトップダンサーとして活躍。60年代後半から「花魁ショー」で人気を博した。

●**レイ・スティーブンソン** 英・俳優。5月23日、死去。58歳。映画『マイティ・ソー』『G.I.ジョー バック2 リベンジ』『トランスフォーマー イグニッション』などの主要キャストとして人気を集めた。

●**ティナ・ターナー** 米・歌手。5月24日、死去。83歳。1950年代から歌手として活動、1984年に発表したアルバム『プライヴェート・ダンサー』が世界的に大ヒットを記録し、『愛の魔力』など数々のヒット曲でグラミー賞を8回受賞。「ロックンロールの女王」として世界的に人気を集めた。また75年のロック・ミュージカル『トミー』、85年の映画『マッドマックス/サンダードーム』でメル・ギブソンと共に主演を務めるなど、映画やミュージカルでも活躍。その生涯を描いたミュージカル『Tina: The Tina Turner Musical』がウエストエンドとブロードウェイで上演されて話題を集めた。

●**杵屋喜三郎** 長唄唄方。5月25日、肺炎のため死去。99歳。十四世杵屋六左衛門の長男として生まれ、1942年に十五世杵屋喜三郎を襲名、81年に宗家を継承した。着実で安定した技法で活躍したほか作曲にも取り組み、長唄の普及に尽力した。93年に長唄協会会長に就任、97年重要無形文化財(人間国宝)に認定、99年日本芸術院賞、2006年旭日小綬章。

●**原信廣** 舞台照明デザイン。5月26日、死去。

79歳。1965年に大庭照明研究所に入所。68年より新宿コマ劇場公演の証明プランを担当し、以後、同劇場のほか梅田コマ劇場公演などを担当。81年に原照明研究所を設立し、名古屋中日劇場、劇団NLTなど多くの舞台照明デザインを手がけた。

●**中村喙夫** 演出家。5月28日、老衰のため死去。91歳。1954年に東宝撮影所助監督になり黒澤明に師事。62年に東宝演劇部に移籍し菊田一夫に師事し、菊田作品の多くで演出補を担当、65年に演出家としてデビューした。代表作にミュージカル『心を繋ぐ6ペンス』『ファンタスティック』『王様と私』『ラ・マンチャの男』。

●**岩井紫若** 日本舞踊家。5月29日、老衰のため死去。98歳。古典の復活と新作舞踊の創作に力を注いだ。

## 【6月】

●**高山由紀子** 脚本家。6月2日、老衰のため死去。83歳。1975年に映画『メカゴジラの逆襲』でデビュー。その他代表作に映画『月山』『遠野物語』、時代劇「必殺シリーズ」、小説『源氏物語千年の謎』など。映画『娘道成寺 蛇炎の恋』では監督も兼任した。

●**カイヤ・サーリア** フィンランド・作曲家。6月2日、死去。70歳。シベリウス音楽院卒業後、フランス国立音響音楽研究所で研鑽を積み、電子音楽の技術を応用した作品で世界的な評価を確立。2021年には東京文化会館で能を題材としたオペラ『オンリー・ザ・サウンド・リメインズ 余韻』が上演された。

●**亀井忠雄** 能楽囃子葛野流大鼓方。6月3日、肺炎のため死去。81歳。葛野流大鼓方・亀井俊雄の次男に生まれ1949年に初舞台。父のほか川崎九淵、吉見嘉樹にも師事し、鋭く華麗、かつスケールの大きな演奏で頭角を現し、2012年に葛野流家元を継承。02年重要無形文化財(人間国宝)認定、04年紫綬褒章、12年旭日小綬章、19年日本芸術院賞、同年日本芸術院会員。国立劇場能楽研修の主任講師として長年後進の育成にも努めた。

●**アストラッド・ジルベルト** ブラジル・歌手。6月5日、死去。83歳。1964年発表のアルバム『ゲッツ／ジルベルト』に参加。収録曲『イバナマの娘』が世界的に大ヒットを記録し「ボサ

ノバの女王」と称された。

●**斉藤昌子** 声楽家。6月6日、がんのため死去。77歳。1970年代にNHK「おかあさんといっしょ」の歌のお姉さんとして活躍。その後、二期会『メリー・ウィドウ』『こうもり』、劇団四季『オペラ座の怪人』などに出演した。

●**平岩弓枝** 作家。6月9日、間質性肺炎のため死去。91歳。日本女子大学を卒業後、1959年『塾師』で戦後最年少で直木賞を受賞。小説のほか脚本、戯曲などで、道を究める芸人や職人、市井の人々の生き方を描く大衆文学作家として数々のヒット作を生んだ。「御宿かわせみ」シリーズは、73年の雑誌連載開始から書き続けた代表作。戯曲『三味線お千代』などで菊田一夫演劇大賞も受賞した。60年代から80年代にかけてはドラマの脚本家としても活躍。NHK連続テレビ小説『旅路』、京塚昌子主演のドラマ『肝っ玉かあさん』、視聴率50%超を誇った「ありがとう」シリーズ、400回以上続いた「平岩弓枝ドラマシリーズ」など数多くの作品を手がけた。2016年文化勲章。

●**若柳祿寿** 日本舞踊家。6月9日、すいがんのため死去。89歳。若柳流師範として「若緑会」を主宰。テレビの草創期から「シャボン玉ホリデー」「笑点」などの振付やドラマの所作指導にも携わった。

●**羽山紀代美** 振付家、宝塚歌劇団元理事。6月10日、死去。78歳。1961年に宝塚歌劇団に入団し娘役として活躍。73年の退団後は歌劇団の振付家として活躍。『ベルサイユのばら』『ヒート・ウエーブ』『国境のない地図』『エリザベト一愛と死の輪舞』など数多くの作品を手がけ、歌劇団のレッスン講師や宝塚音楽学校でも指導にあたり、後進の育成にも尽力した。2006年菊田一夫演劇賞特別賞、14年には「宝塚歌劇の殿堂」入りを果たした。日本演劇協会会員。

●**中島貞夫** 映画監督。6月11日、肺炎のため死去。88歳。東京大学文学部卒業後、1959年東映に入社。京都撮影所で今井正らに師事し64年『くノ一忍法』で監督デビュー。従来の明朗快活な東映時代劇とは一線を画す路線を開拓し66年『893愚連隊』で日本映画監督協会新人賞を受賞。以後の代表作に『まむしの兄弟』『木枯らし紋次郎』『人生劇場』『序の舞』『吉原炎上』、「極道の妻たち」「日本の首領(ドン)」シリーズなど。

●**杉下茂** 元プロ野球選手。6月12日、間質性肺炎のため死去。97歳。1949年に中日に入団、「フォークボールの神様」と呼ばれ、54年にはリーグ最多32勝を挙げ、チームを初めてリーグ優勝に導いた。

●**トリート・ウィリアムズ** 米・俳優。6月12日、バイク事故のため死去。71歳。代表作に『ザ・ファントム』『驚は舞い降りた』『ザ・グリード』『ヘアー』『プリンス・オブ・シティ』。

●**コーマック・マッカーシー** 米・作家。6月13日、死去。89歳。1965年『果樹園の守り手』で小説家デビュー。その後92年『すべての美しい馬』が人気を集め、2000年に映画化。また『血と暴力の国』を原作とした映画『ノークントリー』がアカデミー賞作品賞など4冠を受賞したほか、ピューリッツァー賞フィクション部門を受賞した『ザ・ロード』も09年に映画化された。

●**グレンダ・ジャクソン** 英・俳優。6月15日、死去。87歳。1950年代後半に舞台上で活躍し、以降は映画でも活躍。『恋する女たち』『ウィークエンド・ラブ』でアカデミー賞主演女優賞を受賞した。

●**北別府学** 元プロ野球選手。6月16日、死去。1976年にドラフト1位で広島に入団。「精密機械」と称される制球力で3年目に10勝をマーク。この年から11年連続で二桁勝利を挙げた。79年に17勝、80年には12勝の成績を残し、2年連続の日本一に貢献。92年には球団史上初の通算200勝を達成した。

●**飛鳥峯王** 日本舞踊飛鳥流初代家元。6月18日、死去。94歳。1980年飛鳥流を創設し、創作舞踊のほかOSK日本歌劇団などの公演で演出なども手がけた。桂米朝ら関西の多ジャンルのグループ「上方風流」のメンバーだった。

●**羽佐間重彰** 元フジサンケイグループ代表。6月19日、老衰のため死去。95歳。1958年ニッポン放送に入社。編成部長として67年に「オールナイトニッポン」をスタートさせた。その後、フジテレビジョン(現:フジ・メディア・ホールディングス)やニッポン放送社長、産経新聞社ポニーキャニオンの会長も務めた。2013年旭日大綬章。

●**夏まゆみ** ダンスプロデューサー。6月21日、がんのため死去。61歳。1993年、米・ニューヨークのアプロシアターに日本人初のソロダン

サーとして出演。98年には冬季長野五輪閉会式の振付を考案・指揮。99年にはモーニング娘。の『LOVEマシーン』が国民的ヒットソングとなり特徴的な振付が話題を呼んだ。また宝塚歌劇団、ジャニーズ、AKB48、マッスルミュージカルなどの振付も手がけたほか、NHK紅白歌合戦では20年以上に渡りステージングを歴任した。

●**高橋城** 作曲家。6月22日、死去。1974年から宝塚歌劇団の舞台作品の音楽を数多く手がけた、代表作に『テンダー・グリーン』劇中歌「心の翼」、『ブラックジャック 危険な賭け』劇中歌「かわらぬ思い」など。

●**栗山昌良** オペラ演出家。6月23日、老衰のため死去。97歳。劇団俳優座を経て二期会のオペラ演出などで活躍。『椿姫』『蝶々夫人』などの名作のほか、山田耕筰『黒船』、團伊玖磨『夕鶴』、黛敏郎『金閣寺』などの日本作品の演出に手腕を発揮。後進の育成にも尽力し、文化庁オペラ研修所長や新国立劇場オペラ研修所講師なども歴任した。2006年文化功労者、11年恩賜賞・日本芸術院賞。

●**山崎正** 元テレビ朝日アナウンサー。6月25日、肺炎による呼吸不全のため死去。79歳。同局「大相撲ダイジェスト」の司会を長年務めたほか、プロレスやマラソン、五輪中継など幅広くスポーツ実況を担当、落ち着いた語り口で親しまれた。

●**古今亭八朝** 落語家。6月26日、老衰のため死去。71歳。1970年に古今亭志ん朝に入門。75年に二ツ目に昇進し八朝に改名。84年真打に昇進した。

●**佐藤仁** 俳優。6月27日、持病のため死去。48歳。2006年からドラマや映画、舞台作品に出演。主な出演作にNHK連続テレビ小説『とと姉ちゃん』、映画『マイケル・ムーム』、舞台『女の子ものがたり』『海街diary』『嫌われ松子の一生』(脚本・演出:森岡利行)など。

●**アラン・アーキン** 米・俳優。6月29日、死去。89歳。シカゴの即興コメディ劇団で活動した後、1961年『フロム・ザ・セカンド・シティ』でブロードウェイデビュー。63年『エンター・ラフィング』でトニー賞演劇部門最優秀主演男優賞を受賞した。また67年の映画『アメリカ上陸作戦』でアカデミー賞にノミネート、

2006年『リトル・ミス・サンシャイン』の祖父役で同賞助演男優賞を受賞。その他『アルゴ』『シザー・ハンズ』『摩天楼を夢みて』などハリウッドでのキャリアは50年以上に及んだ。

●**清原眞** 「劇団幻影舞台」主宰者。6月、がんのため死去。74歳。アマチュア劇団や劇団文化座を経て1981年「幻影舞台」を旗揚げ。脚本・演出だけでなく俳優としても舞台に立ち、社会問題を風刺した芝居を多く手がけた。

## 【7月】

●**九里一平** 元タツノコプロ代表取締役社長。7月1日、死去。83歳。同社創業者・吉田竜夫の次男。漫画家として『マッハ三四郎』などの作品で人気を博し、同社創立後は数多くの作品で企画、プロデュース、監督、キャラクターデザインを担当。代表作は『マッハGoGoGo』(演出)、『科学忍者隊ガッチャマン』(プロデュース)、『昆虫物語みなしごハッチ』(演出・総監督)、「タイムボカン」シリーズ(企画、プロデューサー)など。

●**真山誠太郎** 浪曲師。7月1日、肺がんのため死去。77歳。1993年に初代真山一郎に弟子入り。国立文楽劇場などの舞台に加え、テレビの演芸番組にも出演した。

●**京山小円嬢** 浪曲師。7月6日、老衰のため死去。92歳。1946年に後の三代目京山小円に入門。47年に初舞台を踏み、71年に二代目小円嬢を襲名した。関西女性浪曲師の第一人者として活躍し、2013年文化庁芸術祭賞大賞を受賞した。

●**石川喬司** 作家、評論家。7月9日、肺炎のため死去。92歳。毎日新聞の記者を経て小説『魔法つかいの夏』でデビュー。1978年の評論集『SFの時代』で日本推理作家協会賞を受賞した。

●**外山雄三** 指揮者、作曲家。7月11日、慢性腎臓病のため死去。92歳。1952年に東京音楽学校(現：東京芸術大学)作曲科を卒業し、NHK交響楽団に入団。56年に指揮者デビューを果たしたのち、60年に『管弦楽のためのラプソディー』を作曲。オペラや交響曲、合唱曲など数多くの作品を残したほか、各地のオーケストラで音楽監督を歴任するなど、日本のクラシック界の第一人者として活躍した。

●**ミラン・クンデラ** チェコ・作家。7月11日、死去。94歳。代表作に『存在の耐えられない軽さ』『冗談』。

●**木滑良久** マガジンハウス最高顧問。7月13日、死去。93歳。1955年に平凡出版(現：マガジンハウス)に入社。雑誌「週刊平凡」「平凡パンチ」「アンアン」の編集長を経て76年に「ポパイ」、80年に「ブルータス」をそれぞれ創刊し初代編集長に就任。88年にマガジンハウス社長に就任、同年創刊の女性向け情報誌「Hanako」は「Hanako族」という流行語を生んだ。

●**西川扇藏** 日本舞踊西川流十世宗家。7月14日、肺炎のため死去。95歳。1933年に初舞台。九世扇藏だった母の死後、36年に7歳で十世西川扇藏を襲名し宗家を継承した。西川流の伝統継承のほか『重盛屏風』『七騎落』をはじめとする新作の振付や上演にも力を注いだ。99年重要無形文化財(人間国宝)に認定、2009年旭日小綬章、21年文化功労者。

●**天野道映** 演劇評論家。7月15日、誤嚥性肺炎で死去。87歳。東京大学文学部仏文科卒、朝日新聞記者を経て劇評論家として活動する。人形浄瑠璃音楽、歌舞伎、ミュージカル、宝塚、現代劇の批評を書いた。

●**ジェーン・パーキン** 英・俳優、歌手。7月16日、死去。76歳。1969年に映画監督のセルジュ・ゲンズブールとのデュエット曲『ジュ・テーム・モワ・ノン・プリュ』が世界的に大ヒット。また映画『欲望』『ナイル殺人事件』などに出演したほかファッションモデルとしても活躍。エルメスの人気バック「パーキン」の名前の由来になったことでも知られる。親日家でも知られ、東日本大震災の直後に被災者支援のために来日、募金活動やコンサートも行った。2018年旭日小綬章。

●**鈴鹿景子** 俳優。7月18日、病気のため死去。67歳。1976～77年のNHK連続テレビ小説『火の国に』のヒロインで俳優デビュー。後に活動の拠点を舞台に移し、宮城の方言で民話を語る一人芝居や、戦争をテーマにした舞台の上演を続けた。東北放送のラジオ番組『民話の中の女たち』(語り)が文化庁芸術祭優秀賞など。

●**浦雅春** ロシア文学研究者、翻訳家。7月19日、脳出血のため死去。74歳。チェーホフを中心とするロシア文学などの研究で知られ、東京大学教授も務めた。

●**那智わたる** 元宝塚歌劇団トップスター。7月21日、死去。86歳。1953年宝塚歌劇団に入

団。独特の存在感で男役トップスターに就任、『カチューシャ物語』『シャングリラ』などに出演し人気を集めた。また在籍中に菊田一夫に見いだされ、芸術座『終着駅』に出演したほか、帝国劇場『風と共に去りぬ』ヒロイン役に抜擢された。68年の退団後も俳優としてミュージカルの舞台などで活躍。70年の東京宝塚劇場でのワンマンショー『那智わたると共に』が空前のヒットを記録した。2014年「宝塚歌劇の殿堂」に選出。

●**無着成恭** 僧侶、教育評論家。7月21日、敗血症性ショックのため死去。96歳。教師として赴任した中学校の生徒に生活の「なぜ」を考えさせる「生活つづり方運動」に取り組み、クラス文集をまとめた『山びこ学校』を出版、大きな反響を呼び映画化もされた。1964年からはTBSラジオ『全国こども電話相談室』の回答者を長年務めた。

●**トニー・ベネット** 米・歌手。7月21日、死去。96歳。1951年に『ビコーズ・オブ・ユー』が大ヒットし、62年『霧のサンフランシスコ』でグラミー賞を受賞。2015年にはレディ・ガガと出した『チーク・トゥ・チーク』がグラミー賞最優秀トラディショナル・ポップ・ボーカル・アルバムに選ばれた。

●**森村誠一** 小説家。7月24日、肺炎のため死去。90歳。雑誌に発表したサラリーマン生活に関するエッセイが好評を得て32歳で作家デビュー。1970年刊『新幹線殺人事件』が60万部の大ヒットを記録。76年刊『人間の証明』、77年刊『野生の証明』は映画化やドラマ化もされる一大ブームを巻き起こした。その他代表作に『腐食の構造』『悪魔の飽食』『悪童』など。

●**鎌田順也** 劇作家、演出家。7月27日、虚血性心不全のため死去。38歳。劇団「ナカゴウ」主宰。演劇ユニット「ほりぶん」でも活動。2023年岸田戯曲賞で『かたとき』が最終候補作に選ばれた。

●**ポール・ルーベンス** 米・コメディアン。7月30日、病気のため死去。70歳。1981年に舞台『ピーウィー・ハーマン・ショー』を開始。赤い蝶ネクタイにピッタリとしたスーツがトレードマークのキャラクター「ピーウィー・ハーマン」を演じ、映画や子ども向け番組で人気を集めた。

●**薛珠麗** 演出家、翻訳家。7月30日、死去。53

歳。tpt(シアタープロジェクト・東京)に参加。デヴィッド・ルヴォー、ロバート・アラン・アッカーマンほか、外国人演出家の通訳兼演出補を長く務めた後、戯曲翻訳家及び演出家として独立。主な演出作品にtpt『蜘蛛女のキス』、デヴィッド・ルヴォー原作『Over the Wall』。翻訳作品に『エンジェルス・イン・アメリカ』『レディ・ベス』『ハーバー・リーガン』など。

●**アンガス・クラウド** 米・俳優。7月31日、死去。25歳。米HBOの人気ドラマ『ユーフォリア』で麻薬密売人を演じてブレイク。同作映画にも出演した。

## 【8月】

●**小野恵美子** 初代フラガール。8月4日、アルツハイマー型認知症終末期のため死去。79歳。常磐音楽舞踊学院に1期生として入学。1966年にオープンした常磐ハワイアンセンター(現:スバリゾートハワイアンズ)の舞台に約10年間立ち、初代リーダーを務めた。映画や舞台となった『フラガール』のモデルとなった。

●**池田一臣** 俳優、演出家。8月5日、肺炎のため死去。91歳。1962年に俳優デビュー。84年から2020年まで劇団「現代劇センター真夏座」の代表を務めた。

●**森内俊雄** 作家。8月5日、肺炎のため死去。86歳。出版社で編集者として勤務、『幼き者は驢馬に乗って』などで芥川賞候補にもなった。その他『飛ぶ影』『氷河が来るまで』『空にはメトロノーム』など。

●**入江純** 俳優。8月6日、がんのため死去。53歳。1989年に円・演劇研究所に入所し、92年に演劇集団円の会員に昇格。舞台のほか映画などでも活躍した。

●**ウィリアム・フリードキン** 米・映画監督。8月7日、心不全のため死去。87歳。テレビ局でドキュメンタリー作品の監督などを務めた後にハリウッドに進出。1971年『フレンチ・コネクション』で米アカデミー賞作品賞、監督賞など5冠を達成。73年『エクソシスト』は世界的に大ヒットを記録、ホラー映画の代表作に数えられるようになった。

●**桑原和男** 俳優、タレント。8月10日、老衰のため死去。87歳。1955年に漫才コンビ「夢路いとし・喜味こいし」に弟子入り。漫才活動を経

て61年に吉本新喜劇の前身「吉本ヴァラエティ」に入団し70年代に座長に抜擢。「和子ばあちゃん」役で人気を博し、新喜劇を支え続けた。92年上方お笑い大賞金賞受賞。

●**松旭斎すみえ** 奇術師。8月12日、老衰のため死去。85歳。松旭斎小天菊門下で修行を積み、幅広い芸域と軽妙な話術で人気を得た。ポール・モーリアの楽曲『オリーブの首飾り』を奇術のBGMに初めて使った人物としても知られた。

●**井手洋子** 映画監督、映像ディレクター。8月13日、間質性肺炎のため死去。68歳。1967年に発生した「布川事件」を題材にしたドキュメンタリー映画『ショージとタカオ』で文化庁映画賞文化記録映画部門大賞を受賞した。

●**藤間紋寿郎** 日本舞踊家。8月15日、老衰のため死去。102歳。人形浄瑠璃文楽の人形遣い、二代目桐竹紋十郎の長男として生まれ、16歳で初代藤間寿右衛門に師事。古典のほか、戦争体験を踏まえた作品など多くの創作舞踊も手がけた。日本演劇協会会員。

●**飯守泰次郎** 指揮者。8月15日、急性心不全のため死去。82歳。桐朋学園大学音楽家卒業。古典派からロマン派までのレパートリーに定評があり、特にワーグナー作品を積極的に日本に紹介し高い評価を得た。2014～18年には新国立劇場オペラ芸術監督も務めた。2004年紫綬褒章、12年文化功労者。

●**丸山俊平** アニメーション・プロデューサー。死去が8月15日に明らかになった。アニメーション制作会社「アクタス」の二代目社長として活躍。『ガールズ&パンツァ』『プリンセス・プリンシパル』『鋼鉄神ジグ』など多くの作品のプロデューサーを務めた。

●**山本二三** アニメ美術監督。8月19日、胃がんのため死去。70歳。宮崎駿監督『天空の城ラピュタ』『もののけ姫』、高畑勲監督『火垂るの墓』など数多くの人気アニメ映画で美術監督を務めた。迫力ある独特の筆致で描かれる雲は「二三雲」と呼ばれた。

●**榎望** 映画プロデューサー。8月20日、脳出血のため死去。62歳。相米慎二監督『あ、春』や崔洋一監督『血と骨』、井筒和幸監督『岸和田少年愚連隊』など多くの作品をプロデュースした。

●**金子勝彦** アナウンサー。8月20日、肺炎の

ため死去。88歳。毎日放送を経て東京12チャンネル(現:テレビ東京)に入社。サッカー番組『三菱ダイヤモンドサッカー』を1968年から20年間担当。「サッカーを愛する皆さん、ご機嫌いかがでしょうか」のセリフで人気を集めた。

●**野村昇史** 俳優。8月21日、胃がんと十二指腸がんのため死去。85歳。文学座養成所、現代演劇協会・劇団雲などを経て1980年演劇集団円に参加。多くの舞台に立ち、2019年『藍ノ色、沁ミル指ニ』で第53回紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞した。

●**岡部耕大** 劇作家。8月25日、肺炎による敗血症性ショックのため死去。78歳。1970年に劇団「空間演技」を設立。79年『肥前松浦兄妹心中』で岸田國士戯曲賞、89年『亜也子』で紀伊國屋演劇賞個人賞、2018年『色悪一悪の限りを尽くし三郎一』で杉並演劇祭演劇大賞を受賞。骨太な作風で庶民群像を秀逸に描き出し「新劇最後の砦」とも称された。

●**ジョニー広瀬** 奇術師。8月26日、白血病のため死去。75歳。ステージマジックからテールマジックまで幅広いレパートリーを持ち、2002年ハンガリー国際サーカスフェスティバルに日本代表ゲストパフォーマーとして出演し、ハンガリー特別賞を受賞した。

●**梅津貴昶** 舞踊家。8月28日、死去。74歳。花柳流や尾上流で舞踊を学んだ後、梅津流を創設し1985年初代家元に。四代目中村雀右衛門『小春髪結』、坂東玉三郎『楊貴妃』、十八代目中村勘三郎『雨乞狐』などの歌舞伎俳優による舞踊作品を始め、日本舞踊、クラシック、新派などの振付を数多く手がけた。また三島由紀夫や白洲次郎ら各界著名人との幅広い交流でも知られた。日本演劇協会会員。

●**市川徹** 映画監督。8月30日、肝臓がんのため死去。75歳。テレビ神奈川勤務や音楽・映画プロデューサーを経て映画監督に。『ファンキー・モンキー・ティーチャー3 康平の微笑』『1・2の三四郎』『万年筆』など。

## 【9月】

●**スティーブ・ハーウェル** 米・ロックバンド元ボーカル。9月4日、肝不全のため死去。56歳。1994年「スマッシュ・マウス」を結成。99年発表の『オール・スター』がグラミー賞にノミ



ネートされ、映画『シュレック』の挿入歌としても使われた。

●**マルク・ボアン** 元デザイナー。9月6日、死去。97歳。1957年にクリスチャン・ディオールに入社。2代目デザイナーのイブ・サンローランに代わり61年にデザイナーに就任。クラシックなシルエットを細身にアレンジし、ジャケットとスカートを組み合わせた「スリムルック」を発表。89年までブランドを率いた。

●**西村朗** 作曲家。9月7日、右上顎がんのため死去。69歳。東京芸術大学で作曲を学び、アジア伝統音楽の要素を取り入れた管弦楽や合唱曲などを数多く手がけた。2019年には新国立劇場の新作オペラ『紫苑物語』が初演されて世界的な話題を集めた。またNHK「N響アワー」の司会を長年務めた。

●**寺沢武一** 漫画家。9月8日、心筋梗塞のため死去。68歳。手塚治虫氏に師事し、1977年に『週刊少年ジャンプ』にデビュー『コブラ』を発表。単行本は3000万部以上を売り上げ、テレビアニメ化や映画化もされた。92年には世界初のフルCG漫画といわれる『武 TAKERU』の連載を開始し、「デジタル漫画」の名称を生み出した。

●**市川猿翁** 歌舞伎俳優。9月13日、不整脈のため死去。83歳。三代目市川段四郎の長男として生まれ、1947年東京劇場『二人三番叟』附千歳で三代目市川團子を名乗り初舞台。63年歌舞伎座『吉野山』忠信、『黒塚』鬼女などで三代目市川猿之助を襲名した。68年国立劇場『義経千本桜 川連法眼館』で狐忠信の宙乗りに挑み大きな話題を呼び、以後、宙乗りを多くの作品に取り入れ、5000回を超える偉業はギネスブックにも登録された。また『加賀見山再岩藤』『伊達の十役』『當世流小栗判官』など復活通し狂言や古典の新演出、新作の創造に意欲的に取り組み、86年スーパー歌舞伎『ヤマトタケル』を初演。『オグリ』『新・三国志』などスーパー歌舞伎シリーズを確立した。64年に「猿翁十種」、75年「澤瀉十種」、88年「猿之助十八番」を家の芸として制定。2010年にはこれまでの創作活動を加えた「猿之助四十八撰」を制定した。12年新橋演舞場『口上』『楼門五三桐』真柴久吉で二代目市川猿翁を襲名。87年フランス文化芸術勲章オフィシエ、00年紫綬褒章、10年文化功労者。日本演劇協会会員。

●**篠原栄太** タイトルデザイナー。9月14日、老衰のため死去。96歳。TBSに勤務し、ドラマ『3年B組金八先生』『渡る世間は鬼ばかり』『輝く！日本レコード大賞』など数々のタイトルロゴをデザインした。

●**土田よしこ** 漫画家。9月15日、肺炎のため死去。75歳。赤塚不二夫のアシスタントを経てデビュー。1973年から「週刊マーガレット」に掲載したギャグ漫画『つる姫じゃ〜っ!』で日本漫画協会賞優秀賞を受賞。同作は人気を集めアニメ化もされた。

●**所ゆきよし** 漫画家。9月16日、胃がんのため死去。76歳。新聞や雑誌に風刺漫画を発表。1985年から毎日新聞で政治漫画を連載し、2009年日本漫画家協会賞大賞を受賞した。

●**福中脩** 元東映株式会社常務。9月17日、肺炎のため死去。91歳。1957年に東映に入社。国際部長などを経て92年から常務を務めた。

●**棚橋静雄** 「ロス・インディオス」ボーカル。9月19日、多臓器不全のため死去。85歳。1962年「ロス・インディオス」を結成。『コモエスタ赤坂』『知りすぎたのね』『別れても好きな人』などのヒット曲でムード歌謡ブームを牽引した。

●**ステファン・ゲールド** テノール歌手。9月19日、胆管がんのため死去。61歳。ミュージカル『オペラ座の怪人』の出演で頭角を表し、2004年にバイロイト音楽祭にデビュー。ウィーン歌劇場、バイエルン州立劇場、メトロポリタン歌劇場などに出演。英雄的でドラマティックな声を意味する「ヘルデンテノール」を代表する一人として国際的に活躍した。日本では新国立劇場の舞台など度々来日。2015年から17年にかけての『ニーベルングの指輪』全4部作のジークフリート役などに出演し、日本でも人気を集めた。

●**ヨネヤママコ** パントマイマー。9月20日、老衰のため死去。88歳。大学在学中に江口隆也と大野一雄に師事。作品が評価され、NHK人形劇『私はパック』にパック役で出演した。1960年に渡米、72年の帰国後「マモコ・ザ・マイムスタジオ」を設立。斬新な演出を用いた様々な作品を発表し、日本のパントマイムの草分けとして活躍した。

●**遠山一** 「ダークダックス」メンバー。9月22日、慢性心不全のため死去。93歳。1951年に男性コーラスグループの草分け的存在「ダーク

ダックス」を結成。『ともしび』『銀色の道』など数多くのヒット曲を世に送り出した。2010年代に他のメンバー3人が亡くなった後も1人で音楽活動を続けていた。

●**マイケル・ガンボン** 英・俳優。9月28日、死去。82歳。1960年代に舞台俳優として活躍し、その後テレビや映画に進出。『コックと泥棒、その妻と愛人』『英国王のスピーチ』などに出演。「ハリーポッター」シリーズでは3作目からダンブルドア校長を演じ、世界的な人気を集めた。92年に大英帝国勳章、98年には演劇界への功績を称えられ「ナイト」の称号が授与された。

●**丸山博一** 俳優、演出家。9月29日、腎不全のため死去。88歳。1957年に東宝演劇部と契約し58年に劇団東宝現代劇一期生として入団。『放浪記』『ジキル&ハイド』『ミー&マイガール』『風と共に去りぬ』など東宝製作の演劇やミュージカルに数多く出演。山田五十鈴主演舞台『横浜どんたくー富貴楼おくらー』の演技で第8回菊田一夫演劇賞演劇賞を受賞した。また同団有志による「劇団東宝現代劇75人の会」の結成に参加。出演のほか演出も担当し、演出を担当した96年上演『熊楠の家』で作品の上演成果により第22回菊田一夫演劇賞演劇大賞を受賞した。

●**響敏也** 音楽評論家、作家。9月29日、パーキンソン病のため死去。71歳。神戸を拠点に音楽評論家や随筆や新聞や雑誌に執筆。オペラと落語を合体させた「オペらくご」などの脚本を手がけた。

●**梅若万佐晴** 能楽観世流シテ方。9月30日、すい臓がんのため死去。78歳。

●**鎌田秀勝** 俳優。9月末、死去。49歳。舞台を中心に活躍したほか、NHKドラマ『西郷どん』、ハリウッドドラマ『TOKYO VICE』、中国映画『唐人街探偵3』など映像作品でも活躍した。

## 【10月】

●**山口秀矢** 「えふぶんの壺」会長。10月2日、肺がんのため死去。72歳。1990年にテレビ番組制作会社「えふぶんの壺」を設立。ドキュメンタリーや紀行番組を中心に制作。『ポルトとダシャマンホールチルドレン20年の軌跡』で19年度文化庁芸術祭テレビ・ドキュメンタリー部門大賞を受賞した。

●**鶴橋康夫** ドラマ演出家、映画監督。10月9日、誤嚥性肺炎のため死去。83歳。1962年に読売テレビに入社し「木曜ゴールデンドラマ」などを手がけた。82年『かげろうの死』(主演：浅丘ルリ子)で芸術選奨文部大臣新人賞、2000年『刑事たちの夏』でギャラクシー賞大賞、05年『碧なき者』で芸術選奨文部科学大臣賞など受賞は多数。また監督として『愛の流刑地』『のみとり侍』などの映画も手がけた。07年紫綬褒章、13年旭日小綬章。

●**谷村新司** シンガー・ソングライター。10月8日、死去。74歳。堀内孝雄と「アリス」を結成し1972年『走っておいで恋人よ』でデビュー。その後にドラマーの矢沢透が加わり、『チャンピオン』『冬の稲妻』『ジョニーの子守唄』など次々とヒットさせた。ソロになってから『昂』『サライ』などの長く歌い継がれる楽曲を世に送り出したほか、山口百恵『いい日旅立ち』など他の歌手への楽曲提供も精力的に行った。宝塚歌劇団に『エールの残照』に主題歌『風のシャムロック』を提供したことで知られる。一方、文化放送のラジオ番組『セイ！ヤング』で長年DJを務め、フランクな語りで「チンペイさん」の愛称で親しまれた。2015年紫綬褒章。

●**古今亭志ん橋** 落語家。10月8日、大腸がんのため死去。79歳。1969年、古今亭志ん朝に入門。82年に真打ちに昇進し六代目志ん橋を襲名した。

●**福田尚武** 歌舞伎専門写真家。10月8日、腎不全のため死去。78歳。日本大学芸術学部在学中に歌舞伎の舞台を撮り始め、十七代目中村勘三郎の目にとまり撮影を頼まれたのを機にプロに。糖尿病で視力が弱り、両足を切断しても車いすで劇場に通い、亡くなる4日前まで歌舞伎座で撮影を続けた。

●**千草英子** 俳優。10月12日、老衰のため死去。93歳。千葉蝶三郎が主宰した千葉蝶劇団などを経て、長谷川一夫や山田五十鈴らの舞台に出演。1991年に新生松竹新喜劇の旗揚げに参加し、2014年の退団まで団員として劇団を支えた。

●**畑嶺明** 脚本家。10月12日、老衰のため死去。80歳。文学座で俳優を経験した後、脚本家としてデビュー。代表作のひとつ「キッズ・ウォー」シリーズのほか「毎度おさわがせしま

す「太陽にほえろ!」シリーズなど、多くのヒットドラマを手がけた。

●**中条比紗也** 漫画家。10月12日、心臓の病気のため死去。50歳。代表作『花ざかりの君たちへ』は累計1500万部を超えるヒットとなり、ドラマ化されたほか海外でも人気を集めた。そのほかの代表作に『ももももっ!』『シュガープリンセス』など。

●**松原剛** 日中演劇交流、研究。10月13日、死去。92歳。日本大学芸術学部で教鞭を取る一方、中国戯劇学院名誉教授として、京劇や中国舞踊などの来日公演や両国の学生の交流、中国舞台芸術を日本に広めるなど日本と中国の演劇交流に尽力。また全国芝居小屋協議会顧問を務め、全国の芝居小屋の復活などにも力を尽くした。著書に『現代中国演劇考』『芝居小屋残照』『五島列島・芝居子屋・中国演劇』など。

●**財津一郎** 俳優。10月14日、死去。89歳。榎本健一映画演劇研究所や帝劇ミュージカルなどを経て、1964年に吉本新喜劇に参加。テレビ番組『てなもんや三度笠』に出演し「キビシーっ」「〜してチョーダイ」などのギャグで一躍人気者となった。一方で「3年B組金八先生」「鬼平犯科帳」シリーズ、大河ドラマや映画などに出演し存在感を発揮、映画『お葬式』では日本アカデミー賞優秀助演男優賞を受賞。また『藪原検校』やミュージカル『アニー』などの舞台でも好演し、74年度ゴールデン・アロー賞演劇賞を受賞した。お茶の間では「タケモトピアノ」などのCMキャラクターとしても親しまれた。

●**バイパー・ローリー** 米、俳優。10月14日、死去。91歳。1950年にロナルド・レーガン主演映画『ルイザ』に出演し成功を収め、1961年『ハスラー』での演技でアカデミー主演女優賞にノミネート。また『キャリー』『愛は静けさの中に』で助演女優賞にノミネートされるなど、その演技力は高く評価された。

●**有働誠次郎** ウード音楽事務所創業者。10月15日、老衰のため死去。92歳。協同企画で音楽業界のキャリアをスタートさせた後、1967年にウード音楽事務所を設立。エリック・クラブトンやエアロスミス、デヴィッド・ボウイやビリー・ジョエルなど数多くの著名な海外アーティストを日本に招聘した。

●**もんたよしのり** シンガー・ソングライ

ター。10月18日、大動脈解離のため死去。72歳。1971年にデビュー、80年「もんた&ブラザーズ」として発表した『ダンシング・オールナイト』で一世を風靡したほか、作詞・作曲を手がけた西城秀樹『ギャランドウ』、大橋純子とのデュエット曲『夏女ソニア』などもヒットした。一方で俳優として映画などに出演・主演するなど多方面で活躍。劇団四季『ジーザス・クライスト=スーパースター』にヘロデ役で出演し独特の存在感を醸し出した。

●**櫻井敦司** ロックバンド「BUCK-TICK」ボーカル。10月19日、脳幹出血のため死去。57歳。1987年にメジャーデビューし、アルバム『TABOO』、シングル『悪の華』『スピード』などがヒット。後のヴィジュアル系バンドなどにも多大な影響を与えた。

●**中庸助** 俳優、声優。10月20日、死去。93歳。劇団炎座や劇団造形などを経てマウスプロモーションに所属。声優として「ドラえもん」2代目・野比のび助(のび太の父)、「21エモン」パパをはじめ、ドラマや洋画の吹替なども担当。俳優として特撮作品や時代劇、現代劇まで幅広く出演した。

●**蟻螂襲** 俳優、劇作家、演出家。10月24日、脳梗塞のため死去。65歳。笑殺軍団リリパット・アーミーなどを経て、1993年に劇団PM/飛ぶ教室を結成。98年『滝の茶屋のおじちゃん』で第5回OMS戯曲賞大賞を受賞。舞台を中心に活動する一方でNHK連続テレビ小説『おちよやん』『舞いあがれ!』などドラマなどでも活躍した。

●**リチャード・ラウンドトゥリー** 米・俳優。10月24日、すい臓がんのため死去。81歳。モデルを経て舞台俳優として活躍した後、多くの映画やドラマに出演。1971年の映画『黒いジャガー』で主役の探偵ジョン・シャフト役に抜擢され人気を博した。

●**ズデネク・マーカル** チェコ・指揮者。10月25日、死去。87歳。ブザンソンとミトロプーロス、著名な二つの国際コンクールで優勝。1968年に旧ソ連のチェコスロバキア(当時)侵略を受け、西側へ亡命。米国など世界の約170の楽団で指揮した。2006年にはアニメ化や舞台化もされたドラマ『のだめカンタービレ』に出演した。

●**犬塚弘** 元「クレイジーキャッツ」メンバー。10月27日までに死去。94歳。1955年にクレイジー・キャッツの前身となる「キューバン・キャッツ」を結成。その後、植木等や谷啓らも加入し、61年『スーダラ節』が大ヒット。テレビバラエティー『おとなの漫画』『シャボン玉ホリデー』などにも出演し、おどぼけキャラで人気を集めた。バンド活動後も役者として活躍。65年の映画『素敵な今晩わ』に主演したほか、「男はつらいよ」シリーズ、NHK連続テレビ小説『本日は晴天なり』『こころ』『おひさま』など多くの映画やドラマに出演した。

●**池央耿** 翻訳家。10月27日、脳出血のため死去。83歳。訳書にジェイムズ・P・ホーガン『星を継ぐもの』、チャールズ・ディケンズ『クリスマス・キャロル』『二都物語』など。

●**HEATH** X JAPAN ベーシスト。10月29日、大腸がんのため死去。55歳。1989年にメジャーデビューしたX JAPANに92年より加入。ソロでテレビアニメ『名探偵コナン』のエンディングテーマ『迷宮のラヴァーズ』を担当した。

●**泉昭二** 漫画家。10月29日、老衰のため死去。91歳。1969年に朝日小学生新聞に4コマ漫画『ジャンケンポン』の連載を開始。2016年11月に連載1万5千回を記録し、「ひとつの4コマ漫画が最も多く発行された回数」でギネス世界記録に認定された。

## 【11月】

●**山本則俊** 11月2日、すい臓がんのため死去。81歳。三世山本東次郎の三男で、兄は人間国宝の四世東次郎。狂言『素袍落』『釣狐』などの演技が高く評価された。2012年旭日双光章。

●**北浜晴子** 声優。11月2日、慢性肺疾患のため死去。86歳。TBS放送劇団などを経て青二プロダクションに所属。米ドラマ『奥さまは魔女』主人公サマンサ役の吹替で親しまれた。またアニメ『マジンガーZ』あしゅら男爵、『昆虫物語 みなしごハッチ』ハッチの母役などでも人気を集めた。

●**山脇幸人** 指揮者。11月2日、死去、31歳。東京芸術大学を卒業後、独・バイエルン州立歌劇場の研修生として学び、海外のコンクールで1位になるなど活躍。その後、NHK交響楽団のアシスタントを務め、国内外の楽団を指揮した。

●**朝潮** 大相撲元大関。死去していたことが11月3日に明らかになった。67歳。1978年春場所に高砂部屋から幕下付け出しで初土俵。幕下、十両を各2場所で通過するスピード出世で注目された。三賞を14度受賞。83年春場所後に大関に昇進し、85年春場所で初優勝。89年春場所で引退するまで大関を36場所務めた。引退後は若松部屋を率いた後に2002年に高砂部屋を継承。朝青龍や朝乃山らを育成した。

●**天野鎮雄** 俳優。11月5日、多臓器不全のため死去。87歳。文学座研究生や大島渚主宰「創造社」などを経て、劇団「劇座」を結成。名古屋市を拠点に「アマチン」の愛称で親しまれ、舞台のほかテレビやラジオでも活躍した。

●**三浦徳子** 作詞家。11月6日、肺炎のため死去。75歳。1978年に作詞家としてデビュー。代表曲に八神純子『みずいろの雨』、松原みき『真夜中のドア』、松田聖子『裸足の季節』『青い珊瑚礁』、杏里『CAT'S EYE』、郷ひろみ『お嫁サンバ』など。

●**酒見賢一** 作家。11月7日、呼吸不全のため死去。59歳。1989年、第1回日本ファンタジーノベル大賞を受賞した『後宮小説』でデビュー。『周公旦』で新井田次郎文学賞を受賞、『墨攻』は漫画化、映画化もされた。

●**大橋純子** 歌手。11月9日、死去。73歳。1974年に歌手デビュー。伸びやかな歌声で『たそがれマイ・ラブ』『シルエット・ロマンス』などでヒットを放った。また、もんたよしのりとのデュエットCMソング『夏女ソニア』も人気を集めた。

●**KAN** シンガー・ソングライター。11月12日、死去。61歳。1987年にデビュー。アルバム収録曲だった『愛は勝つ』が大ヒットとなり91年日本レコード大賞を受賞した。

●**千葉一彦** 映画美術監督。11月12日、心不全のため死去。91歳。映画『幕末太陽伝』などで美術を担当。1970年の大阪万博では、岡本太郎「太陽の塔」の制作にも携わった。

●**池田大作** 創価学会名誉会長。11月15日、老衰のため死去。95歳。19歳で同学会に入り、二代会長の事業を支えたほか選挙などで頭角を表し、1960年に第三代会長に就任。64年に公明党を結成した。

●**三木卓** 作家。11月18日、老衰のため死去。

88歳。出版社の編集者を経て作家活動に入り、1973年『鶉』で第69回芥川賞を受賞。そのほかの代表作に童話『ぼたぼた』、評伝『北原白秋』、絵本シリーズ『がまくんとかえるくん』(翻訳)など。99年紫綬褒章、2011年旭日中綬章。

●**鈴木瑞穂** 俳優。11月19日、心不全のため死去。96歳。1952年に劇団民藝に参加した後、72年劇団銅羅の創設に関わり約10年間代表を務めた。2006年には『女相続人 THE HEIRESS』『夜の来訪者』の演技で第41回紀伊国屋演劇賞個人賞を受賞した。

●**北原秀晃** バレエダンサー。11月22日、出血性脳血管障害のため死去。83歳。1964年の東京バレエ団創設時に初代芸術監督に就任。78年まで務めた。古典から創作まで幅広い作品に主演、70年に仏・パリで上演された『海と真珠』は高く評価された。

●**伊集院静** 作家。11月24日、死去。73歳。大学卒業後、広告代理店を経てCMディレクターとして活動、1981年に小説『臯月』で作家デビュー。91年『乳房』で吉川英治文学新人賞、92年『受け月』で直木賞を受賞。『乳房』や94年『機関車先生』は映画化もされた。エッセー「大人の流儀」シリーズは累計200万部を超えるベストセラーとなった。一方で、作詞家としても活躍し、近藤真彦『ギンギラギンにさりげなく』などがヒットし、同『愚か者』は87年日本レコード大賞を受賞した。16年紫綬褒章。

●**チバユウスケ** 歌手。11月26日、死去。55歳。2003年に解散した人気バンド「ミッシェル・ガン・エレファント」のボーカルとして活躍。その後、バンド「The Birthday」でボーカルとギターとして活動していた。

●**山田太一** 脚本家。11月29日、老衰のため死去。89歳。1958年に松竹株式会社に入社し木下恵介に師事。65年に退社しフリーに。ドラマ『男たちの旅路』『岸辺のアルバム』『ふぞろいの林檎たち』などテレビ史に残る名作は多数。また映画『あこがれ』『キネマの天地』『少年時代』、自小説の映画化『異人たちとの夏』のほか、地人会『ラブ』『夜中に起きてるのは』、俳優座『離れて遠く二万キロ』、文学座『人が恋しい西の窓』、劇団民藝『二人の長い影』など映画や舞台でも多くの名作を残した。

●**豊田有恒** SF作家。11月28日、食道がんの

ため死去。85歳。1962年、『火星で最後の……』でデビュー。代表作に『倭王の末裔』『モンゴルの残光』など。テレビアニメ『鉄腕アトム』『エイトマン』の脚本も手がけ、テレビ版『宇宙戦艦ヤマト』の監修にも参加した。

## 【12月】

●**西木正明** 作家。12月5日、敗血症性ショックのため死去。83歳。平凡出版(現:マガジンハウス)で編集者を務める傍ら1980年『オホーツク謀報船』で作家デビュー、同作で日本ノンフィクション賞新人賞を受賞。88年『凍れる瞳』『端島の女』で第99回直木賞を受賞した。

●**島崎俊郎** タレント。12月6日、急性心不全のため死去。68歳。クレイジーキャッツの付き人として芸能界に入り、川上泰生と小林すすむとお笑いトリオ「ヒップアップ」を結成。80年代に人気バラエティ番組「オレたちひょうきん族」などに出演、「アダモちゃん」のキャラクターで人気を集めた。

●**ライアン・オニール** 米・俳優。12月8日、死去。82歳。アカデミー賞候補となった映画『ある愛の詩』に主演し一躍有名に。代表作に『おかしなおかしな大追跡』『ペーパー・ムーン』など。

●**寺山恵美子(旧姓・宮本)** 元バレーボール選手。12月9日、敗血症のため死去。86歳。1964年東京五輪に女子バレーボールチーム(通称:東洋の魔女)の一員として出場。サウスポーからの強烈なスパイクを連発し、金メダル獲得の原動力となった。

●**磯村尚徳** 元NHKニュースキャスター。12月6日、骨髄異形成症候群のため死去。94歳。1953年NHKに記者として入局。74年から『ニュースセンター9時』の初代キャスターを担当。原稿を読み上げるだけではなく「ちょっとキザですが」などと前置きをして感想を付け加え、ニュースを分かりやすく伝える手法で人気に。「ミスターNHK」とも呼ばれた。NHK退職後は外交評論家としても活躍し、98年には長野冬季五輪の総合司会を務めた。2011年旭日中綬章。

●**阿部秀司** 映画プロデューサー。12月11日、死去。74歳。広告会社などを経て、1986年に映像制作会社「ロボット」を設立。「ALWAYS三丁目の夕日」シリーズ、『永遠の0』『STAND BY

MEドラえもん』『ゴジラー1.0』など多くの作品にプロデューサーとして携わった。

●**橘左近** 寄席文字書家。12月12日、腎不全のため死去。89歳。1961年に寄席文字の家元・橘右近に入門。東京・新宿末広亭の看板や、日本テレビ『笑点』の寄席文字なども担当した。

●**蓮見清一** 宝島社社長。12月14日、心不全のため死去。80歳。1971年にコンサルティング会社を設立し3年後に出版事業に参入、93年に宝島社に社名変更した。カルチャー誌「宝島」やファッション誌「CUTIE」などを創刊し人気を集めた。2002年には「このミステリーがすごい！」大賞を創設し、新人作家の発掘にも尽力した。

●**薩摩剣八郎** 俳優。12月16日、間質性肺炎のため死去。76歳。平成期の映画「ゴジラ」シリーズで、ゴジラの着ぐるみに入って演じるスーツアクターとして活躍。1984年『ゴジラ』から95年『ゴジラVSデストロイア』まで担当した。

●**藤原新平** 演出家。12月17日、老衰のため死去。95歳。1964年文学座演出部の座員に。67年以降、別役実が同座に書き下ろしたほぼ全作品の演出を担った。ピッコロ劇団でも別役作品など多くの舞台を演出した。文学座『雨が空から降れば』で第52回文化庁芸術祭優秀賞受賞。

●**鍛山親方** 元関脇寺尾。12月17日、うっ血性心不全のため死去。60歳。父は元井筒親方(元関脇鶴ヶ嶺)。1979年名古屋場所で初土俵、長男・元十両鶴嶺山、次男・元関脇逆鉦とともに「井筒3兄弟」として人気を博し、同じ63年生まれの北勝海、双羽黒、小錦らと「花のサンパチ組」と呼ばれ、昭和から平成の土俵を盛り上げた。また39歳まで関取として土俵に上がり「各界の鉄人」の異名を取った。2002年秋場所で現役を引退、三位在位13場所、幕内在位は史上6位の93場所、殊勲賞3回、敢闘賞3回、技能賞1回、金星は7個獲得した。引退後は年寄「鍛山」を襲名し後進の育成に尽力した。

●**出光昭介** 出光興産元社長。12月20日、老衰のため死去。96歳。創業者・出光佐三の長男で1981年に社長、93年会長に就任。2001年名誉会長に退いていた。

●**柳田豊** 俳優。12月22日、死去。93歳。千秋実・主宰の劇団薔薇座を経て1953年に劇団新派に入団。初代水谷八重子に師事し、59年幹部

に昇進。『花岡青洲の妻』良庵、『鶴八鶴次郎』竹野、『日本橋』甘酒屋、『遊女夕霧』円玉など幅広い役柄をこなし劇団を支え続けた。芸歴70年の新派最古参で、『滝の白糸』裁判長は当たり役となっていた。

●**坂田利夫** お笑いタレント。12月29日、老衰のため死去。82歳。1967年に前田五郎と「コメディNo.1」を結成。「あ〜りが〜とさ〜ん」などのギャグで人気を集め「アホの坂田」の愛称で親しまれた。

●**八代亜紀** 歌手。12月30日、急速進行性間質性肺炎のため死去。73歳。銀座でクラブ歌手として活動中にスカウトされ、1971年『愛は死んでも』でデビュー。『なみだ恋』『愛の終着駅』『舟唄』など次々とヒットさせた。80年には『雨の慕情』で日本レコード大賞を受賞、NHK紅白歌合戦に23回出場するなど長年に渡り、世代を超えた人気を誇った。

●**中村メイコ** 俳優。12月31日、肺塞栓症のため死去。89歳。2歳の時に映画『江戸っ子健ちゃん』フクちゃん役でデビューし、天才子役として頭角を現し、映画やラジオ、テレビの黎明期から数多くの作品・番組に出演。主な出演作にクイズ番組『連想ゲーム』、NHK大河ドラマ『篤姫』、舞台『社長放浪記』など。また歌手としても『田舎のバス』が大ヒットし、司会者としても活躍。1959〜61年には3年連続でNHK紅白歌合戦の紅組司会を務めた。



# 公益社団法人日本演劇協会

## Japan Theatre Arts Association (JTAA)

当会は1920年（大正9年）に菊池寛・山本有三両氏を中心として組織された「劇作家協会」を母体とし、1951年（昭和26年）4月に設立されました。2013年（平成25年）4月には内閣府より公益社団法人の認可を受け、演劇（劇放送を含む）の向上発展を図り、芸術及び文化の高揚に寄与するとともに演劇関係者の社会的地位の確立を目的とし活動しています。

### ～沿革～

- ・1920年（大正9年）  
菊池寛・山本有三両氏を中心に「劇作家協会」が組織される
- ・1941年（昭和16年）  
久保田万太郎・高田保を中心に「（第一次）日本演劇協会」が設立される
- ・1945年（昭和20年）  
第二次世界大戦終戦と同時に解散
- ・1946年（昭和21年）  
新たに「劇作家組合」として組織される
- ・1951年（昭和26年）4月  
「（第二次）日本演劇協会」と改称
- ・1953年（昭和28年）12月  
「社団法人」の認定を受け、「一般社団法人日本演劇協会」となる
- ・2013年（平成25年）4月  
内閣総理大臣より「公益社団法人」の認定を受け、現在に至る

### ～歴代会長～

- |            |                           |
|------------|---------------------------|
| 初代：久保田 万太郎 | 1951年（昭和26年）～1963年（昭和38年） |
| 二代：北條 秀司   | 1964年（昭和39年）～1993年（平成5年）  |
| 三代：河竹 登志夫  | 1993年（平成5年）～2007年（平成19年）  |
| 四代：植田 紳爾   | 2007年（平成19年）～             |



〒104-0045東京都中央区築地4-1-1東劇ビル17階  
info@jtaa.or.jp

Tel : 03-3541-2025 / FAX : 03-3541-2026

